

第3章 カナダの国際教育¹

はじめに：カナダの社会・文化的状況

カナダは長年にわたって世界中から移民を受け入れてきた国であり、現在の人口の約 25%にあたる 830 万人以上が移民²であることが国勢調査から判明している。

同国の移民の歴史は 1869 年に制定された最初の「移民法」から始まるが、当初は天然資源の世界的高騰が原因となって、それが豊かなカナダに目を向けた人々の移住であった。その後、徐々にカナダ領土をアメリカから守るための西部開拓へと変化していった。この時代の移民は主としてイギリス、スカンジナビア諸国、ウクライナなどからであった。

20 世紀に入り、二つの世界大戦の後には、カナダ政府は経済発展という観点から全土での人口増加と同時に労働市場における労働力需要を満たすという二つのことを重視し、世界中から移民を受け入れるようになった。しかしながら、1950 年代に入ると排他的な移民政策が採られ、特にアジア系人種のカナダ移住は大きく制限された。ただ、建国 100 周年を迎えた 1967 年には移民のポイント制³と普遍原理が導入され、その後 1970 年代半ばには難民受け入れも積極的に行われるようになり、世界中から移民がやってくるようになった。この後、政府は国全体の経済的発展を考慮しながら、精緻な移民カテゴリーを設定することで、国内産業における需要を満たす広範な知識と経験を有する移民を優遇する政策を採りながら現在に至っている。

本調査対象であるオンタリオ州もカナダを代表する移民を基盤とした州の一つである。その歴史を辿ると 19 世紀のイギリスからの入植に始まり、第一次世界大戦後のイタリア系ヨーロッパ人の入植、そして 20 世紀半ば以降には世界各地からの大量移民によって、同州の主要都市トロントでは、現在は少数民族グループが多数を占めるようになってきている。このため、こうした移民に対する社会福祉サービスは欠かせないものとなっており、住宅、教育、就業などにわたって幅広い州政府による支援プログラムが提供されている。

なお近年、ある民族グループの移民はカナダ社会への適応が難しいことや民族街の形成によって人種差別が起こっていること、また一部のカナダ国民の移民に対する反感などが社会的な問題となってきたことも事実である。



出典：調査団作成。

図 3-1 カナダの州及び準州（10 州・3 準州）

¹ 本章においては、「国際教育」という用語を主として用いるが、カナダ・オンタリオ州現地の教育状況の説明においては、同地で使われている「グローバル教育」や「グローバル・シティズンシップ教育」などの用語を適宜用いる。

² カナダ統計局が定義する「移民」とは、永住権取得者や過去に永住権を取得後、帰化によってカナダ国籍を取得した人が含まれる。他方、永住権取得者のカナダ生まれの子どもや就労ビザ、就学ビザなどによる滞在は含まれない。

³ 「ポイント制」とは、従来のように出身地域や民族による選定ではなく、地域や民族に関係なく全人類を受け入れの対象とする普遍原則に基づいている。年齢、学歴、語学力、就労経験などを基準に沿ってポイント化し、そのポイントによって移民の受け入れ可否を判断するという制度である。カナダだけでなく、本報告書で取り上げるイギリス、オーストラリアの移民政策においても採用されている。

3-1 カナダの教育概要

3-1-1 教育制度

(1) カナダの教育制度の概要

10州3準州から構成される連邦制国家であるカナダでは、1867年憲法に基づき、教育に関する権限は、各州・準州に委ねられており、全国に22の教育を担当する省が設置されている⁴。そのため、それぞれの教育法制に基づいた教育制度となっており、一つの国の中に13の教育制度が存在している。連邦政府の中に全国の教育を所管する省庁は設置されていないが、カナダ教育担当大臣協議会（Council of Ministers of Education, Canada : CMEC）において教育に関する共通の懸案事項の討議を行うなど、州・準州間の情報交換や調整・協力関係が築かれている。

各州・準州の教育省のもとには、自治体や地域別に教育委員会が設置されており、初等中等教育段階の公立学校の設置、維持・管理や教育課程基準の適用など、多くの裁量が委ねられている。少数派の住民の宗教的・言語的権利を守るという1867年憲法の規定に基づいて宗教的少数派の学校教育が、1982年憲法に基づいて言語的少数派の学校教育が、それぞれ権利として保障されている。そのため、地域によっては少数派の言語や宗教に応じて独立した教育委員会が設置されている。委員の選出方法は、多くの州・準州において公選制が採用されている。先住民族など特定の当事者グループを代表する者や児童生徒を教育委員会の追加委員として任命される場合もある。また各学校には、保護者や地域住民、児童生徒の意見を学校運営に反映させるための合議制機関（学校協議会や保護者協議会など）が置かれている。このように、教育行政と学校運営の双方において民意を直接的に反映できる制度となっている（平田、2020）。

義務教育は、5、6歳から15～18歳までの10年から12年間の義務教育期間が設定され、義務教育は無償とされている。各学校段階の修業年限は州によって異なり、初等学校の修業年限は5年制、6年制、7年制、8年制と州によって異なる。中等学校の修業年限もそれに応じた年限となっている。州内においても、州の基本的な学校制度とは異なる年限の学校が設置されている場合もあるなど、多様な制度となっている。

なお、中等学校修了証書取得（卒業）要件の一つとして、ブリティッシュ・コロンビア州とオンタリオ州では、卒業試験が課されている。ブリティッシュ・コロンビア州では、第10学年に読解・作文（2018年より）と数学（2019/20年学校年度より）の試験が、第12学年に読解・作文（2021/22学校年度より）の試験が、オンタリオ州では、10年生を対象にオンタリオ州中等学校識字テスト（Ontario Secondary School Literacy Test, OSSLT）が2000年より実施されている⁵。

(2) オンタリオ州の学校教育制度

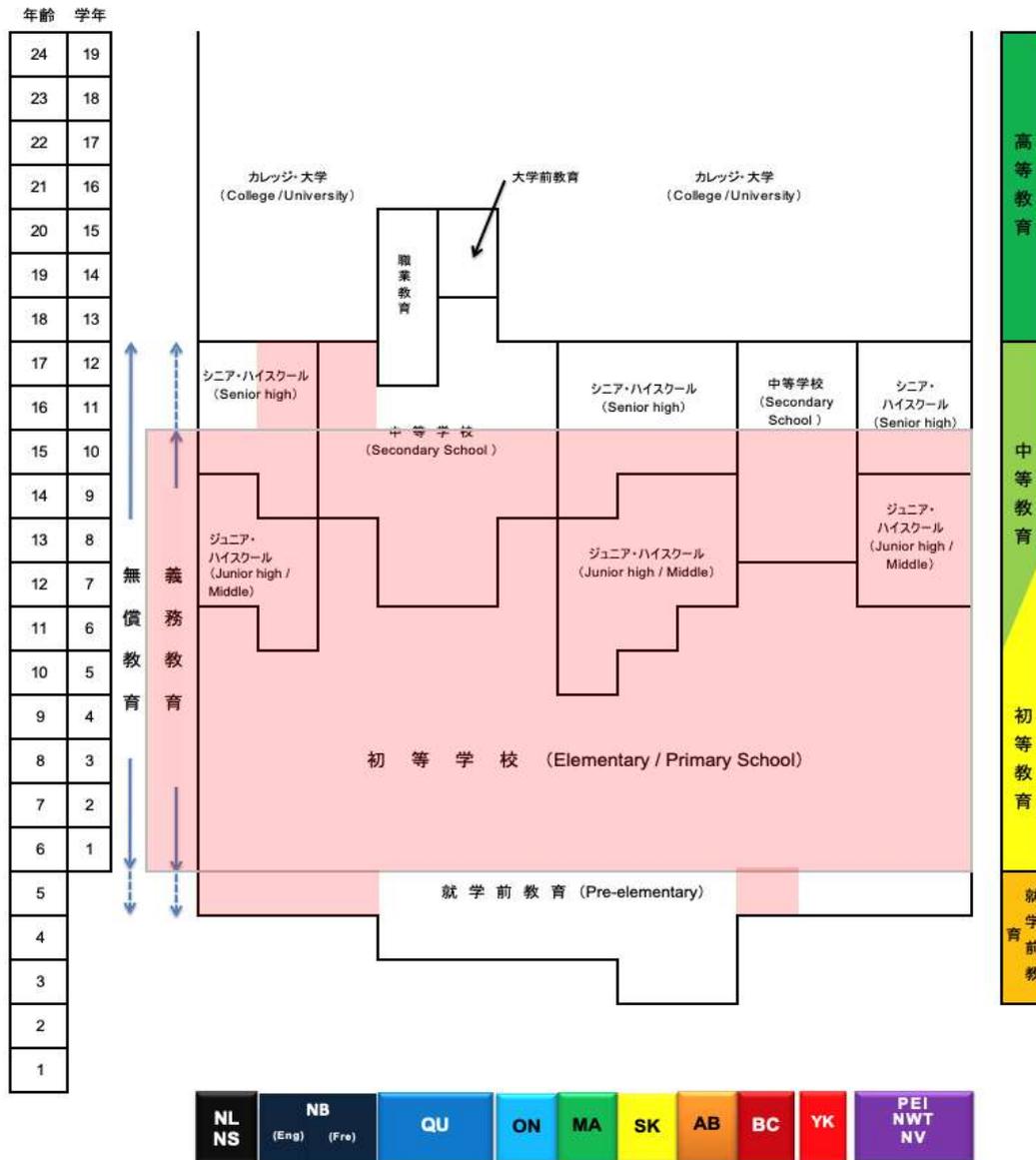
本調査の対象であるオンタリオ州では、州教育省は州内を六つの地区に分け、それぞれに地方事務所（Regional Office）が置かれている。各地方事務所は、その地区内にある教育委員会を管轄している。州内には、72の教育委員会（31の英語系公立教育委員会、29の英語系カトリック教育委員会、4のフランス語系公立教育委員会、8のフランス語系カトリック教育委員会）が設置されている。これ以外に、教育事務所の管轄外になるが病院などの医療機関の学校やへき地や人口が少ない地域の学校を運営する教育当局（School Authorities）が10設置されている（Ontario Ministry of Education, n. d.）。

オンタリオ州では、就学義務年齢は6歳から18歳までと規定されており、学校年度は9月1日から翌年6月末日までとされている。学校段階は、基本的にはJK（Junior Kindergarten）とK（Kindergarten）から8年生までが小学校（Elementary Schools）、9年生から12年生までが中等学

⁴ 初等中等教育と高等教育の担当省庁が別に設けられている州があるため、州・準州の数よりも多くなっている。

⁵ この他の卒業要件として、30単位習得すること（必修18単位、選択12単位）、40時間の地域での活動がある。

校（Secondary Schools）となっているが、地域によっては、6年生までを小学校とし、7～8年生までを中学校（Intermediate Schools/Middle Schools）、9～12年生を中等学校とする学校もあり、州内においても多様である（Toronto District of School Board, n.d.）。



注1：NL:ニューファンドランド・ラブラドール州、NS:ノバスコシア州、NB (Eng):ニューブランズウィック州 (英語圏)
 NB (Fre):ニューブランズウィック州 (仏語圏)、QU:ケベック州、ON:オンタリオ州、MA:マニトバ州、SK:サスカチュワン州
 AB:アルバータ州、BC:ブリティッシュ・コロンビア州、YK:ユーコン準州、PEI:プリンス・エドワード・アイランド州
 NWT:ノースウエスト準州、NV:ヌナブト準州

注2： の部分は義務教育期間を表す

出典：調査団作成。

図 3-2 カナダの教育制度

上述したように、オンタリオ州ではオンタリオ州中等学校識字テスト（OSSLT）が実施されている。9年生までに各教科をまたがって必要とされる「リテラシー」を身に付けているかどうかを測定し、その結果は合否で判定される。

3-1-2 教育課程の構造と内容及びその特徴（教育内容の扱いと資質・能力との関係）

(1) 教科の編成

本調査で対象としたオンタリオ州では、州統一カリキュラムである「オンタリオ・カリキュラム (Ontario Curriculum)」のもと、就学前教育プログラム（英語とフランス語各1科目）に続いて、初等学校（1年生から8年生）は、英語系教育委員会が設置する学校は8科目、フランス語系教育委員会が設置する学校は11科目が設置されている。また、中等学校（9年生から12年生）は、20の英語による教科と21のフランス語による科目が設置されており、これらにはそれぞれ複数のコースが置かれ、合計300以上のコースが設置されている。

初等学校（1～8年生）における教科の編成（英語による科目）

芸術、第二言語としてのフランス語（イマージョン：1～8年生、コア：4～8年生、発展（Extended）：4～8年生）、保健体育、言語、算数、先住民の言語、科学と技術、社会科（社会科：1年生～6年生、歴史：7～8年生、地理：7～8年生）

授業時間数は、「1年生から8年生までの算数指導の時間の確保に関する政策覚書」（Protected Time for Daily Mathematics Instruction, Grades 1 to 8,

Policy/Program Memorandum 160）に基づき、1日に5時間（300分）とすることが定められている。算数を除き、各科目の授業時間数は特に定められていない⁶。算数については、2016年より、1年生から8年生までは毎日60分（少なくとも40分）の授業時間を確保することが定められている。

(2) カリキュラムの構成

オンタリオ州のカリキュラムは、日本の学習指導要領のように学校段階別に全教科の教育課程が1冊にまとめられる形ではなく、初等学校と中等学校、加えて教科毎にそれぞれのカリキュラムが別々に示されている。ここでは、2023年に一部改訂された初等学校（1年生から8年生）の「社会と歴史・地理」のカリキュラム（以下、「社会」と略記）を例に、カリキュラムの構成について説明する。

各教科のカリキュラムの前半は、「教育課程の編成にあたって考慮すべき内容」「教科横断的・統合的学習」「転移可能なスキル」「評価」という項目のもと、全ての教科に共通する内容が述べられている。それに引き続き、後半が「社会」の教育課程にあたる部分になっており、教科の目的や目標、教科の意義、教科の見方・考え方、教育課程編成上の留意事項、学習評価などに続いて、学年別に、目標と内容、教員による発問の例、そして、1年生から3年生までについては、児童が自身と学習内容を関連付けた場合に出されると考えられる児童の発言の参考例が示されている。

「社会」の学習内容は、1年生から8年生まで共通した二つのストランド⁷である「A. 遺産とアイデンティティ」と「B. 人と環境」を軸に構成されている。各ストランドに関連したテーマが学年毎に設定されており、それぞれのテーマのもと、学習内容が「応用」「探究」「文脈の理解」という三つのセクションに分けて示されている。それぞれのセクションには、児童が各学年終了時まで習得することが期待される知識とスキルを概説した全体目標（Overall Expectations）と、習得が期待される知識とスキルをより詳細に説明した具体的目標（Specific Expectations）が設定されている。これらの目標が、カリキュラムの内容の基準（Content Standard）を示すものとなっている。

カリキュラムには、それぞれの全体目標について学習することを通して身に付ける「ビッグアイデア（Big Ideas）」が明示されている。ビッグアイデアとは、「児童生徒が学習した内容の詳細の多くを忘れた後も深く掘り下げて保持してもらいたい概念」とされており、「なぜこの内容を学ぶのか」「これはどのような意味があるのか」といった基本的な質問に答えることができるものと位置付けられている。ビッグアイデアの多くは、他の学習内容や、人生そのものにも応用可能なものであり、多

⁶ 教育委員会によっては、授業時間のモデルを設定している場合もある。

⁷ 「ストランド」とは教育課程の構成においてよく使われる用語であり、日本語でも「ストランド」とそのまま用いることが多い。なお、この意味は「要素」や「構成要素」を表す。

くの場合、児童生徒が教科などを超えて統合的に考える機会を提供するものであると位置付けられている。また、ビッグアイデアについて考えることは、情報を受動的に受け止めるのではなく自ら考え、理解を深めることに繋がるものであるとされている。

表 3-1 ビッグアイデアの例
(6年生ストランドB「人々と環境:カナダのグローバルコミュニティとの相互作用」)

全体目標	ビッグアイデア
B1. (6年生の終わりに児童は) 地球規模の問題に取り組む上で国際協力の重要性を説明し、国際舞台におけるカナダおよびカナダ国民による行動の効果について評価する。	カナダとカナダ人の行動は世界に変化をもたらすことができる。
B2. (6年生の終わりに児童は) 社会科の探究のプロセスを利用して、政治的、社会的、経済的および/または環境的に重要な地球規模の問題、コミュニティへの影響、問題への対応について調べる。	地球規模の問題には地球規模の行動が必要である。
B3. (6年生の終わりに児童は) このことへ関与することによる影響を含む、世界の一部の地域におけるカナダとカナダ人の関与の重要な側面について説明する。	カナダとカナダ人はさまざまな方法で世界に参加している。

出典：Ontario Ministry of Education, 2023, p. 70。なお括弧内の記述は本節担当の調査メンバーによる。

カリキュラムには、内容の基準だけではなく、評価の手掛かりとなるパフォーマンスの基準 (Performance Standard) も示されている。パフォーマンスの基準は、各教科・科目の達成チャート (Achievement Chart) というルーブリックに示されている。達成チャートには、児童生徒の到達度を評価する枠組みとして、1年生から8年生に共通した基準が設定されている。児童生徒の到達度は、「知識と理解」「思考力」「コミュニケーション」「応用」という四つのカテゴリー別に4段階で評価される (次頁の表 3-2 参照)。

(3) カリキュラムに示されている資質・能力

現在のカリキュラムには、「学習スキルと学習習慣 (Learning Skills and Work habits)」、「転移可能なスキル (Transferable Skills)」、「社会・情動的学習スキル (Social-Emotional Learning Skills)」という三つの資質・能力観が示されている。これらはそれぞれカリキュラムに含まれたタイミングが異なる。

三つの資質・能力観の中で最も早く、2010年に含まれるようになったのが「学習スキルと学習習慣」である。これは、教育省と人材開発省による「オンタリオ・スキル・パスポート (Ontario Skills Passport)」で示された必須スキル (Essential Skills)、カナダ協議委員会 (Conference Board of Canada) で示された就業可能スキル (Employability Skills)、OECDのDeSeCoプロジェクト⁸によるキー・コンピテンシー、コスタ (A. Costa) とカリック (B. Kalick) らによる「心の習慣 (Habits in Mind)」などを参考にするなど、それまでに開発されてきた資質・能力が採用され、定義されたものである (Ontario Ministry of Education, 2010)。

「学習スキルと学習習慣」は、「責任感 (Responsibility)」「自己管理能力 (Organization)」「課題解決能力 (Independent Work)」「コラボレーション (Collaboration)」「学習への積極性 (Initiatives)」「自律性 (Self-Regulation)」という六つの項目で構成されている。カリキュラムでは、それぞれの項目について望ましいとされる行動や態度の例が示されるのみに留まっている。教員は各児童生徒について、これらの観点から評価し、成績表に記述することによって保護者に対して学習状況の報告を行う。なお評価にあたっては、教科の学習内容に含まれる可能性があるものを除き、可能な限り、成績評価において考慮されるべきではないとされている。

⁸ 国際化と高度情報化の進行とともに多様性が増した複雑な社会に適合することが要求される能力概念である「コンピテンシー」を、国際的、学術的かつ政策指向的に研究するため、経済協力開発機構 (OECD) が組織したプロジェクトである。「Definition and Selection of Competencies」の略である。

表 3-2 社会科の達成チャート

知識と理解 - 各学年で習得した教科特有の内容(知識)とその意味・意義の理解(理解)				
カテゴリー	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
内容に関する知識(例:事実、用語、定義)	児童生徒は: 内容について限られた知識を習得している	内容についてある程度の知識を習得している	内容についてかなりの知識を習得している	内容について十分な知識を習得している
内容の理解(例:概念、アイデア、理論、相互関係、手順、プロセス、方法論、空間技術など)	内容について限られた内容を理解している	内容についてある程度理解している	内容についてかなり理解している	内容について十分に理解している
思考力 - 批判的かつ創造的な思考スキルや/またはプロセスの使用				
カテゴリー	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
計画スキルの使用(例:探究の計画、質問の作成、データやエビデンス、情報の収集と整理、目標の設定、研究の焦点化)	効果が限定的な計画スキルを使用する	ある程度効果的な計画スキルを使用する	かなり有効な計画スキルを使用する	高い効果がある計画スキルを使用する
データを処理するスキルの使用(例:データやエビデンス、情報の解釈・分析・合成や評価、地図の分析、視点とバイアスの検討、結論の検討)	効果が限られた処理スキルを使用する	ある程度効果的な処理スキルを使用する	かなり効果的な処理スキルを使用する	高い効果がある処理スキルを使用する
批判的/創造的思考プロセスの使用(例:教科の見方・考え方の応用、探究や問題解決、意思決定のプロセスの使用)	効果が限られた批判的/創造的思考プロセスを使用する	ある程度の効果がある批判的/創造的思考プロセスを使用する	かなり効果がある批判的/創造的思考プロセスを使用する	高い効果がある批判的/創造的思考プロセスを使用する
コミュニケーション - さまざまな形式で意味を伝えること				
カテゴリー	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
口頭、視覚、記述によるアイデアや情報の表現と整理(例:明確な表現、論理的な整理など)	効果が限られたアイデアや情報を表現および整理する	ある程度の効果を持ってアイデアや情報を表現し、整理する	かなり効果的にアイデアや情報を表現し、整理する	アイデアや情報を高い効果で表現し、整理する
さまざまな対象者(例:仲間、大人)や目的(例:情報を伝える、説得する)に向けた、口頭、視覚的、記述によるコミュニケーション	さまざまな対象者や目的に向けてコミュニケーションを行うが、効果が限られている	さまざまな対象者や目的に向けてある程度の効果を持ってコミュニケーションをとる	さまざまな対象者や目的に向けてかなりの効果を持ってコミュニケーションをとる	さまざまな対象者や目的に向けて、高い効果を持ってコミュニケーションをとる
口頭、視覚、記述による慣習(マッピングやグラフ作成上の慣習、コミュニケーション上の慣習など)、語彙、専門用語の使用	効果が限られた慣習、語彙、用語を使用している	慣習、語彙、用語をある程度効果的に使用する	慣習、語彙、用語をかなり効果的に使用する	慣習、語彙、用語を高い効果で使用する
応用 - さまざまな文脈に当てはめたり関連づけたりするための知識やスキルの使用				
カテゴリー	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
知識とスキル(例:概念、手順、空間スキル、プロセス、技術)を馴染みのある文脈で応用する	馴染みのある状況に知識やスキルを応用するが、効果は限られている	馴染みのある状況に知識やスキルを応用し、ある程度の効果をもたらす	馴染みのある状況に知識やスキルを応用し、かなりの効果をもたらす	馴染みのある状況に知識やスキルを応用し、高い効果をもたらす
知識とスキル(例:思考の概念、手順、空間スキル、方法論、技術)を新しい文脈に転用する	知識とスキルを新しい文脈に転用するが、効果は限られている	知識とスキルを新しい状況に転用し、ある程度の効果がみられる	知識とスキルを新しい状況に転用し、かなり効果的がみられる	知識とスキルを新しい状況に転用し、高い効果がみられる
さまざまな文脈に関連づける(例:研究対象のトピック/問題と日常生活、学問領域、過去・現在・未来の文脈、異なる空間的、文化的、または環境的文脈、関連する問題に対する提案や行動の実行)	さまざまな文脈に関連づけるが、有効性は限られている	さまざまな文脈に関連づけ、ある程度の効果がみられる	さまざまな文脈に関連づけ、かなり効果がみられる	さまざまな文脈に関連づけ、高い効果がみられる

出典: Ontario Ministry of Education, 2023, pp. 87-88.

次に登場したのが、2019年に改訂された保健体育のカリキュラムに示され、全教科においても同時に含まれるようになった「社会・情動的学習スキル」である。2019/20 学校年度以降、オンタリオ州の学校では、メンタルヘルスについての学習が保健体育をはじめとする全てのカリキュラムや児童生徒の学校生活を通して行われるようになった。社会・情動的学習スキルは、児童生徒の精神的健康と健全な発達にとって非常に重要であるものと位置付けられ、児童生徒が自分自身の全体的な健康と幸福、前向きな精神的健康、レジリエンス(強靭さ)、学習し成長する力の育成に役立つものとされている。

表 3-3 社会・情動的学習スキルの概要

内容	スキルを身につけることによりできるようになること
感情の管理	自分の気持ちを表現し、他人の気持ちを理解する
ストレスの対処	レジリエンスを高める
前向きな動機	希望を持ち、目標に向かって努力し続ける意志を育む
関係構築	健全な人間関係を支持し、多様性を尊重する
自己意識の深化	自身のアイデンティティを構築し、所属感を持つ
批判的、創造的思考	意思決定と問題解決を行う

出典：Ontario Ministry of Education, 2023, p. 34。

そして第三に、2020年に改訂された数学のカリキュラムにおいて詳細な説明が加えられたのが「転移可能なスキル」である。これらはオンタリオ教育省が、国際調査や会社経営者から収集した情報、他州との協力のもとに概念化されたものであり、児童生徒が現代社会で成功するために必要なスキルと属性を示したものである。これらの転移可能なスキルは、『21世紀のコンピテンシー：議論のための基礎文書（21st Century Competencies: Foundation Document for Discussion）』（Ontario Ministry of Education, 2016）に示された「21世紀型コンピテンシー」に基づいており、CMECが定義した「汎カナダ・グローバル・コンピテンシー（Pan-Canadian Global Competencies）」（CMEC, 2020）にも沿うものである（Ontario Ministry of Education, 2023）。転移可能なスキルは、「批判的思考と問題解決」「イノベーション、創造性、起業家精神」「自律的学習（Self-directed Learning）」「コラボレーション」「コミュニケーション」「グローバル・シティズンシップと持続可能性」「デジタル・リテラシー」という（コンピテンシーと同等とされる）七つのスキルで構成されている。

転移可能なスキルを高めることは、ある状況で学んだ内容を他の新しい状況においても応用するという「転移のための学習」（Learning for Transfer）を行うことを意味する。児童生徒は、カリキュラムのすべての科目と分野で転移のための学習を行い、どの学年や科目においても学んだ内容を慣れ親しんだ文脈や新しい内容にあてはめて考えたり応用したりする（前頁の表3-2の「応用」欄参照）。その年齢や学年に応じた方法で、カリキュラムの全ての科目における認知的、社会的、感情的、身体的学習を通して、学年を通じて転移のための学習は進められるとされている（Ontario Ministry of Education, 2023）。

このような転移のための学習を進めるにあたり鍵となるのがビッグアイデアであると考えられる。ビッグアイデアは、幅広く抽象的な内容であるが故に、学年や学習内容を超え、他の状況に関連付けたり、応用しながら考える契機を与えてくれるものであると言えるだろう。

以上のように、カリキュラムには三つの資質・能力観が示されているが、これらはそれぞれが独立したものではない。社会・情動的学習スキルの向上は、児童生徒は「転移可能なスキル」（例えば、自主学習、コラボレーション、批判的思考、コミュニケーション、イノベーション）も獲得し、目標設定とやり遂げを学ぶにつれて「学習スキルと学習習慣」も身に付け、課題を克服するとされている。これらの相互に関連した資質・能力を組み合わせることにより、児童生徒のウェルビーイング、学習やレジリエンスが促進されるとしている（Ontario Ministry of Education, 2023）。

表 3-4 転移可能なスキルのカテゴリー（コンピテンシー）

カテゴリー (コンピテンシー)	定義
批判的思考と問題解決	批判的思考と問題解決とは、複雑な問題や課題を提示するために信頼できる情報を特定し、分析し、解釈し、情報に基づいた判断と意思決定を行い、効果的な行動を起こすことを意味する。批判的思考スキルがあれば、問題解決が世界にポジティブなインパクトを与える可能性があるという認識が生まれ、このことは、建設的で思慮深い市民としての可能性を發揮するのに役立つ。学習は、本物で意味のある現実世界での経験の中で行われると、さらに深まる。
イノベーション、創造性、起業家精神	イノベーション、創造性、起業家精神は、コミュニティのニーズを満たすために、アイデアを行動に移す力を指す。これらのスキルには、経済・社会・環境に関する問題に対する革新的な解決策に向けて、概念やアイデア、または製品を開発する力が含まれる。これらのスキルを身につけるためには、リーダーシップの役割を引き受け、リスクを負い、新しい戦略や技術、視点を求めて型破りな思考に取り組む意欲が含まれる。起業家は、持続可能な成長のためのアイデアを構築し、拡張することの重要性を理解している。
自律的学習 (Self-Directed Learning)	自律的学習とは、自分自身の学習プロセスを認識し、管理することである。これには、モチベーション、自己管理、忍耐力、適応性、レジリエンスの気質の高める必要がある。またそのためには、自分自身の学習する力を信じる考え方を深めることが必要である。ここでいう学習する力には、目標に向けて計画を立て、振り返り、進捗状況を確認すること、また、次のステップや戦略、結果を検討することも必要である。自己省察や自らの思考について考えること（メタ認知）は、生涯学習や適応能力、ウェルビーイング、そして絶えず変化する世界において学習を転移する能力を支えるものである。
コラボレーション	コラボレーションは、他者と効果的かつ倫理的と協働するために必要な認知能力（思考と推論）、対人能力、および自己の能力の相互作用である。これらのスキルは、他余蘊状況において、他者と知識や意味、内容を協働で構築する際、これらのスキルを応用するにつれて高まる。
コミュニケーション	コミュニケーションとは、さまざまな文脈や聴衆、目的のもとで、（例えば、読み書き、見たり作成したり、聞いたり話したりすることを通して）意味を受け取ったり表現したりすることである。効果的なコミュニケーションのためには、ローカルおよびグローバルな視点と社会的および文化的背景を理解し、さまざまなメディアを適切に、責任を持って安全に使用することがますます重要になっている。
グローバル・シティズンシップと持続可能性	グローバル・シティズンシップと持続可能性とは、相互につながり、依存する世界において持続的に生きていくため、政治、環境、社会などの問題に効果的に対処し、多様な世界観や視点を理解することである。また、世界の人々や、視点の多様性を理解するとともに、市民に必要な知識、モチベーションやスキルを習得する。すべての人にとってより良く、より持続可能な未来を思い描き、それに向けて取り組む。
デジタルリテラシー	デジタルリテラシーは、安全で合法に、また倫理的に責任のある方法でテクノロジーを使用し問題を解決する力である。デジタル化とビッグデータの役割が拡大し続ける中、データリテラシーのスキルと新興テクノロジーを活用する力が必要である。デジタルリテラシーのある児童生徒は、お互いに繋がらあうデジタル世界で生活し、学び、働くことに伴う権利と責任、および機会について認識している。

出典：Ontario Ministry of Education, 2023, pp. 36-40 をもとに作成。

3-1-3 教育実施体制

州で定められたカリキュラムを各学校での実践に繋げていく手立てとして、オンタリオ州では、教育省、教育委員会、各学校のそれぞれのレベルにおいていくつかの取り組みが行われている。ここでは、近年実施されている動向を紹介する。

(1) 教員研修の実施

教育省の策定したカリキュラムやその他の教育政策に関する情報を直接的に伝える伝統的な手段の一つとして研修の実施が挙げられる。教育法 8(1)28 において、大臣は「規則で義務付けられている研修日 (Professional Activity Days、以下、PA デーと略記) の基準とテーマに関する方針とガイドラインを策定し、教育委員会にはその方針とガイドラインを遵守することを求めることができる」と規定されている。ここでいう「教員の研修 (Professional Activity)」には、児童生徒の評価、保護者との面談、児童生徒との面談、カリキュラムやプログラムの開発や評価、教員の専門性の向上や学会などの参加が含まれる。

教育法に基づいて制定された「学校暦と研修日に関する規則 (School Year Calendar, Professional Activity Days, R.R.O. 1990, Regulation 304)」において、PA デーは、教育委員会が学校年度あたり 3 日間、学期中に設定することになっている。また、PA デーは、学期中に設定され、その日の授業は休講とし、教員は半日を研修プログラムの受講にあて、残りの半日は上記のような研修にあてられる。このような PA デーは、年間最大 4 日間の研修日を追加することができるが、その場合は、カリキュラムの開発や導入、評価に関する研修内容を計画することが求められている。ただし、授業準備などにはあてないとされている。

「学校暦と研修日に関する規則」のもとに制定された「州の教育優先事項に特化した研修日に関する政策覚書 (Professional Activity Days Devoted to Provincial Education Priorities, Policy/Program Memorandum No. 151, July 28, 2023)」に基づき、各教育委員会は、次の学校年度に向けて、毎年 3 月 1 日までに教育省に次学校年度の授業日、PA デー、休業日を示した学校暦を提出する。それが承認された後、8 月 15 日までに PA デーで実施する研修の概要を提出することが義務付けられている。研修のテーマは、州のレベルで年度毎に決められており、2023/24 学校年度は、「リテラシー (読み書き能力) と数学」「カリキュラムの実施」「児童生徒の福祉、学校の安全、暴力の防止」という三つのテーマが設けられている。「カリキュラムの実施」については、新規または新たに改訂されたカリキュラムを取り上げるべきとしている⁹。

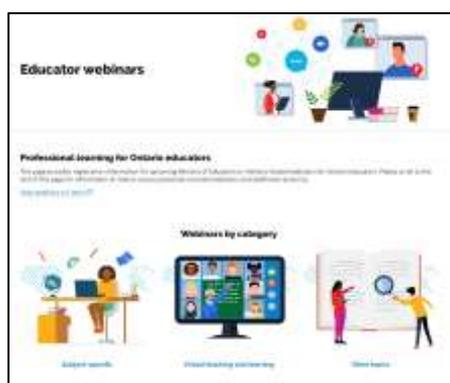
なお、保護者に対する透明性を確保するという目的のもと、2023/24 年度より、各教育委員会には、研修日の 2 週間前までに教育委員会や各学校のホームページにおいて、研修の内容の詳細 (日程、テーマ/トピック、講師、資料など) について掲載することが義務付けられている。

このように、各教育委員会で実施される研修は、全教員が受講することを義務付けられており、その内容は教育省によって、予め内容が指定されているものである。付加的に行われる研修についても、カリキュラムに関する内容とするなど、対象がある程度指定されている。実施状況についても学校年度開始前に確認がなされた上で実施されるなど、回数は決して多くはないものの、教育省が研修として取り上げる必要があると判断される内容が、確実に学校現場において研修として実施される制度となっていると言えるだろう。

(2) 教育省によるウェビナーの開催

上記のような年間の教育計画に組み込まれた研修 (PA デー) のほか、教育省では、カリキュラムの改訂内容や各教科における評価など、教科や対象別のウェビナーを随時開催している。ウェビナーの開催日時などは教育省のホームページで公開されており、各教員は、自身の興味関心に沿って申し込むことができる。多くの場合、各ウェビナーは 90 分程度となっており、指定された日時に受講できなかった場合や過去に開催されたウェビナーについても録画を確認することが可能となっている (Ontario Ministry of Education, n. d. a)。

各ウェビナーでは、教員のニーズや意見など、フィードバックを得る機会にもなっている。例えば、2021 年 3 月に開催された数学に関するウェビナーにおいて出された、金融リテラシーやコーディングなどに関する授業計画の例示に対するフィードバックを受け、9 年



出典：教育省ホームページ。

ウェビナーについて周知する教育省のサイト

⁹ 具体的には、「言語/フランス語」(1年生から8年生)及び新しく設置された「英語/フランス語」、先住民に焦点をあてた「社会」の改訂(1年生から3年生)、6年生「社会」におけるホロコースト教育に関する新しい学習、10年生の「コンピュータ学」(変化する世界におけるデジタル技術とイノベーション)、熟練した職業や見習いとつながり、「数学」「科学」「技術教育」における継続的な専門学習が挙げられる (Professional Activity Days Devoted to Provincial Education Priorities, Policy/Program Memorandum No. 151, July 28, 2023)。

生の「数学」の長期計画や授業計画が掲載されたり、その他の教科についても、要望に基づき実践事例が資料として掲載されるなどしている（Office of the Auditor General of Ontario、2022）。

このようにウェビナーの開催により、単に教育省から各教員に働きかけるだけではなく、教員の方からも、教育省に意見や要望を伝えるという、双方向に直接的なやり取りが可能になっている。また、そのことにより、効果的な実施の支援を行っていると言えるだろう。

(3) カリキュラムに関する資料の公開

オンタリオ州教育省は2020年6月より、教育省ホームページ上にすべてのカリキュラムと、カリキュラムに関連する資料を掲載している。ホームページ上で最新のカリキュラムが閲覧可能であるほか、改訂されたカリキュラムの主な変更点の概要や新旧カリキュラムの比較表を公開するなど、随時改訂されるカリキュラムの内容を即座に確認することが可能となっている。また、学年や科目を予め指定してカリキュラムを閲覧することができたり、それらをダウンロードする際も、必要な項目のみを選択して行うことが可能になっているなど、利用する側の利便性を重視した構造となっている。

ホームページ上では、教育関係者だけではなく、保護者や児童生徒に向けた資料も公開されている。具体的には、保護者に対しては、保護者向けのカリキュラムガイドが掲載されており、カリキュラムで期待される学習効果や子どもの学習をサポートする方法に関する情報が提供されている。また、児童生徒に対しては、主に中等教育学校の生徒を対象に、科目の履修要件に関する資料や金融リテラシーについてのモジュールに関する資料などが掲載されている（Ontario Ministry of Education、n.d.b）。

このように教育省は、カリキュラムに関する情報をあらゆる関係者に対して広く公開しており、また、それは利用者のニーズや利便性に即したものとなっている。



出典：教育省ホームページ。

保護者や児童生徒対象の資料を掲載する教育省のサイト

(4) 校長・教頭による授業計画の確認

各学校において、カリキュラムが効果的に実施されているかどうか、また各教員が教育課程に示された内容を指導しているかどうかを確認するために、これまで体系的なシステムは構築されてこなかった（Office of the Auditor General of Ontario、2020）。しかし、2022年以降、学校長と教頭が各教員の授業計画を確認することで、それを実施している教育委員会もある。

例えば、今回訪問したトロント地区教育委員会（Toronto District School Board: TDSB）では、2022年5月に、教員が校長または教頭に長期授業計画を提出すること、各教員が授業計画のバインダーを所有していることを確認する要件を追加した。これは、非常勤講師が必要になった際に備えるために実施されることになったが、このことを通して、学校長が長期計画を検討し、授業計画が教育省の示している目標や評価のガイドラインに沿っているかを確認している。また、この他にもオンタリオ州北東部地区教育委員会（District School Board Ontario North East）においても、2022年9月より、校長と副校長がすべての教員の長期計画を収集し、ファイルし続けることが義務付けられている（Office of the Auditor General of Ontario、2022）。

このように、いくつかの教育委員会においては、カリキュラムの実施状況について、各学校の管理職が定期的に確認をするという方法で、カリキュラムの実施状況を確認する方法が採用されてきている。

3-2 カナダの国際教育に関する教育政策・方針

3-2-1 国際教育・現代的諸課題¹⁰に関する基本政策・基本方針

カナダでは、初期のイギリスとフランスからの入植者集団間での激しい葛藤を経て、1960年代末にようやく「二言語二文化主義」の方針が採られるようになった。しかしながら1970年代に入ってから、イギリスやフランス以外の民族集団からも彼らの独自の文化の承認を求める声上がり、カナダ政府はその要求を受けて、「多文化主義政策 (Multiculturalism Policy of Canada)」を採択するに至った。これは、政治的に見れば世界初となる「二言語多文化主義 (Bilingualism and Biculturalism)」への第一歩でもある。そして、カナダの多文化主義政策は1988年の「多文化主義法 (Multicultural Act of 1988)」の制定によって明確に方向付けられるようになった。

近年においてはアジア諸国や中東諸国をはじめ、世界各地からの多様な文化的背景をもった移住者の増加に伴って「ニューカマー (New Commers)」を巡る問題が新たな発生し、従来のイギリスとフランスからの入植者集団を巡る問題及び先住民の問題に加えて、各民族集団間の差異や文化、アイデンティティの承認についての問題などが混じり合っており、より複雑化してきているという現状がある。

同国の国勢調査によれば、カナダの人口を構成する民族種は200以上に上り、英語とフランス語以外を母語とする言語数も200以上となっている。そして、全人口のうち外国生まれの人口が占める割合も20%を超えている。特に、先に触れた中東を含むアジアからの移住者が近年は圧倒的に多く、彼らの多くは大都市に居住しているため、こうした大都市の特定地域における人口比率において移住者集団が数の上で大多数を占めるという状況も見られるようになってきている。

以上のようなカナダの多文化主義政策に至るまでの歴史を年代順にまとめると次のようになる。そして、このような多文化主義を国是としている同国では、国際教育についても関心が高く、教育政策や教育方針の上で明確な位置付けがなされている。

表 3-5 カナダの多文化主義の発展史の概要

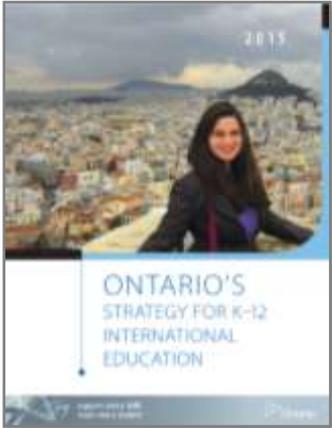
時期	政治的な動き	当時の首相
萌芽期	19世紀～20世紀初め： ・ アングロ・コンフォーミズム (イギリス優越主義) → 新移民はイギリス系社会への同化を強制 第二次世界大戦後： ・ 1947年 「市民権法」の施行 (移民もカナダ生まれのカナダ人も同等の地位と権利を有することが規定される) ・ 1948年 「世界人権宣言」に署名 ・ 1962年 「二言語二分化政策」 ・ 1967年 カナダ移民法から「人種差別条項」の撤廃	ピアソン首相 (在任期間 1963- 1968) 

¹⁰ ここで言う「現代的諸課題」とは、日本の文部科学省「学習指導要領 (平成29年告示) 解説 総則編」2017年の「付録6」で言及されている①伝統や文化に関する教育、②主権者に関する教育、③消費者に関する教育、④法に関する教育、⑤知的財産に関する教育、⑥郷土や地域に関する教育、⑦海洋に関する教育、⑧環境に関する教育、⑨放射線に関する教育、⑩生命の尊重に関する教育、⑪心身の健康の保持増進に関する教育、⑫食に関する教育、⑬防災を含む安全に関する教育、といった13の内容をもとに、特に国際教育に関連した内容として、次の4分野を指すこととする。⑦異文化理解、⑧国際関係・国際協力、⑨移民/多文化共生、⑩地球環境/気候変動、の四つである。

<p>形成期</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 1971年 「二言語多文化主義」宣言 • 1972年 国務省内に多文化主義担当大臣設置、1973年多文化省設置 • 各州で多文化主義法の制定（サスカチュワン、アルバータ、マニトバ、オンタリオ、ノバスコシア州）、ケベック州はインターカルチュアリズム（文化間主義）を法制化 • 1982年 新憲法（自主憲法）制定→多文化主義政策の制度化 <ul style="list-style-type: none"> • 1988年 「カナダ多文化主義法」制定 • 1991年 多文化主義・市民権省設置 	<p>トルドー首相 （在任期間 1968-1979）</p>  <p>トルドー首相（第2次） （在任期間 1980-1984）</p> <p>マルルーニー首相 （在任期間 1984-1993）</p> 
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

出典：宝利尚一「カナダ多文化主義の発展と今後の課題」北海学園大学人文論集18、2001、p.41-81を参考に調査団作成。

本調査において対象としたオンタリオ州では『オンタリオ州における K-12 国際教育のための戦略 (Ontario's Strategy for K-12 International Education)』という冊子が州教育省から2015年に出版され、この中で同州の学校教育における国際教育の位置付けが示されている。同冊子は30頁程度の比較的コンパクトなものであるが、ここには同州における国際教育についての政策及び方向性が明確に打ち出されており、非常に重要な内容であると言える。この冊子の内容は以下のようになっている。

<p>『オンタリオ州における K-12 国際教育 (International Education) のための戦略』の目次</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オンタリオ州における K-12 の国際教育の戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公的資金で実施される教育についてのオンタリオ州の目標との整合性 2. 国際教育 (International Education) とは何か？ <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバルな意識、知識、視点を発展させるオンタリオ州の児童生徒 ・ オンタリオ州に移住してくる外国人児童生徒 ・ 国内外での専門性を共有する教育者 ・ 教育課程と学習環境の国際化 ・ オンタリオ州教育課程の海外での活用 3. 国際教育 (International Education) をオンタリオ州が支援する理由 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の達成度と発達 ・ オンタリオ州にとっての社会的、文化的、経済的利益 ・ 州、州政府間、連邦政府の取り組みへの支援 4. K-12 の国際教育 (International Education) におけるオンタリオ州が目指す四つの目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ オンタリオ州の児童生徒の未来に向けた学び ・ オンタリオ州の K-12 外国人児童生徒への質の高い教育プログラム ・ オンタリオ州の教育専門性を共有し、発展させる機会 ・ オンタリオ州における中等教育後の進学、労働、生活についての道しるべ 5. 国際教育 (International Education) の戦略を成功に導くために 6. 参考文献 	 <p>出典：オンタリオ州教育省のホームページ。</p> <p>『オンタリオ州における K-12 国際教育のための戦略』</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

なお、上記の目次からこの冊子は外国からの留学生をオンタリオ州で受け入れることも「国際教育 (International Education)」の範疇に含まれるものと考えられており、留学生に関する記述もあるが、本調査での「国際教育」の定義とは異なるため、ここではその記述については省略し、本調査に直接的に関係する学校現場での国際教育の実践という点についての記述のみを順に見ていく。

【オンタリオ州の国際教育についての戦略】

- 幼稚園から12年生（K-12）までの児童生徒及び教育関係者が世界経済の中で成功するために必要とされるグローバルな能力（Global Competencies）及び知識や経験を習得する上で役に立つ国際的な文脈について考え、学ぶ機会を提供する。
- オンタリオ州及び世界の教育者間で専門性をより磨き、それを共有できる機会を提供する。
- オンタリオ州教育省は、学習における世界的な側面と課題を理解し、多様な視点と文化的経験の包括性と尊重を促進することによって、様々な文化や価値観をもった生徒間の公平性を目指す。また児童生徒が異文化を学習するための様々な機会は、公平性の問題に対する認識と感受性を高める機会を提供するとともに、児童生徒に自分自身の文化とは異なった他の文化についての貴重な洞察を与え、児童生徒自身の視点を広げることを可能とする。
(太字は調査団による)

出典：Ontario Ministry of Education, “Ontario’s Strategy for K-12 International Education”, 2015, p.5.

【国際教育とは何か】

- オンタリオ州の国際教育戦略は、同州の生徒に学習の国際的な側面の理解と評価、異なる文化や言語への接触など、オンタリオ州内外の両方においてグローバルな能力（Global Competencies）の開発の機会を提供する。このグローバルな能力は同省の『21世紀型教育・学習イニシアティブ（21st Century Teaching and Learning Initiatives）』の一環として構想されている児童生徒に習得して欲しいコンピテンシーとも一致する。またこの能力はオンタリオ州の幼稚園から12年生までの学校における「第二言語としてのフランス語」学習の目標とも一致しており、英語とフランス語のバイリンガルはカナダ国内において経済的、文化的遺産であると認識されている。
- オンタリオ州の英語・フランス語の教育委員会の管轄下にある学校の児童生徒は、「国際言語（International Languages）」を学び、他国の歴史、地理、芸術、文化について学ぶことが奨励されている。その学習によって自国及びその文化について新たな視点を得られる。児童生徒はより充実した学習体験を提供する交換プログラムを通じて海外留学の機会も提供される。異文化理解能力（Intercultural Competence）は9年生から12年生向けの「国際言語」の教育課程の一部でもある。さらに改訂された「第二言語としてのフランス語」の教育課程ではグローバル・シティズンシップの重要な側面として異文化認識（Intercultural Awareness）と理解の重要性が強調されている。教育課程のこうした特徴は、生徒が繋がりを作り、多様なフランス語圏のコミュニティや他のコミュニティと関わっていくのに役立つ。
(太字は調査団による)

出典：Ontario Ministry of Education, “Ontario’s Strategy for K-12 International Education”, 2015, pp.8-9.

【教育課程と学習環境の国際化】

- オンタリオ州の国際教育戦略の「国際化」とは、現在進行している国際的（International）かつ異文化間（Intercultural）、さらにグローバルな視点（Global Perspectives）での文化や経験を通じた学習の実践という学校教育プログラムと学習環境の変化として考える必要がある。外国人児童生徒の統合と関与は、この戦略の重要な一つであり、調査研究によれば、こうした児童生徒は世界的及び文化的側面を学校教育プログラムや地域社会に統合するために非常に役立つリソースとなり得ることがわかっている。私たちの学校における異文化学習（Cross-Cultural Learning）の多くは、児童生徒と教員間の個人的な交流を通して非公式に行われるが、こうした機会は、学校や教育委員会によって奨励され、推進されることが重要である。
- この国際教育戦略は、カナダ教育大臣協議会及びカナダ文化遺産協議会を通じて発表された「フランス語学校における文化の適切性に関する汎カナダ枠組み 2011（2011 Pan Canadian Framework for Cultural Appropriation in French-Language Schools）」と方向性が同じである。この枠組みには、教育課程と統合された教育への文化的アプローチの原則及び初等中等学校におけるフランス語圏の言語と文化の教育に関するその他のアプローチと課題が含まれている。
- 連邦国際教育戦略では、国際化された学習環境とそれに伴う異文化体験が、個人的及び学習の発達を含

む生徒の幸福に正の影響を与えると述べられている。すべての児童生徒は、多様な文化や視点に触れることで恩恵を受け、自分達の世界をより深く理解できるようになる。経済的及び文化的なグローバル化の力は、国際的な機会を追求するための資源や流動性を備えた児童生徒だけでなく、すべての児童生徒の将来の学習や就職の見通しに影響を与える。したがって、国際化は、児童生徒の成績に対する地理的及び社会的、経済的障壁を軽減する手段とも見做される。
(太字は調査団による)

出典：Ontario Ministry of Education, “Ontario’s Strategy for K-12 International Education”, 2015, pp.12-13.

【国際教育の有益性】

- 密接に世界と繋がった経済社会に参加し成功を収めるために必要とされるグローバルな能力 (Global Competencies) 及び知識や経験をオンタリオ州の児童生徒に提供することは、自分自身とは異なった他の文化を理解し、尊重することができるようになる。
- 異文化コミュニケーション (Cross-Cultural Communication) 及び批判的思考能力 (Critical Thinking Skills) を養うことは、積極的なグローバル・シティズンとなって活躍していくために必要なことである。
- 海外旅行や留学、外国での業務の機会に恵まれないオンタリオ州の児童生徒の学びの機会を、国際教育によって豊かにすることは、多文化、多言語、多様な視点 (Diverse Culture, Languages and Perspectives) を理解することに繋がり、思考を発展させることに大いに役立つ。
- 文化的多様性 (Cultural Diversity) を受容し理解することは、国際的な学びの環境を開き、そこでの異文化間の人間関係やネットワークを発展させるのに役立つ。
- ビジネス上の協力や学問上の協調、さらには外交上の関係構築のためのフォーマル及びインフォーマルな国際ネットワークの構築は、短期的には経済的な機会をもたらす、長期的には投資機会をもたらしてくれる。
(太字は調査団による)

出典：Ontario Ministry of Education, “Ontario’s Strategy for K-12 International Education”, 2015, pp.15-17.

【国際教育における戦略—未来に向けた学び】

世界がより小さくなり、社会的にも経済的にも相互の繋がりが強まるにつれ、オンタリオ州の児童生徒にとって、積極的で成功したグローバル・シティズンになるために必要なスキル、知識、態度、特質を身に付けることが重要である。そこで、国際教育の戦略としては次の事項が挙げられる。

- **グローバルな能力 (Global Competencies) の開発**：初等及び中等の教育課程はオンタリオ州の児童生徒に学習における世界的な状況と課題に対する認識と理解を深め、周囲の世界についてより広い視野をもつ機会を提供する。これらのツールは多様な文化や社会をナビゲートし、創造的思考 (Creative-Thinking) と問題解決能力 (Problem-Solving Skills) を向上させるのに役立つ。
- **オンタリオ州の生徒向けの国際コース (International Course) の提供強化**：ビジネス研究、芸術、国際言語、その他の専門分野のコースは、必要に応じて、グローバルな文脈での学習をサポートする。オンタリオ州教育省はオンタリオ中等学校卒業証明書 (OSSD) の要件を満たしながら、この分野での生徒の体験学習プログラム (Experiential Learning) をコースワークと経験を合わせた専門プログラムとして認識する機会を模索中である。
- **教室での経験を世界的な文脈 (Global Context) に拡張する機会の提供**：学校や個々の児童生徒のレベルにおいて、世界の他の地域と連絡を取る方法はこれまで以上にたくさんある。テクノロジーはオンタリオ州の仮想学習環境を通じてすでに利用可能になっているものの含め、児童生徒と教室の間の直接的なコミュニケーションを通じて、あるいは継続的なコミュニケーションや学術的、社会的な繋がりを通じて、児童生徒たちを世界中の児童生徒たちと結び付ける多くの機会を提供している。今後、オンタリオ州教育省は教育委員会と協議し、外国人児童生徒に充実した E-ラーニングの機会を提供できるパートナーシップの選択肢について話し合う予定である。
- **姉妹校及び提携協定の改善と拡大**：学校間の姉妹提携や協定は一部の学校や教育委員会によってすでに確立されている。これらのパートナーシップは教育課程と児童生徒の成績とのより強い繋がりから多くの恩恵を受けることができる。
- **国際言語プログラムの強化**：第二外国語、第三外国語を学ぶことは、児童生徒の問題解決能力、推論能

力、創造的思考能力を強化するだけでなく、世界とそこでの自分自身の位置に対する認識を発達させる。多文化のオンタリオ州では児童生徒が多様な視点や周囲のコミュニティについてより深く理解できるようになる。これは教員に、社会的及び文化的背景を教室での授業に統合させ、外国人児童生徒を貴重な文化リソースとして参加させる機会を提供する。そして、こうした実践は児童生徒たちが学校生活により深くかかわっていくのに役立つ。またオンタリオ州のクラスメイトとの関係を気付く自信にもなる。国際言語プログラムは、保護者、学校管理者、地域サポートネットワークを巻き込む機会も提供し、グローバルな視点と背景を備えた教室での授業実践をさらに充実させることができる。

- **体験学習 (Experimental Learning) の増加**：グローバルな能力 (Global Competencies) の開発において重要なことは、オンタリオ州の児童生徒が体験学習の機会をもつ機会を得ることである。これらは、生徒が別の国に住み、学び、場合によっては働くことを可能にする国際交換プログラムや社会奉仕プロジェクトを通じて提供することが可能である。サマーキャンプを通して (オンタリオ州内または海外で) 児童生徒に国際的な言語と文化を体験させる。オンタリオ州のような多様性に富んだ社会に住むことの利点は、児童生徒が国際的な言語や文化の実践的な経験を積むための機会を自分たちのコミュニティ内で数多く利用できることである。
(太字は調査団による)

出典：Ontario Ministry of Education, “Ontario’s Strategy for K-12 International Education”, 2015, pp.20-21

以上のように、オンタリオ州では「国際教育」はグローバルな能力や知識、経験を習得する上で非常に有用な教育であると認識されており、この教育を通じて児童生徒に多様な視点と文化的経験の包括性と尊重を促進することで、様々な文化や価値観をもった生徒の間の公平性を目指そうとしている。ここで言う「グローバルな能力 (Global Competencies)」というのは、オンタリオ州が開発した『21世紀型教育・学習イニシアティブ (The 21st Century Teaching and Learning Initiative)』の中で明記されている児童生徒に習得させたい資質・能力とも一致しているだけでなく、同州の幼稚園から12年生までに学ぶ「第二言語としてのフランス語」の学習目標とも合致しており、現在進行している国際的で、多文化な社会でよりよく生きていくためには必須の能力であると捉えられている。

この資質・能力については、次節「3-3 カナダの国際教育に関する学習内容」で詳述するが、この能力を習得することで、児童生徒自身の文化とは異なった別の文化を理解し、尊重することができるようになるばかりか、自分自身の属する世界をより深く理解できるようになるという利点があると考えられている。

こうした有益な「国際教育」の機会は、オンタリオ州全体により普及していくことが求められており、児童生徒のより「グローバルな能力の開発」をはじめ、「オンタリオ州の生徒向けの国際コースの提供」「教室での経験を世界的な文脈に拡張する機会の提供」「姉妹校及び提携協定の改善と拡大」「国際言語プログラムの強化」「体験学習の増加」などの施策によって実現していこうとしている。

コラム：連邦政府における国際教育に関連する活動

カナダ連邦政府にあるカナダ民族遺産省 (Department of Canadian Heritage: DCH) 及びカナダ移民・難民・シティズンシップ局 (Immigration, Refugees and Citizenship Canada: IRCC) では、国内の学校現場、児童生徒に直接ということでないが、次世代を担う若者をはじめ、カナダの全国民を対象とした様々な国際教育に関連する活動を積極的に行っている。例えば、毎年 6 月 27 日を「カナダ多文化主義の日 (Canadian Multiculturalism Day)」と定め、カナダを構成する多様な人々のもつ異なった文化についての理解を促進したり、また 6 月 21 日を「カナダ先住民族の日 (National Indigenous Peoples Day)」として、憲法にも記載されているカナダ先住民族としてのメイティ (Metis)、イヌイト (Inuit) 及びそれ以外の人々 (First Nations) のこれまでのカナダ国家への貢献と彼らの多様な思考や文化を国民全体に知らせるなどの活動を行っている。以下に、これら二つの活動も含めて同省が行っている主要なものとその活動内容を紹介する。

表 3-6 カナダ民族遺産省による国際教育に関連する活動

活動名称	活動内容
カナダ多文化主義の日 (Canadian Multiculturalism Day)	<ul style="list-style-type: none"> 毎年 6 月 27 日を「カナダ多文化主義の日」として定め、強く活気のあるカナダ社会の構築に貢献した多くの文化コミュニティを讃える日としている。 この日を一つの大きな機会として、カナダ国民全体を豊かにしてくれている文化的多様性を祝い、公平性、包括性、相互尊重の取り組みを再認識する機会となることが期待されている。
カナダ先住民族の日 (National Indigenous Peoples Day)	<ul style="list-style-type: none"> 毎年 6 月 21 日は「カナダ先住民族の日」として、すべてのカナダ人がファーストネーション、イヌイト、メイティのユニークな遺産、多様な文化、傑出した貢献を認識し、祝う日とされている。カナダの憲法でもこれらの三つのグループを先住民族として認めている。 これらのグループには多くの類似点があるが、それらが独自の伝統、言語、文化的慣習、精神的信念をもっている。 カナダ政府は、先住民の人々が、長年一年で最も日長い夏至を重要な日としてきたことに鑑み、この日を「カナダ先住民族の日」と決定した。
カナダ 150 年 (Canada 150)	<ul style="list-style-type: none"> 2017 年のカナダ連邦創立 150 周年であることを祝った活動である。この年は、若者の関心をひき付け、インスピレーションを与えることに重点を置いた多くの活動が行われた。例えば、カナダの多様性を祝い、包括性を奨励した活動、先住民族との和解の精神を確立したことの記念式典、自然の美しさと環境意識をより一層強化していく活動などである。世界中から多くの訪問者が参加した。
聖ジョン・バプテストの日 (Saint-Jean-Baptist Day)	<ul style="list-style-type: none"> カナダ国内では約 1,000 万人がフランス語を話す。この歴史を辿ると、聖ジョンをはじめとするフランス植民者が現在のカナダ・ケベック州に定着したことによる。そこで、6 月 24 日を「聖ジョン・バプテストの日」として、ケベック州をはじめ、カナダ全国のフランス・コミュニティで自分たちの言語と文化的伝統を盛大に祝う。 
カナダの日 (Canada Day)	<ul style="list-style-type: none"> 毎年 7 月 1 日を「カナダの日」と定め、建国記念日として、様々な催し物を行い国民全体で祝福する日である。
アカディアの日 (National Acadian Day)	<ul style="list-style-type: none"> カナダの開拓者であり建設者であるアカディと呼ばれる人々（フランスが 1605 年に現在のカナダ・ノヴァスコシア州ポート・ロイヤルに築いた初のフランス居留地に移住した人々）が、最初の記念大会を開催した 1881 年以来、継続的に祝いされてきた記念日である。 この日は、カナダの文化構造に対するアカディアの貢献を理解し、この土地におけるアカディアの歴史的存在を認識し、あらゆる多様性においてアカディアの文化的特異性を祝い日とされている。

出典：カナダ政府のホームページを参考に調査団作成 (www.canada.ca/en/services/culture/events-celebrations-commemorations/major-events-celebrations.gtml)。

3-2-2 現代的諸課題（本調査での4課題）の教育課程上の位置付け

本調査においては、現代的諸課題として「異文化理解」「国際関係・国際協力」「移民/多文化共生」「地球環境/気候変動」の4分野が想定されている。オンタリオ州における国際教育についての教育政策及び方針についてはすでに触れたが、ここでは再度これら4分野の現代的諸課題が教育課程上においてどのように関係しているかについて見ていく。

なお、オンタリオ州では各教科目別の教育課程はあるものの、それらを包括した教育全体（あるいは教育段階別）の教育課程の枠組みといったものは存在しない。そこで、以下では各教科の教育課程における現代的諸課題についての記述がどのようになっているのかについて分析していく。

そこで、現代的諸課題の教育課程上での位置付けに入る前に、オンタリオ州の教育段階別に設定されている教科目を一覧で示す。

表 3-7 オンタリオ州統一カリキュラムにおける教科目とスキル・知識・意識

教育段階	教科目	改訂年
初等教育 (9教科目)	幼稚園プログラム (The Kindergarten Program)	2016
	国語 (英語) (Language)	2023
	第二言語としてのフランス語 (French as a Second Language)	2013
	母語 (Native language)	2001
	算数 (Mathematics)	2020
	科学とテクノロジー (Science and Technology)	2022
	社会と地理・歴史 (Social Studies, History and Geography)	2023
	保健体育 (Health and Physical Education)	2019
	芸術 (The Arts)	2009
中等教育 (19教科目)	英語 (English)	2023
	第二言語としてのフランス語 (French as a Second Language)	2014
	母語 (Native Language)	1999
	数学 (Mathematics)	2021
	科学 (Science)	2022
	社会科学と人文 (Social Science and Humanities)	2013
	カナダと世界学 (Canada and World Studies)	2022
	ファーストネーション・メイティ・イヌイト学 (First Nations, Metis and Inuit Studies)	2019
	伝統的研究と国際言語 (Classical Studies and International Languages)	2016
	コンピュータ学 (Computer Studies)	2023
	協働学習 (Cooperative Education)	2018
	ビジネス学 (Business Studies)	2006
	第二言語としての英語と英語の読み書き能力の発展 (English as a Second Language and English Literacy Development)	2007
	ガイダンス・職業教育 (Guidance and Career Education)	-
	保健体育 (Health and Physical Education)	2015
	芸術 (The Arts)	2010
学際的研究 (Interdisciplinary Studies)	2002	
技術教育 (Technological Education)	2009	
第二言語としてのアメリカ手話	2021	

転移可能な スキル (Transferrable Skills)	批判的思考と問題解決 (Critical Thinking and Problem Solving)	
	イノベーション、創造性、起業家精神 (Innovation, Creativity and Entrepreneurship)	
	自律的学習 (Self-directed Learning)	
	コラボレーション (Collaboration)	
	コミュニケーション (Communication)	
	グローバル・シティズンシップと持続可能性 (Global Citizenship and Sustainability)	
教科横断的・ 統合的な学習 (Cross- Curricula and Integrated Learning)	デジタル・リテラシー (Digital Literacy)	
	金融リテラシー (Financial Literacy)	
	環境教育 (Environmental Education)	
	社会的・感情的学習スキル (Social and Emotional Learning Skills)	
STEM教育 (Science, Technology, Engineering and Mathematics Education)		

注：太字及び網掛けは「国際教育」の学習内容を扱っている教科目を示す。

出典：Ontario, “Curriculum and Resources” (www.dcp.edu.gov.on.ca/en/curriculum#elementary, www.dcp.edu.gov.on.ca/en/curriculum#secondary)を参考に筆者作成。

では、次に上記の太字及び網掛けで記載した教科目を中心に、それら教科目の教育課程の中で現代的諸課題がどのように扱われ、位置付けられているのかについて検討していく。本調査で焦点をあてる四つの現代的諸課題の各教科上での取り扱いを示すと表 3-8 のようになる。

表 3-8 現代的諸課題（4 分野）の教育課程上の位置付け

現代的諸課題	教育課程上の位置付け
異文化理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「社会と地理・歴史 (Social Studies, History and Geography)」(1～8 年生) : 「Diversity (多様性)」と表現され、身近な地域、国家レベル、さらにはグローバル・コミュニティにおける「Diversity (多様性)」として扱われている。またこの「Diversity (多様性)」が過去と現在においてどのように変化してきたかということについても学習できるようになっている。加えて、多様な集団に属する人々の相互関係と時代によるその移り変わりについても扱われている。 ・ 「社会科学と人文 (Social Science and Humanities)」(9～12 年生) : 「ジェンダー (Gender)」学習においてカナダ及び世界の文脈における暴力や就業機会として取り扱われている。「公正・多様性・社会正義 (Equity, Diversity and Social Justice)」学習においてカナダ国内における多様性 (Diversity) の特徴を理解するようになっている。「世界文化 (World Culture)」学習において文化の特徴・文化的アイデンティティ・文化的変容をはじめ、異なった文化集団による社会貢献や影響を学ぶようになっている。「社会における挑戦と変化 (Challenge and Change in Society)」学習で時代とともに社会における文化や人々の思考・行動が変化することを学ぶことができるようになっている。「世界の宗教と信仰 (World Religions and Belief)」学習で世界における多様な信仰や信念が存在することを学ぶようになっている。 ・ 「カナダと世界学 (Canada and World Studies)」(9～12 年生) : 「公民とシティズンシップ (Civics and Citizenship)」学習において世界における個人や集団はお互いに異なっていることが前提であることが学べるようになっている。 ・ 「ファーストネーション・メイティ・イヌイト学 (First Nations, Metis and Inuit Studies)」(9～12 年生) : 「グローバルな文脈における先住民の課題と視点 (Contemporary Indigenous Issues and Perspectives in a Global Context)」学習において、先住民文化や思考、考え方の違いや多様性について学習するようになっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「学際的研究 (Interdisciplinary Studies) (11~12 年生) : 「モジュール A」「モジュール B」において世界宗教・信仰、宗教的伝統、現代社会における先住民の信念・価値・願望、グローバルな文脈での先住民問題について学習するようになっている。
国際関係・国際協力	<ul style="list-style-type: none"> ・「学際的研究」(11~12 年生) : 「モジュール A」においてグローバルな視点・地域の視点、カナダと世界の政治、カナダ法と国際法について学習するようになっている。
移民/多文化共生	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会と地理・歴史」(1~8 年生) : 「Diversity (多様性)」と表現され、身近な地域、国家レベル、さらにはグローバル・コミュニティにおける「Diversity (多様性)」として扱われている。またこの「Diversity (多様性)」が過去と現在においてどのように変化してきたかということについても学習できるようになっている。加えて、多様な集団に属する人々の相互関係と時代によるその移り変わりについても扱われている。 ・「社会科学と人文」(9~12 年生) : 「世界文化 (World Culture)」学習において文化の特徴・文化的アイデンティティ・文化的変容をはじめ、異なった文化集団による社会貢献や影響を学ぶようになっている。また「世界の宗教と信仰 (World Religions and Beliefs)」学習で世界における多様な信仰や信念が存在することを学ぶようになっている。 ・「カナダと世界学」(9~12 年生) : 「公民とシティズンシップ (Civics and Citizenship)」学習において世界における個人や集団はお互いに異なっていることが前提であることが学べるようになっている。 ・「ファーストネーション・メイティ・イヌイト学」(9~12 年生) : 「グローバルな文脈における先住民の課題と視点 (Contemporary Indigenous Issues and Perspectives in a Global Context)」学習において、先住民文化や思考、考え方の違いや多様性について学習するようになっている。
地球環境/気候変動	<ul style="list-style-type: none"> ・「科学とテクノロジー (Science and Technology) (1~8 年生) : 「地球と宇宙のシステム (Earth and Space Systems)」学習において人間の資源活用による地球への影響を考えるとともに、その乱用による「地球環境の変化 (Environmental Changes on Earth)」や「気候変動 (Climate Change)」について学習できるようになっている。また熱損失を低減させる利点を評価し、再生可能なエネルギー源からのエネルギー使用及び再生不可能なエネルギー源からのエネルギー使用について様々な社会的・環境的影響を分析する学習が取り扱われている。加えて、水資源を持続可能とする人間活動や技術について評価する学習も取り扱われる。 ・「科学」(9~12 年生) : 「地球と宇宙科学 (Earth and Space Science)」学習において気候変動 (Climate Change) が自然と人間が原因で生じていることを学習するとともに、自然界 (植物界及び動物界) に様々な影響を及ぼすことを学習するようになっている。また「環境科学 (Environmental Science)」学習において近年の環境問題が複雑になってきており、こうした問題を解決する上において有限である地球資源の活用方法やエネルギーの保持など様々なことを考慮していく必要のあることを学ぶようになっている。 ・「学際的研究」(11~12 年生) : 「モジュール B」において環境・資源管理について学習するようになっている。

出典：調査団作成。

現行のオンタリオ州教育課程においては、上記のように本調査で焦点をあてる現代的諸課題の 4 分野のうち、「異文化理解」「移民/多文化共生」「地球環境/気候変動」については初等教育から中等教育まですべての教育段階において、各教科の指導において記述が見られる。特に、「異文化理解」と「移民/多文化共生」は「社会と地理・歴史」(1~8 年生)、「社会科学と人文」(9~12 年生)、「カナダと世界学」(9~12 年生)、「ファーストネーション・メイティ・イヌイト学」(9~12 年生) におい

て、「地球環境/気候変動」は「科学とテクノロジー」(1～8年生)及び「科学」(9～12年生)における「地球と宇宙システム」や「地球と宇宙科学」といった分野において包括的かつ詳細に取り扱われるようになってきている。現代的諸課題の4分野のうち、「国際関係」のみが「学際的研究」(11～12年生)での記述に限られるが、扱われているということは事実である。以上から、カナダ及びオンタリオ州においては、現代的諸課題が非常に重視されており、多様な教科目の中でそれぞれの内容が設定され、児童生徒が興味をもって積極的に学習できるようになっている。

3-2-3 国際教育・現代的諸課題の実施状況についての評価

現行のオンタリオ州教育課程及び州教育省によって承認されている教科書、特に初等教育における「社会と地理・歴史 (Social Studies, History and Geography)」、中等教育における「社会科学 (Social Science and Humanities)」「カナダと世界学 (Canada and World Studies)」「ファーストネーション・メディ・イヌイト学 (First Nations, Metis and Inuit Studies)」は、従来の教育課程、教科書に比べ、各段に国際教育及び現代的諸課題における記載が多く見られるようになったという調査結果が報告されている¹¹。このことから、学校現場においても国際教育や現代的諸課題を扱った授業実践が以前よりもかなり活発に行われるようになったと考えられる。

しかしながら、教育課程、教科書における記述が多くなかったからと言って、すぐに学校現場での授業実践にそれが反映されるとは限らない。というのも、カナダでは授業実践の内容やアプローチを決定する権限は各学校現場の判断に任されており、各学年の授業を担当する教員に委ねられているところが大きいからである。このことは裏を返せば、州教育省から各学校の授業実践に対する指導などはほとんどないということである。したがって、国際教育及び現代的諸課題について学校現場の授業で扱われる状況は地域格差が大きく、非常に活発に実践が行われている地域がある反面、ほとんど実践が行われていない地域もある。上記の調査報告書によれば、オンタリオ州の南部(主としてトロントを中心とした地域)及び南東部(主として首都オタワを中心とした地域)は国際教育及び現代的諸課題を扱った教育、いわゆる「グローバル教育 (Global Education)」が活発に実践されており、反対にそれ以外の地域ではあまり実践されていないということが報告されている。

今回、現地調査で訪問したトロント地区教育委員会 (TDSB) は、582の学校と246,000人の児童生徒を管轄するカナダ全土でも最も大きな教育委員会の一つであり、トロント地区の多文化社会の実態を反映して、この地区の児童生徒の民族背景も非常に多様となっている。ヨーロッパ系(26%)、南アジア系(21%)、東アジア系(16%)、アフリカ系(12%)、中東系(6%)、ラテン系(2%)、先住民系(0.2%)といった具合である。こうした複雑な社会状況の中で、効果的な教育実践を行っていくためにトロント地区教育委員会 (TDSB) では「複数年度戦略計画 (Multi-Year Strategic Plan: MYSP)」を作成し、その中で次のような五つの目標を明確に定めている。①児童生徒の学習を変革すること、②児童生徒と教職員の健康のための文化を創造すること、③すべての児童生徒に学習機会への公平なアクセスを提供すること、④児童生徒のニーズをサポートするために人的資源と財政的資源を戦略的に配分すること、⑤学校コミュニティ内で学習と幸福のために強力な関係とパートナーシップを構築すること、である。

さらにカナダ教育担当大臣協議会 (CMEC) やオンタリオ州教育省が開発した、これからの社会を生きていく上で必要とされるコンピテンシーのモデルである「汎カナダ・グローバル・コンピテンシー (Pan-Canadian Global Competencies)」及び「21世紀型コンピテンシー (21st Century Competencies)」を参考にして、トロント地区教育委員会 (TDSB) 独自の「グローバル・コンピテンシー (Global Competencies)」モデルを開発し、それらを児童生徒に習得させるために、学校現場を

¹¹ Karen Mundy, "Charting Global Education in Canada's Elementary Schools: Provincial, District and School Level Perspectives", Ontario Institute for Studies in Education (OISE), University of Toronto (UT), 2007のpp.71-82を参照のこと。

訪問し、学校関係者とのコミュニケーションを密にとることによって、こうしたコンピテンシーの育成を促進する授業実践が行えるように支援をしているということであった（これらコンピテンシーモデルについては次節「3-3 カナダの国際教育に関する学習内容」にて詳述する）。

調査団が訪問したトロント地区教育委員会（TDSB）が管轄するマクマリック小学校（McMurrich Junior Public School）においては、同教育委員会との密接な連携が出来ており、この地区で目指されているグローバル・コンピテンシー育成のための教育実践が順調に行われていた。

3-3 カナダの国際教育に関する学習内容

3-3-1 国際教育を通じて育成を目指す資質・能力（国際教育の扱いにより目指すもの）

先に触れたように、オンタリオ州では教育活動全般において国際教育、もっと具体的に言えば、現代的諸課題についての学習が重視されており、これらを学ぶことによって育成が目指されている資質・能力は、教育活動全体を通じて習得が目指されている資質・能力とほぼ同じであると考えられる。したがって、これまでは教育活動全体を通じて習得が目指されている資質・能力としては、2010年に発表された『成長する成功：オンタリオ州の学校における評価と通知表（Growing Success-Assessment, Evaluation, and Reporting in Ontario Schools）』の中で公表された「学習スキルと学習習慣」に含まれた「責任感（Responsibility）」「自己管理能力（Organization）」「課題解決能力（Independent Work）」「コラボレーション（Collaboration）」「学習への積極性（Initiative）」「自律性（Self-Regulation）」の六つのスキルであったと言える。ただし、近年になって新たなモデルが開発されていることも事実である。ここでは、国際教育を通じて児童生徒に習得させたいと考えられている資質・能力、言い換えるとスキルについて詳細に見ていく。

まず従来の「学習スキルと学習習慣」は次のような構造となっている。

表 3-9 学習スキルと学習習慣（Learning Skills and Work Habits）

学習スキルと学習習慣	態度の例
責任感 (Responsibility)	児童生徒は、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習における責任を果たす。 ・ 合意によって決められたスケジュールに沿って課題や宿題を完成させ、提出する。 ・ 自分の態度や行動に責任をもち、自己管理をする。
自己管理能力 (Organization)	児童生徒は、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業や課題を完成させるために計画を立てて手順に従う。 ・ 課題や目標を達成するために優先順位を決め、時間の管理をする。 ・ 課題を達成するために情報・技術やリソースを特定し、収集し、評価して使う。
課題解決能力 (Independent Work)	児童生徒は、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を完成させ、目標を達成するために一人ひとりが計画を検討、評価、改善する。 ・ 課題を完成させるために、授業の時間を適切に利用する。 ・ 最小限の管理のもとで指示に従う。
コラボレーション (Collaboration)	児童生徒は、 <ul style="list-style-type: none"> ・ グループでの様々な役割を受け入れ、公平に作業を分担する。 ・ 他者の考えや意見、価値や伝統に対して肯定的に反応する。 ・ 個人やメディアを介した相互作用を通して、健全な生徒間関係を築く。 ・ グループの目標を達成するためコンフリクトを解決し、共通理解を構築するために他者と協力し合う。

	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解決し、意思決定をするために情報やリソース、専門的知識を共有し、批判的思考を高める。
学習への積極性 (Initiatives)	児童生徒は、 <ul style="list-style-type: none"> 新しいアイデアや学習の機会を探究し、それに取り組む。 新しいことを受け入れるとともに、リスクを負うという意志を表す。 学習に対する好奇心や関心を示す。 新たな課題に積極的な姿勢で取り組む。 自分自身や他者の権利を適切に認識し、擁護する。
自律性 (Self-Regulation)	児童生徒は、 <ul style="list-style-type: none"> 自分の目標を設定し、それらを達成するための経過をモニターする。 必要な場合には説明や支援を求める。 自分の長所やニーズ、興味関心について批判的に捉え直し、評価する。 個人的なニーズや目標の達成に求められる学習の機会や洗濯、戦略を明らかにする。 困難の解決に向かって忍耐強く努力する。

出典：Ministry of Education, “Growing Success-Assessment, Evaluation, and Reporting in Ontario Schools” (First Edition, Covering Grades 1 to 12), 2010 の 11 頁を参考に、調査団が翻訳。

上記の「学習スキルと学習習慣」に加えて、現代的諸課題を学習内容として取り扱っている主要な教科の教育課程にはもう少し具体的なスキルが設定されている。それらを各教科別に見ると以下のようになる。

表 3-10 現代的諸課題を取り扱う代表的な教科における習得が目指されるスキル

教科	習得が目指されるスキル
「社会と地理・歴史」 (1～8年生)	<ul style="list-style-type: none"> 探究スキルと探究過程（情報収集・組織→情報解釈・分析→問いの作成→評価と結果の導き→発表） 地図・地球儀・図表などの活用スキル（リテラシー・数的能力・テクノロジー理解力と密接に関係） 知識とその理解 思考力（計画力、操作力、批判的・創造的思考） コミュニケーション力（考えや情報の表現、異なった聴衆に対しての会話、慣習・語彙・専門用語の使用） 応用力（知識やスキルの馴染みある文脈と新しい文脈への応用、多様な文脈の統合）
「社会科学と人文」 (9～12年生)	<ul style="list-style-type: none"> 訓練された探究と批判的なリテラシー 問題解決力 自己理解と他者理解 ローカルマインドとグローバルマインド 調査・研究力（探索力、調査力、情報組織力、コミュニケーション力及び省察力） 探究力
「カナダと世界学」 (9～12年生)	<ul style="list-style-type: none"> 上記「社会と地理・歴史」と同様
「ファーストネーション・メイティ・イスイット学」 (9～12年生)	<ul style="list-style-type: none"> 政治的探究力 他の文脈においても応用できる転移可能なスキル 多様性とアイデンティティについての理解力 多様な内容についての理解力（先住民の土地との結合、先住民がもつ知識と伝承されてきた伝統、経済的・社会的・技術的動向、人権、社会正義、文化的生き残り、政治的動向と力関係、自己決定の概念、国際法と地域法、立法と司法、教育と能力開発、社会的行動とグローバル・リーダーシップ）

出典：各教科の教育課程を参照に調査団作成。

また先に触れたように、オンタリオ州教育省では 2019 年に「社会・情動的学習スキル (Social-Emotional Learning <SEL> Skills)」が「保健体育」の教育課程において導入されて以来、全教育課程において用いられるようになった。この「社会・情動的学習スキル」というのは、児童生徒の精神的健康と健全な発達のために必要なスキルであり、彼らの学習や成長のためには、彼ら自身の全体的な健康と幸福、前向きな精神的健康、強靭さ、学習し成長する力の育成にも役立つものと位置付けられている。すでに示したが、再度このスキルの内容を以下に記載する。

表 3-11 「社会・情動的学習スキル」の内容

内容	スキルを身に付けることにより出来るようになること
感情の管理 (Identifying and Managing Emotions)	自分の気持ちを表現し、他人の気持ちを理解する
ストレスの対処 (Coping with Stress)	強靭さを高める
前向きな動機 (Positive Motivation)	希望をもち、目標に向かって努力し続ける意志を育む
関係構築 (Building Relationships)	健全な人間関係を支持し、多様性を尊重する
自己意識の深化 (Deepening their Sense of Self)	自身のアイデンティティを構築し、所属感をもつ
批判的・創造的思考 (Thinking Critically and Creatively)	意思決定と問題解決を行う

出典：Ontario Ministry of Education, 2023, p.34。

さらにオンタリオ州教育省では、2000 年代から世界各国で 21 世紀の社会において必要とされるコンピテンシーの開発が積極的に行われてきたことに呼応する形で、2016 年頃から「21 世紀型コンピテンシー (21st Century Competencies)」の開発に取り組んできた。そして、『21 世紀型コンピテンシー』(2016 年) という報告書を作成し、その中で表 3-12 のようなコンピテンシーモデルを示した。実は、この「21 世紀型コンピテンシー」は教育課程全体を通じて習得を目指すものであるが、同時にオンタリオ州教育課程で重視されている「国際教育」の実践を通じても習得が期待される資質・能力 (特に「転移可能なスキル (Transferrable Skills)」) であるとも言える。

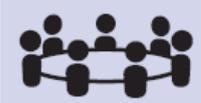
これに加えて、オンタリオ州では世界各国で実践されてきたグローバル教育についての調査研究を行い、それを同州の学校に導入するための方策を検討した『オンタリオ州の学習者のためのグローバル教育：実践的戦略 (Global Education for Ontario Learners: Practical Strategies)』(2018 年) も発表している。この中には特にオンタリオ州がグローバル教育の実践で目指したい資質・能力についての具体的な言及はないものの、世界各国のグローバル教育実践において習得が目指されている資質・能力について検討がなされている。



出典：オンタリオ州教育省のホームページ。

『21 世紀型コンピテンシー』(左) と『オンタリオ州の学習者のためのグローバル教育：実践的戦略』(右)

表 3-12 オンタリオ州教育省による「21世紀型コンピテンシー」モデル

21 世紀型コンピテンシー	内容（関連する領域）
<p>批判的思考と問題解決 (Critical Thinking and Problem Solving)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意味があり、現実的で、複雑な問題を解決する (1), (6) ・ ある事象を示す場合に具体的な段階を踏む ・ プロジェクトを計画したり、運営したりする ・ ある結果を得るために情報を収集し、解釈し、分析する（批判的・デジタル・リテラシー） ・ 問題を解決するために探究的なプロセスを踏む(1) ・ ある状況での学習を別の状況で使えるように関連性を見つけ、転移させる (1), (6)
<p>イノベーション、創造性、起業家精神 (Innovation, Creativity and Entrepreneurship)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複雑な問題の解決に貢献する (3) ・ 概念や考え、もしくは成果品の質を高める ・ 思考したり、創造したりする際にリスクをとる ・ 探究的研究を通じて、何かを発見する (1) ・ 地域社会のニーズに合致した新しい考え方を追求する (3), (6) ・ 倫理的な起業家精神をもつ(1), (3)
<p>学ぶことを学ぶ/自己認識と自律的学習 (Learning to Learn/Self-Aware & Self-Directed Learning)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習プロセスを学ぶ（メタ認知） (1), (3), (4), (5), (7) ・ 学びと成長のために能力を信じる（成長の考え方） (1), (4), (5) ・ 目標達成のために挑戦することに耐え、克服する (1), (5) ・ 生涯学習者のなるために自主規制をする (1), (4), (5), (7) ・ 学習の質を高めるために経験を顧みる (1), (7) ・ 自分自身と他人を理解するための心の知能を養う (1), (2), (4) ・ 変化に適応し、逆境に立ち向かう力を示す (1), (5) ・ 人生の様々な側面、つまり身体的、感情的（関係性、自己認識）、精神的、精神的な健康を管理する (5)
<p>コラボレーション (Collaboration)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームに参加する、良好な関係を構築する ・ 他者から学び、他者の学びに貢献する (1) ・ 知識や意味、内容を構築する (1) ・ チームにおける多様な役割を推測する ・ 多様なコミュニティや集団とのネットワークを構築する ・ 物事の多様な見方を尊重する (2), (3)
<p>コミュニケーション (Communication)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異なった文脈において英語及びフランス語の口頭及び筆記によって効果的なコミュニケーションをとる ・ 知識を得るために効果的な質問をする (6) ・ 多様なメディアを用いて効果的にコミュニケーションをとる (1), (5) ・ 目的に応じて適切なデジタルツールを選ぶ (1) ・ すべての視点からの考え方を理解するために耳を傾ける (2), (3), (6) ・ 多様な言語についての知識を得る (2), (6) ・ 意見を述べ、アイデアを擁護する
<p>グローバル・シティズンシップ (Global Citizenship)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ローカルやグローバル、さらにはデジタルコミュニティの社会や文化に責任をもって明確に倫理的なマナーに基づいて貢献する (2), (6) ・ 違いを理解するためにローカルなものやグローバルなものに参加する (6) ・ 多様な人々から学んだり、また一緒に学ぶ (2), (5), (6) ・ 多様なコミュニティの中で安全に責任をもって振舞う (5), (6) ・ 肯定的なデジタルな足跡を残す

	・ 環境と関わり、すべての生物の重要性に配慮する
グローバル・コンピテンシーと関係するCMEC領域	(1) 指導と学習 (Teaching and Learning)
	(2) 先住民教育 (Aboriginal Education)
	(3) 持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development)
	(4) 早期幼児教育と発達 (Early Childhood Education and Development)
	(5) ウェルネスと精神的な健康 (Wellness and Mental Health)
	(6) 経験的学習 (Experimental Learning)
	(7) 評価 (Assessment)

出典：Ontario Ministry of Education, “21st Century Competencies: Foundation Document for Discussion”, 2016, p.56を参考に調査団作成。

上記のオンタリオ州教育省による「21世紀型コンピテンシー」に基づいて、調査団が訪問したトロント地区教育委員会（TDSB）では、独自の「グローバル・コンピテンシー」モデルを開発している。このモデルは、図3-3のように同心円状の図によって示され、その中心部分に「児童生徒（Students）」を据えて、彼らの「リテラシー（Literacy）」「ニューメラシー（Numeracy）」「デジタルへの習熟（Digital Fluency）」といった三つの基本的要素が置かれている。そして、これらを強化するための「グローバル・コンピテンシー」として、①批判的思考と問題解決（Critical Thinking and Problem Solving）、②グローバル・シティズンシップとキャラクター（Global Citizenship and Character）、③コミュニケーション（Communication）、④コラボレーションとリーダーシップ（Collaboration and Leadership）、⑤創造性、探求性、起業家精神（Creativity, Inquiry and Entrepreneurship）が設定されている。

こうした六つの「グローバル・コンピテンシー」は、「継続的な評価（Ongoing Assessment）」「魅力的な学習環境（Engaging Learning Environment）」「専門的な成長（Professional Growth）」「カリキュラムと指導（Curriculum and Instruction）」といった整備された環境のもとで開発され、最終的に「公平（Equity）」「達成（Achievement）」「幸福（Well-Being）」がもたらされると考えられている。

このモデルで示された「グローバル・コンピテンシー」の内容は次のようである。

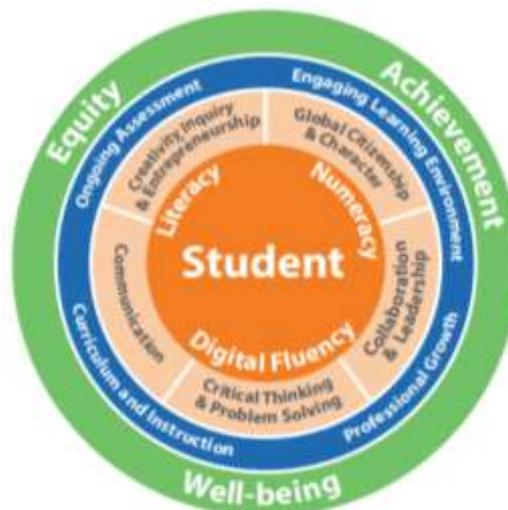


出典：Wikipedia “Toronto District School Board”

トロント地区教育委員会のロゴ



トロント地区教育委員会の建物



出典：TDSB Global Competencies: Annual Update

図3-3 トロント地区教育委員会によって開発された「グローバル・コンピテンシー」モデル

表 3-13 トロント地区教育委員会 (TDSB) が独自に開発した「グローバル・コンピテンシー」モデル

コンピテンシー/要素	内容
<p>批判的思考と問題解決 (Critical Thinking and Problem Solving)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意味のある現実の複雑な問題を解決することができる ・ 問題に対処するために具体的な措置を講じることができる ・ プロジェクトを設計して管理することができる ・ 情報に基づいた意思決定を行うことができる (批判的及びデジタル・リテラシー) ・ 問題を解決するために調査することができる ・ ある状況から別の状況への繋がりを作り、学習を転移させることができる
<p>グローバル・シティズンシップとキャラクター (Global Citizenship and Character)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任をもって倫理的な方法で、地域・世界・デジタルコミュニティの社会と文化に貢献することができる ・ 地域と世界の違いを生む取り組みを行うことができる ・ 多様な人たちから、そして多様な人たちと一緒に学ぶことができる ・ 様々なコミュニティ内で安全かつ責任をもって交流することができる ・ ポジティブなデジタルフットプリントを作成することができる ・ 環境と関わり、すべての生き物の大切さを意識している
<p>コミュニケーション (Communication)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 口頭でも書面でも様々な状況で効果的にコミュニケーションをとることができる ・ 知識を得るために効果的な質問をすることができる ・ 目的に応じて適切なデジタルツールを選定することができる ・ 様々なメディアを使ってコミュニケーションをとることができる ・ あらゆる観点を理解するために耳を傾けることができる ・ 意見を述べ、アイデアを主張することができる
<p>コラボレーションとリーダーシップ (Collaboration and Leadership)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の人から学び、それに貢献することができる ・ 知識・意味・内容を共同構築することができる ・ チーム内で様々なコミュニティやグループとネットワークを築くことができる ・ 多様な視点を尊重することができる
<p>創造性、探求性、起業家精神 (Creativity, Inquiry and Entrepreneurship)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複雑な問題の解決策に貢献することができる ・ コンセプト・アイデア・製品を開発したり、強化したりすることができる ・ 探究や研究を通じて発見することができる ・ コミュニティのニーズを満たすために、新しいアイデアを追求することができる

出典：Toronto District School Board, “TDSB Global Competencies: Annual Update”, 2019。

このトロント地区教育委員会 (TDSB) が開発した「グローバル・コンピテンシー」を見ると、先に見たオンタリオ州教育省による「21 世紀型コンピテンシー」と非常に類似していることがわかる。ちなみにオンタリオ州教育省による「21 世紀型コンピテンシー」と違う点としては、まずコンピテンシーの数である。オンタリオ州教育省では六つを定めているが、トロント地区教育委員会 (TDSB) ではそれを五つとしている。「学ぶことを学ぶ/自己認識と自律的学習」がトロント地区教育委員会 (TDSB) のモデルにはない。

次に使用されている用語も若干違っている。具体的には「イノベーション、創造性、起業家精神」

が「創造性、探求性、起業家精神」となっていること、「コラボレーション」が「コラボレーションとリーダーシップ」になっていること、「グローバル・シティズンシップ」が「グローバル・シティズンシップとキャラクター」となっていることである。

以上のように、同国オンタリオ州では様々な資質・能力が定義されているが、これらを横断的に見ると、図 3-4 に示したようにすべて認知スキルと社会スキルを含む類似した構成になっていることがわかる。この構成は、前章で見た韓国の「核心力量」にも共通するものである。

学習スキルと学習習慣	社会・情動的学習スキル	転移可能なスキル	21世紀型コンピテンシー	グローバル・コンピテンシー	
オンタリオ州教育省	オンタリオ州教育省	オンタリオ州教育省	オンタリオ州教育省	トロント地区教育委員会	
		デジタル・リテラシー			基礎的なりテラシー
		コミュニケーション	コミュニケーション	コミュニケーション	
課題解決能力	批判的・創造的思考	批判的思考と問題解決	批判的思考と問題解決	批判的思考と問題解決	認知スキル
		イノベーション、創造性、起業家精神	イノベーション、創造性、起業家精神	創造性、探求性、起業家精神	
	感情の管理				社会スキル
	ストレスの対処				
学習への積極性	前向きな動機				
責任感					
自己管理能力					
		グローバル・シティズンシップと持続可能性	グローバル・シティズンシップ	グローバル・シティズンシップとキャラクター	
コラボレーション	関係構築	コラボレーション	コラボレーション	コラボレーションとリーダーシップ	
自律性	自己意識の深化	自律的学習	学ぶことを学ぶ 自己認識と自律学習		

注：上から3段目の「イノベーション、創造性、起業家精神」のうち、「イノベーション」と「創造性」は「認知スキル」、最後の「起業家精神」は「社会スキル」に分類されると考えられる
出典：調査団作成。

図 3-4 カナダ・オンタリオ州で活用されている資質・能力モデルの比較

コラム：オンタリオ州教育省「21 世紀型コンピテンシー」と「汎カナダ・グローバル・コンピテンシー」

先に見たオンタリオ州教育省が示した「21 世紀型コンピテンシー (21st Century Competencies)」はオンタリオ州教育省が 2016 年に開発したものであり、同国にとってははかり先進的なものであったと言える。したがって、その後 2020 年にはカナダ教育担当大臣協議会 (CMEC) によって同様のモデルが「汎カナダ・グローバル・コンピテンシー (Pan-Canadian Global Competencies)」として発表された。このモデルでは、相互依存的かつ学際的な態度、スキル、知識、価値観の包括的なセットとして、ローカルやグローバルなどの様々な状況で活用できるものであるとされている。ここで定められた六つのコンピテンシーは、学習者に生活、仕事、学習の変化する継続的な要求を満たす能力を提供するもので、コミュニティ内で積極的に行動し、反応すること、多様な視点を理解すること、世界的に重要な問題に行動をすることなどを可能にするとされている。

この「汎カナダ・グローバル・コンピテンシー」とオンタリオ州教育省の「21 世紀型コンピテンシー」を比べると、児童生徒に習得させたいコンピテンシーとして六つから構成されていることは同じであり、それぞれのコンピテンシーも一つを除いてはほぼ同じである。その一つとは「グローバル・シティズンシップ」能力である。「汎カナダ・グローバル・コンピテンシー」では「グローバル・シティズンシップと持続可能性 (Global Citizenship and Sustainability)」とされているという訳である。また、この「汎カナダ・グローバル・コンピテンシー」は「リテラシー」と「数的能力 (ニュメラシー)」が核として据えられており、この二つの能力を強化するものとして六つのコンピテンシーがあることがわかる。

出典：CMEC 「PAN-CANADIAN SYSTEM-LEVEL FRAMEWORK ON GLOBAL COMPETENCIES」 ホームページ (www.globalcompetencies.cmec.ca/global-competencies)。

CMEC から出されている小冊子 『PAN-CANADIAN GLOBAL COMPETENCIES』



CMECはこの「汎カナダ・グローバル・コンピテンシー」を説明した16頁からなる小冊子を作成しており、その中にそれを構成する六つの能力が図で示されている(図3-5参照)。

なお、この「汎カナダ・グローバル・コンピテンシー」はオンタリオ州だけでなく、他の9州及び3準州においても、これまで独自に州が設定していたコンピテンシーやスキルに大きな影響を与え、州によっては、この汎カナダ・グローバル・コンピテンシーをもとに、見直しや修正が行われたとも言われている。

出典：CMEC「PAN-CANADIAN SYSTEM-LEVEL FRAMEWORK ON GLOBAL COMPETENCIES」ホームページ
www.globalcompetencies.cmec.ca/global-competencies。

図3-5 「PAN-CANADIAN GLOBAL COMPETENCIES」の構造図



表3-14 CMECによって開発された「汎カナダ・グローバル・コンピテンシー」の構成とその内容

コンピテンシー	内容
批判的思考と問題解決 (Critical Thinking and Problem Solving)	この能力には、情報の収集・処理・分析・解釈を通して、情報に基づいた判断と意思決定を行うことで、複雑な問題に対処することが含まれる。問題を理解して解決するために、認知プロセスに取り組む能力には、建設的で思慮深い市民としての潜在能力を達成しようとする意欲が含まれる。意味のある現実世界の本物の経験の中に身を置けば、学習はさらに深まる。
イノベーション、創造性、起業家精神 (Innovation, Creativity and Entrepreneurship)	この能力には、コミュニティのニーズを満たすためにアイデアを行動に移すことが含まれる。アイデアのコンセプトまたは製品を強化して、複雑な経済、社会、環境問題に対する世界で最初の解決策を見出す能力には、リーダーシップとリスクを取ることを、独立した/型破りな思考、新しい戦略、技術または思考の実験が含まれる。起業家の考え方やスキルには、アイデアを持続的に構築し拡張することに重点を置くことが含まれる。
学ぶことを学ぶ/自己認識と自律的学習 (Learning to Learn/Self-Aware & Self-Directed Learning)	学び方を学び、自主性と自己認識をもつということが意味するのは、モチベーション、忍耐力、回復力、自己規制をサポートする性格の発達を含め、学習の過程において主体性を認識し実証することである。そのためには、自分自身の学習能力に対する信念(成長マインドセット)と、自分自身の過去・現在・将来の目標、潜在的な行動と戦略及び結果を計画し、監察し、反映するための戦略と組み合わせることが必要とされる。内省と思考についての考え(メタ認知)は、生涯学習、適応能力、幸福、そして絶えず変化する世界における学習の転移を促進する。
コラボレーション (Collaboration)	この能力には、チームに効果的かつ倫理的に参加するために必要な認知能力(思考と推論を含む)、対人能力及び個人内の能力の相互作用が含まれる。知識、意味、コンテンツを協働して構築し、物理的環境と仮想環境との両方で他者から学び、また他者とともに学ぶために、益々多様化するスキルの多用途性と奥深さが、様々な状況、役割、集団、視点にわたって適用される。
コミュニケーション (Communication)	この能力には、様々な文脈で、様々な他者との接触から目的や意味を受け取り、表現すること(例えば、読み書き、表示と作成、聞いて話す)が含まれる。効果的なコミュニケーションには、ローカルとグローバルの両方の視点、社会的及び文化的背景を理解し、様々なメディアを適切に、責任をもって安全に、そして自分のデジタルフットプリントを考慮して使用し、適切及び変更することが必要になる。
グローバル・シティズンシップと持続可能性 (Global Citizenship and Sustainability)	これには、多様な世界観や視点が反映され、現代の繋がりを考慮し、相互依存していること、持続可能な世界に生きるために不可欠な生態学的・社会的・経済的問題を理解すること及びそれに取り組むことが含まれる。またこれには人々の要請、視点、すべての人にとってよりよく持続可能な未来を構想し、それに向けて取り組む能力を尊重し、積極的な市民として必要な知識、動機、性格、スキルの習得が含まれる。

出典：CMEC「PAN-CANADIAN SYSTEM-LEVEL FRAMEWORK ON GLOBAL COMPETENCIES」ホームページ
www.globalcompetencies.cmec.ca/global-competencies を参照して、調査団が翻訳。

3-3-2 教科書・教材における国際教育（特に現代的諸課題）の扱い

オンタリオ州の教育課程において設定されている教科目の中で「国際教育」に密接に関係していると考えられるものとしては、初等教育における「社会と地理・歴史 (Social Studies, Geography and History)」「科学とテクノロジー (Science and Technology)」、中等教育における「社会科学と人文 (Social Sciences and Humanities)」「カナダと世界学 (Canadian and World Studies)」「ファーストネーション・メיתי・イヌイト学 (The First Nations, Metis and Inuit Studies)」「科学 (Science)」「学際的研究 (Interdisciplinary Studies)」が挙げられる。

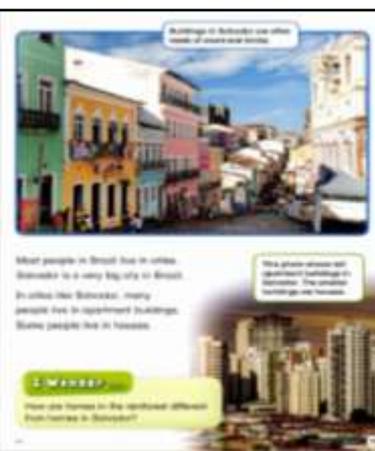
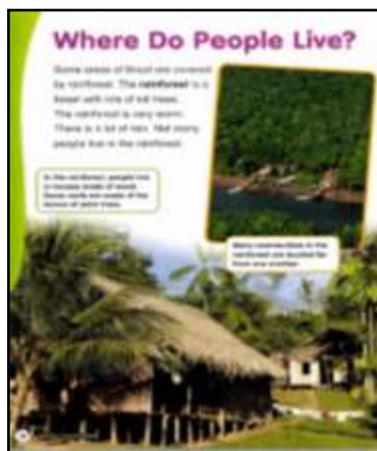
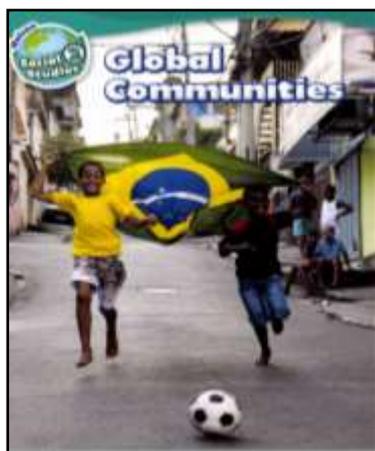
では、これらの教科目のうち、本調査で入手できた教科書について、そこで扱われている国際教育の内容例を見ていく¹²。

(1) 初等「社会と地理・歴史」(1～8年生)

学年	領域	内容 (ビッグアイデアと枠組みをもった問い)	関連する現代的諸課題
2年生	社会分野 (人々と環境) — 「グローバル・コミュニティ」	【ビッグアイデア】 <ul style="list-style-type: none"> 地域の気候と地形はそこに住む人々の生活に影響を与えている 【枠組みをもった問い】 <ul style="list-style-type: none"> 地形と気候は、地球上に住む人々の生活様式の違いにどのような影響を与えているのか? 自然環境は、そこに住む人々のニーズに合うようにどのような影響を与えているのか? 人々はなぜ、それぞれの地域に住んでいるのか? 世界の様々な地域を区別する方法にはどのようなものがあるか? 	・ 異文化理解
5年生	社会分野 (遺産とアイデンティティ) — 「1713年以前の先住民とヨーロッパ人の交流、何がカナダに起こったのか?」	【ビッグアイデア】 <ul style="list-style-type: none"> 人々の交流は、ある人々にとっては肯定的な結果をもたらしたが、他方、別の人々には否定的な結果をもたらした 【枠組みをもった問い】 <ul style="list-style-type: none"> 植民地主義がカナダをどのように形作ってきたのか? 同じ出来事が人にとって異なる影響を与えるのはなぜか? 異なった人々が違った考え方をもちつとすることを理解することが大事なのはなぜか? 私たちはどのようにして自分自身の考え方を形作るのか? また、他者はどのようにして他者自身の考え方を形作るのか? 何が対立を招くのか? すべての紛争には解決策があるか? 他者と協働することはなぜ大切なのか? 	・ 異文化理解
6年生	社会分野 (遺産とアイデンティティ) — 「カナダの地域社会、過去と現在」	【ビッグアイデア】 <ul style="list-style-type: none"> 多くの異なったコミュニティはカナダの発展に大きく寄与した 【枠組みをもった問い】 <ul style="list-style-type: none"> 異なったコミュニティはどのようにカナダのアイデンティティの進化に寄与したのか? どのような経験がカナダにおける異なったコミュニティの物語を形成したのか? またどのような経験があなたの属するコミュニティの物語を形成したのか? 	・ 異文化理解

¹² 以下の各教科目の国際教育に関する「内容」の欄の記載において、「内容 (ビッグアイデアと枠組みをもった問い)」「内容 (ビッグアイデア)」「内容」といった3種類が見られるが、これは当該教科目の教育課程に沿って記述したものである。改訂年や教科目によって記載方法が若干異なっている。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちはどのようにしてある発展や出来事の重要性を決めるのか？ある出来事や発展がある集団にとっては重要であるが、他の集団にとっては重要でないのはなぜか？ ・ あたなの物語はカナダの発展史物語とどのように関係しているか？ 	
6年生	社会分野（人々と環境）— 「カナダのグローバル・コミュニティとの交流」	<p>【ビッグアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カナダとカナダ人の行動は世界において違いをもたらす <p>【枠組みをもった問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カナダが世界中の国々に関わることが重要なのはなぜか？ ・ 世界の人々の幸福と環境は、なぜ、国際協力に依存するのか？ ・ カナダ経済はどのように世界経済と関係しているのか？ ・ 自然災害はカナダや世界にどのような影響を与えるか？ ・ カナダとカナダ人は世界の人々に対して何ができるか？私たちにできることはあるか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際関係・国際協力 ・ 地球環境・気候変動
7年生	地理分野— 「変化する世界の物理的パターン、世界の天然資源：その使用と持続可能性」	<p>【ビッグアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人々の活動はその地域の地形と過程に関係する <p>【枠組みをもった問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 異なった人々は、なぜ、環境や朝鮮の機会に対して異なった反応をするのか？ ・ 人間が行う活動の影響を決定する際、なぜ様々な視点を考慮するのか？ ・ なぜ、地球上の地形は変化するのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境・気候変動



2年生の「社会と地理・歴史」、出版社：NELSON EDUCATION、発行年：2016年

(2) 初等「科学とテクノロジー」（1～8年生）

学年	領域	内容	関連する現代的諸課題
5年生	地球と宇宙システム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間によるエネルギーと天然資源の使用が、気候変動を含む社会と環境に与える長期的な影響を分析し、これらの影響を軽減する方法も提案する ・ エネルギー消費に対する様々なテクノロジーの影響を評価し、個人がエネルギー消費を削減するためにテクノロジーを使用できる方法について説明できる ・ ファーストネーション、メイティ、イヌイットの社会ではエネルギーや天然資源を保存することについて、どのような知識をもっていたのかを調べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境・気候変動

6年生	地球と宇宙システム	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙の状況が宇宙探査に従事する人間に与える影響を分析し、人間が宇宙で社会的、感情的、生理的ニーズをどのように満たすかを説明する 気候変動を含む地球上の環境変化を観察し理解する上での宇宙探査技術の役割を評価する 様々な観点を考慮しながら、宇宙探査が社会的及び環境に与える影響を評価する 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境・気候変動
7年生	地球と宇宙システム	<ul style="list-style-type: none"> 密閉空間での熱損失や周囲空間への熱伝達を減らす技術の利点及び環境的利点を評価する 非再生可能及び再生可能エネルギー源の使用による気候変動に関連する影響を含む、様々な社会的、経済的、環境的影響を分析する 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境・気候変動

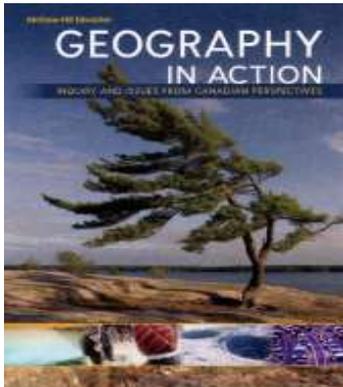


6年生の「科学とテクノロジー」、出版社：GTK PRESS、発行年：2009年

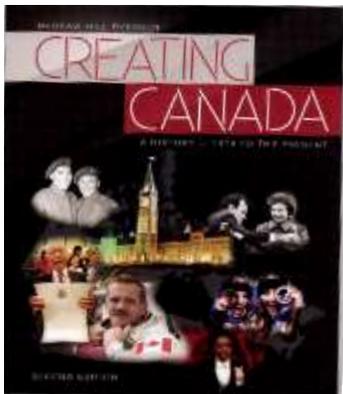
(3) 中等「社会科学と人文」(9～12年生)

学年	領域	内容	関連する現代的諸課題
11年生	公平性の研究—「ジェンダー研究、公平性・多様性・社会的正義」	<p>【ジェンダー研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ジェンダーの社会的構造、力関係及び性別とジェンダー、ジェンダーとしての表現 権利擁護と社会的支援、地域及び世界的な変化、ジェンダーをもとにした暴力とその防止 職場における変化、必要な社会的行動と個人的関与 <p>【公平性・多様性・社会正義】</p> <ul style="list-style-type: none"> アイデンティの社会的構造、力関係、積極的認識と個人の行動 カナダの民族文化の多様性、カナダの公平性と社会的正義、社会的行動 多様性の尊重、人権・公平性・反人種差別、社会的行動と個人的関与 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化理解 移民/多文化共生
11年生	世界の宗教—「世界の宗教と信仰(視点・問題・課題)、日常における宗教と信仰」	<p>【世界の宗教と信仰】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の宗教と伝統的な信仰の学習意義、「神聖」という用語とその概念、世界の宗教のアプローチ 伝統的信仰の機能、意味の研究 教義・実践・教え、神聖な書物と口頭による教え、所定の役割と影響力のある人物 日常生活と神聖な現実、宗教的な儀式 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化理解

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 宗教の文化的側面、社会的側面、社会変化、宗教と市民社会と大衆文化 【世界の宗教と日常の信仰】 ・ コミュニケーション、用語と概念、地方及び世界的な文脈における宗教 ・ 歴史的視点、地域社会における信仰と実践、伝統的信仰と大衆文化 ・ 祭事・祝い事・記念祭、痛快儀礼、日常の遵守事項 ・ 神聖な書物や口頭による教えの役割と影響 ・ 神聖な時間、神聖な場所 	
12年生	公平性の研究— 「公平性・多様性・社会的正義における理論から実践、世界の文化」	<ul style="list-style-type: none"> 【公平性・多様性・社会的正義における理論から実践】 ・ 公平性と社会的正義についてのアプローチと視点、力関係、メディアと大衆文化 ・ 公平性と社会的正義についての歴史的及び現代的課題、リーダーシップ、政策・戦略、イニシアティブ ・ 公平性と社会的正義の促進、参加の機会、社会的行動と個人的関与 【世界の文化】 ・ 文化についての理解、文化的ダイナミクス、文化の理論的分析 ・ 芸術・哲学・宗教、文化的表現、貢献と影響 ・ 文化の力関係、文化についての政策及び課題、社会的行動と個人的関与 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 移民/多文化共生



11-12年生の「社会科学と人文」(地理)、出版社：McGRAW-HILL EDUCATION、発行年：2015年



11~12年生の「社会科学と人文」(歴史)、出版社：McGRAW-HILL EDUCATION、発行年：2014年

(4) 中等「カナダと世界学」(9～12年生)

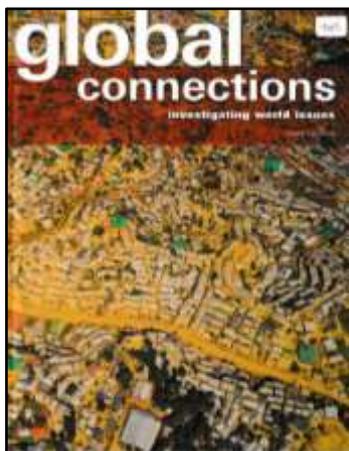
学年	領域	内容 (ビッグアイデア)	関連する現代的諸課題
9年生	地理— 「カナダについて (自然環境の影響、人口変化、生きている地域社会)」	【ビッグアイデア】 ・世界の人口動向と社会的・経済的な問題はカナダの社会に影響を与える ・移民と文化的多様性はカナダの社会に機会と挑戦をもたらす ・カナダにおける人口分布は様々な要因によって決定され、時代のよって変化する 【枠組みをもった問い】 ・世界的な人口問題におけるカナダの対応はどのようにカナダ社会に影響を与えるか？ ・カナダの移民政策においてどのような基準が適用されるべきか？ ・人口統計上の特徴はカナダ社会にどのような影響を与えるか？	・移民/多文化共生
10年生	歴史— 「第一次世界大戦後のカナダ史」	【ビッグアイデア】 (1914～1929年) ・1914年から1929年の時期における国内的、国際的な出来事、傾向や発展はカナダにおける多様な民族や社会に異なった影響を与えた ・1914年から1929年の時期は、カナダや海外において主要な対立や変化をもたらした時期である ・1914年から1929年の時期は、女性や移民、先住民やそのコミュニティに対する対応はカナダ国家のアイデンティティや市民権の発展に大きな影響を与えた 【ビッグアイデア】 (1929～1945年) ・1929年から1945年の時期の主要な出来事(大恐慌、第二次世界大戦)は多様な社会的、経済的、政治的から起こったもので、カナダにおける多様な民族集団や社会に異なった影響をもたらした ・1929年から1945年の時期は、カナダ国内の多様な民族社会の関係に変化を与えただけでなく、カナダと世界の関係も変えた ・様々な個人及び地域社会の行動がカナダの継続的な発展に大きな影響を与えた 【ビッグアイデア】 (1945～1982年) ・1945年から1982年の期間、国内的及び国際的な社会的、文化的、政治的な要因の結果として、カナダ社会は大きな変化を遂げた ・1945年から1982年の期間は、国内的にも国際的にも紛争と緊張によって特徴付けられるが、カナダは世界に協働的な方法で参加を続けてきた ・1945年から1982年の期間は、カナダのアイデンティティに大きな変化が起こった時期である 【ビッグアイデア】 (1982年～現在) ・1982年以降の国内及び世界の文化的、社会的、経済的、政治的、技術的な変化はカナダの人々に大きな影響を与えた ・歴史的な要因はカナダの多様な民族集団とその社会、そしてカナダ政府との間の関係に継続的な影響を及ぼしている ・さまざまな社会的、政治的、そして文化的な発展はカナダの伝統に大きな影響を与えている	・異文化理解 ・移民/多文化共生

10年生	公民— 「公民とシティズンシップ」	<p>【ビッグアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界中の個人や集団は大きな違いをもっている ・生徒を含めた人々は、彼らが属するコミュニティにおいて異なった視点や意見を有している 	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解
11年生	<p>歴史— 「アメリカ史、15世紀末までの世界史、出身地と市民権（カナダの民族史）、1900年以降の世界史（グローバル及び地域的な相互関係）」</p>	<p>【アメリカ史—ビッグアイデア】（1791年以前）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ植民地における新しい生活様式が広まるにつれて、定住者たちは先住民の生活に大きな影響を与えた ・入植者と先住民の関係は対立と協力によって特徴付けられる ・この期間を通じて、ある集団の生活は良くなったが、他の集団の生活は悪化した <p>【アメリカ史—ビッグアイデア】（1791～1877年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国と他国の間に大きな対立が生じた ・移民や領土拡大、さらに奴隷制の廃止はアメリカ合衆国のアイデンティティの形成にボウ役割を果たした <p>【アメリカ史—ビッグアイデア】（1877～1945年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国の急速な発展は国内的、国際的に多くの緊張をもたらした ・この時期に発展したアメリカ合衆国の大衆文化は同国の独自の特徴を世界中に伝えた <p>【アメリカ史—ビッグアイデア】（1945年以降）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際舞台でのアメリカ合衆国の役割は国際化関係及びアメリカ合衆国の政治に大きな影響を与え続けた ・アメリカ合衆国の社会は、多様な地域階層、宗教階層、人種階層、民族階層、階級、政治的階層によって特徴付けられている ・社会的信念、価値、文化、人口動態の変化などはすべてアメリカ合衆国のアイデンティティに影響を与えた <p>【出身地と市民権（カナダの民族史）—ビッグアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な構造と事象は出身国の多様な民族集団の歴史的発展を形作る ・集団の相互関係や人間と自然の相互関係は意図した結果や意図しない結果を導く ・文化とアイデンティティは常に変化する ・多くの場合、個人または集団が母国を離れるように仕向ける重大な契機があった ・制度的な差別や権利の否定によって移民が生じる ・移民は個人的な要因と政治的な要因の両方における複雑な結果から生じる ・歴史的な傾向や個人的な要因が、移民たちがカナダにやってくるのに大きく影響している ・カナダへの移民は機会と挑戦を与えている ・移民はカナダに対して大きな貢献をした ・カナダ移民の出身国の問題は、彼らに大きな影響を与え続けている ・カナダ人は、自分達が異なる、あるいは同化できないと考える人々を常に歓迎してきたわけではない ・伝統と新たな文化的・社会的考えの二つのバランスは決して易しいものではない <p>【1900年以降の世界史（グローバル及び地域的な相互関係）—ビッグアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この期間は、異なった国々や民族集団間の緊張の高まるに特徴付けられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解 ・移民/多文化共生

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際的、地域的な同盟は冷戦時代にその機能が試された ・ この時期のグローバル化は経済的、社会的、政治的に大きな影響を及ぼした ・ 地域紛争は世界の各地域に大きな影響を与えた ・ 人権は世界中で異なった解釈が行われている 	
12年生	<p>地理— 「世界課題 A (地理的分析)、世界地理 (都市傾向と人口問題)、環境資源管理、空間技術の活用、世界課題 B (地理的分析)、持続可能な世界」</p>	<p>【世界の課題 A (地理的分析) —ビッグアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 天然資源の分布は国家の繁栄やその国に住み人々の生活の影響する ・ 世界中の人々の生活の質は、経済的、社会的、政治的、環境的、歴史的な要因によって大きく影響される ・ 統計的な指標は国々を比較したり、グローバル的な課題を分析したりするためのツールとして有効である ・ 人口増加により人眼が環境に与える影響が増大している ・ 生命にとって不可欠な資源は世界共有の資源財産である ・ 貿易や移民は国内及び国際関係に大きな影響がある ・ グローバル化は世界の国々や人々の経済的、環境的、社会的、政治的な影響を与える ・ グローバル化は国家間のハイレベルな経済的統合を結果として引き起こし、文化的統合をもたらす <p>【世界地理 (都市傾向と人口問題) —ビッグアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域的、国内的、そして国際的な要因が地域社会の成長や発展に大きな影響を与える ・ 人間の活動と定住は社会的、環境的、政治的、経済的な結果をもたらす ・ 人口動態の傾向は、世界中の都市の幅広い影響を与える <p>【環境資源管理—ビッグアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間の活動は地球の生態系に直接的あるいは間接的に影響を与える <p>【世界課題 B (地理的分析) —ビッグアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の不平等は、様々な現在及び歴史的な要因によって引き起こされている ・ 世界の人口増加と人口動態の変化は多くの国において社会的、経済的、環境的な挑戦を引き起こしている ・ 人権侵害や生活の質の課題は多くの国の人々に影響を与え続けている <p>【持続可能な世界—ビッグアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絶滅の危機に晒されている生物や空間を保護する戦略は国々にとって重要である ・ 地球とその生態系は相互関係になる多くの要素から成り立っている ・ 世界中の個人、集団、国々は環境を管理する責任を負わなければならない ・ 地球は生命を維持する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移民/多文化共生 ・ 国際関係・国際協力 ・ 地球環境・気候変動
12年生	<p>歴史— 「カナダ (歴史、アイデンティティ、文化)、15 世紀以降の世界史、世界史の冒険」</p>	<p>【カナダ (歴史、アイデンティティ) —ビッグアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初期のヨーロッパ人入植者が政治的、経済的、社会的制度を構築するために負った苦労及び先住民族の生活様式は現在でも波及効果をもたらしている ・ カナダ先住民とヨーロッパからの入植者の関係は対立と協力によって特徴付けられる ・ 初期のイギリス式及びフランス式植民地政策はカナダの文化遺産やアイデンティティの発展に大きな役割を果たした ・ 移民はカナダの発展とカナダ人のアイデンティティの形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 移民/多文化共生 ・ 国際関係・国際協力

		<p>に大きな役割を果たした</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カナダにおける移民政策、同化主義の考え方、地域主義の思想により、一部の集団は包摂されたが、他の集団は排除されるようになった ・国際的な課題や発展はカナダの経済、文化、アイデンティティへの挑戦を大きくしている ・世界的な変化の速度が強まるにつれ、カナダもそれに対応して変化する必要があった ・1945年以降のカナダの多文化主義及び福祉国家政策は国内あるいは海外に住むカナダ人のアイデンティティを形成するのに役立った <p>【15世紀以降の世界史ービッグアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大する貿易や植民地化は人口動態を変化させた ・商業的及び政治的帝国主義の構築には様々な国の関係に大きな影響を与えた ・様々な集団や個人が政治的、社会的、宗教的な考えに疑問を抱き始めた ・グローバル化と脱植民地化は経済、社会、政治を世界の再構築した ・グローバル化は国家及び個人のアイデンティティの形成に大きな影響を与えた <p>【世界史の冒険ービッグアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義は世界中の社会的、文化的なものに大きな影響を与えた ・人口動態の変化は世界中の地域に大きな影響を与えた ・拡大する国粋主義によって、ある集団は彼らの権利を守るために挑戦した ・科学技術の進歩は人々の生活のあらゆる面で大きな影響を及ぼした 	
12年生	法— 「カナダ法と国際法、法学」	<p>【カナダ法と国際法ービッグアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カナダの権利と自由憲章はカナダ人の人権の原則を表している ・カナダ国内あるいは世界において人権は時として制限されたり、脅かされたりすることがある ・国際条約は、国の行動の自由を制限することがある ・多くの国際条約は国際関係を安定したものとすることが意図されている ・国際条約に批准した国においては、有利な点もあれば、不利な点もある <p>【法学ービッグアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カナダ及び世界中における人権についての認識と保護は、グローバル化や技術発展、社会メディアの影響といったある種の力によって影響を受けている ・人権立法は、多様で変化する社会的信念の影響を受ける ・国際的な政策や出来事及び圧力はカナダにおける国内法の改訂を後押しする 	・国際関係・国際協力
12年生	政治— 「カナダ人と国際政治」	<p>【ビッグアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家間の関係は、社会的、文化的、環境的要因に影響される ・カナダの国際機関への参加は時代によって変化してきた ・グローバル・コミュニティは個人や集団による行動から多くの利益を享受してきた 	・国際関係・国際協力

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地理的、人口動態的、経済的、政治的、そして軍事的要因は世界の力関係のバランスに影響を与える ・ グローバル化は政治、文化、経済分野に影響を与える ・ カナダも含め、世界中で多くの人権侵害が起こっている ・ 多くの政府や団体が人権を保護する活動を行っている 	
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

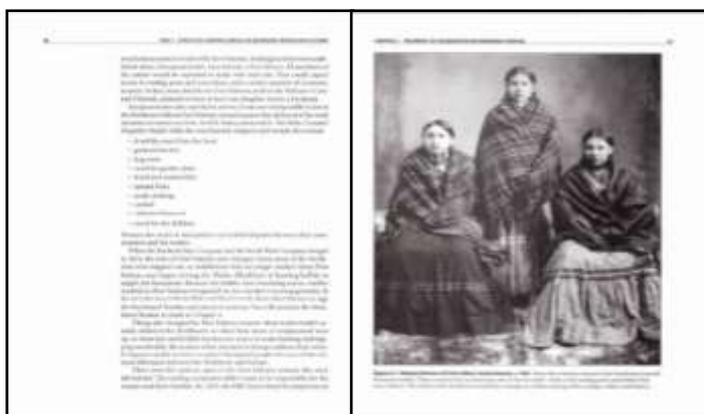
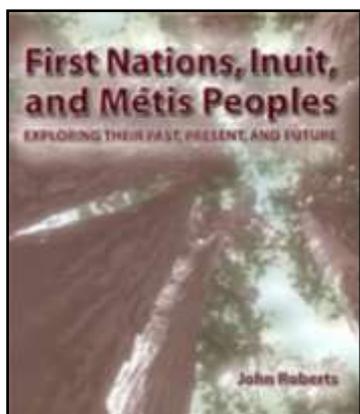


9～12 生の「カナダと世界学」、出版社：PEARSON、発行年：2021 年

(5) 中等「ファーストネーション・メイティ・イヌイット学」(9～12 年生)

学年	領域	内容	関連する現代的諸課題
9 年生	ファーストネーション、メイティ、イヌイット文化の表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人々と土地、彼らのアイデンティティ、自己決定と国家 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解
10 年生	カナダのファーストネーション、メイティ、イヌイット	<p>【1500 年以前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的・経済的・政治的状況、地域社会・対立・協力、アイデンティティ・文化・自己決定 <p>【1500～1763 年：植民地時代—接触・対立・条約】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的・経済的・政治的状況、地域社会・対立・協力、アイデンティティ・文化・自己決定 <p>【1763～1876 年：入植者と国土拡大と先住民】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的・経済的・政治的状況、地域社会・対立・協力、アイデンティティ・文化・自己決定 <p>【1876～1969 年：同化、侵略、そして産業化時代の生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的・経済的・政治的状況、地域社会・対立・協力、アイデンティティ・文化・自己決定 <p>【1969 年～現在：立ち直り、決意、和解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的・経済的・政治的状況、地域社会・対立・協力、アイデンティティ・文化・自己決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 移民/多文化共生
11 年生	現在のファーストネーション、メイティ、イヌイットの声、視点についての理解、カナダにおけるファーストネーション、メイティ、イヌイット	<p>【現在のファーストネーション、メイティ、イヌイットの声、視点についての理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代文学におけるファーストネーション、メイティ、イヌイットの声 ・ 現代メディアにおけるファーストネーション、メイティ、イヌイットの声 ・ 植民地の名称と文化的アイデンティティ、文化的活性化と文化的継続性、文化的理解と文化的主導性 ・ 地域のガバナンス、計画と運営、地域社会の願望・発展と 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解

	ット社会の世界観と願望	<p>リーダーシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 先住民の法的権利と憲法、政策と政策開発、国家的・地域的リーダーシップ 世界的傾向と先住民、社会的行動とリーダーシップ <p>【カナダにおけるファーストネーション、メイティ、イヌイット社会の世界観と願望】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界観の概念、ファーストネーション・メイティ・イヌイットの世界観、文化的認識能力と戦略 植民地主義と植民地化、脱植民地化。回復力・社会変化 伝統的な信念、価値観、習慣の回復、真実・和解・再生、願望・社会的行動 	
12年生	世界的文脈における現代の先住民課題とその視点、カナダのファーストネーション、メイティ、イヌイットのガバナンス	<p>【世界的文脈における現代の先住民課題とその視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様性とアイデンティティ、土地との繋がり、先住民の知識と口頭による伝統継承 経済的・社会的・技術的傾向、人権・社会正義・文化的生存、政治的傾向と力関係、自己決定の概念 国際法と地域法、国内の立法と司法措置、教育と力量形成、社会的行動とグローバル・リーダーシップ <p>【カナダのファーストネーション、メイティ、イヌイットのガバナンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 条約と土地請求権協定、法律、政治的關係 ファーストネーション、メイティ、イヌイットの権利、憲法上の権利、法と政策、変わりゆく政治的關係 土地と自己決定、主権の原理と自己統制、責任と自己決定、国際的な文脈 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化理解 移民/多文化共生



9～12生の「ファーストネーション・メイティ・イヌイット学」、出版社：PEARSON、発行年：2021年

(6) 中等「科学」(9～12年生)

学年	領域	内容	関連する現代的諸課題
9年生	地球と宇宙科学	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙の観察と探査が社会的、環境的、経済的に与える影響を評価する 宇宙観察と探査技術が気候変動、自然災害、その他の現象の理解にどのように貢献するかを評価する 宇宙観察と探査に関連する技術が地球上の持続可能な実践への貢献を含め、様々な分野に適用される方法を評価する 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境・気候変動

10年生	地球と宇宙科学：気候変動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気候変動が人間の活動や自然システムに及ぼす正と負の両方における影響及び潜在的な影響を分析する ・ これまでに行われた研究結果に基づいて、気候変動の問題に対処する現在の個人、地域、国家または国際的な取り組みの有効性を評価する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境 ・ 気候変動
11年生	環境科学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境問題に関連する社会的、環境的課題を分析し、どのように社会的ニーズが環境に関連した科学的努力に影響を与えているのか考える ・ 環境についての科学的知識に貢献する多様な視点を探索する ・ 現代の主要な環境問題についての理解を共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境 ・ 気候変動
12年生	地球と宇宙科学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宇宙探査とそれを促進するために開発された技術は、社会、経済、環境に正と負の影響を与える ・ 宇宙探査には多くの危険が伴う ・ 地球は非常に古く、大気、水圏、岩石圏は時間の経過とともに多くの変化を経てきた ・ 時間の経過とともに変化する地球上の状況は、地球上の生物に正と負の影響を与えてきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境 ・ 気候変動

(7) 中等「学際的研究」(11～12年生)

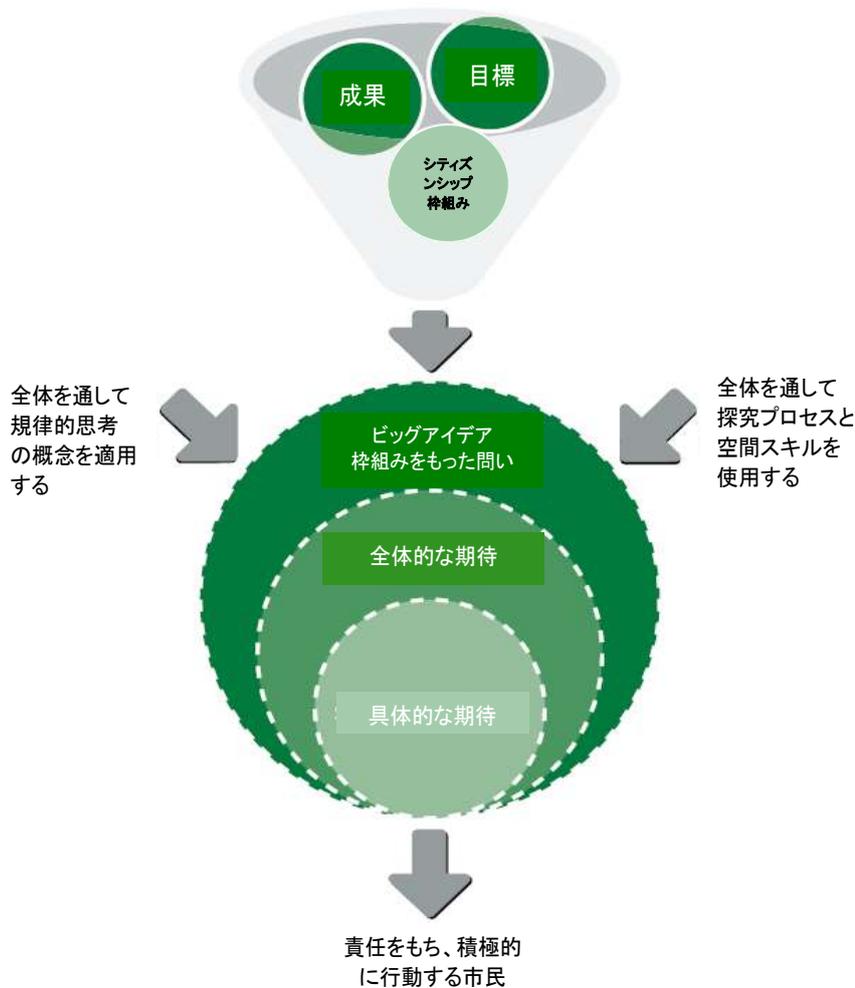
学年	領域	内容	関連する現代的諸課題
11年生	モジュールA	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界宗教・信仰・日常生活 ・ グローバルな視点・地域の視点 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 国際関係 ・ 国際協力
11年生	モジュールB	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界宗教 ・ 環境・資源管理 ・ 古代文明、世界宗教・信仰 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 地球環境 ・ 気候変動
12年生	モジュールA	<ul style="list-style-type: none"> ・ カナダ史・アイデンティティ・文化 ・ 古代文明、地球と宇宙科学 ・ カナダと世界の政治 ・ カナダ法と国際法 ・ 世界史・西側と世界 ・ 現在社会における先住民の信念・価値・願望 ・ 世界宗教・信仰・宗教的伝統 ・ 世界地理 ・ グローバルな文脈での先住民問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 国際関係 ・ 国際協力
12年生	モジュールB	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古代文明 ・ 世界宗教・信仰・宗教的伝統 ・ グローバルな文脈での先住民民族 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解

コラム：「ビッグアイデア」と「枠組みをもった問い」

義務教育段階（1～10年生）におけるオンタリオ州統一カリキュラムでは「ビッグアイデア（Big Ideas）」及び「枠組みをもった問い（Framing Questions）」という新しい概念が導入され、教育課程の中でしっかりと位置付けられている。先にも述べたが、この「ビッグアイデア」とは該当の学習内容に関連する全体的な期待と規律的思考の概念の文脈を提供するものであり、児童生徒が学習によって獲得した理解、それを他の教科へ転移したり、生涯を通じて利用することができる理解を永続的なものにするのを可能とするものであると定義されている。言い換えると、「ビッグアイデア」は全体的な期待と具体的な期待を包含するものであり、これによって児童生徒の理解をより深め、学習効果を高めると同時に、責任をもって積極的に行動する市民の育成に大きな影響をもつものと言える。

他方、「枠組みをもった問い（Framing Questions）」とは全体的な期待とビッグアイデアを結び付ける問いを意味し、児童生徒の批判的思考力を刺激し、現在学習している内容をより広範囲に検討することを促進するものである。

ちなみにオンタリオ州統一カリキュラム、特に義務教育段階の教育課程には、図3-6が示され、その関係性が視覚的に表されている。



出典：オンタリオ州教育省『社会と地理・歴史』2018年、p.8

図3-6 「ビッグアイデア」と「枠組みをもった問い」の位置付け

3-3-3 学校現場での指導体制

(1) オンタリオ州の学校

オンタリオ州の公立の小・中・高等学校はすべて州教育省の管轄下で教育委員会によって運営されており、6歳から15歳までの子どもはすべて無償で義務教育を受けることができる。

公立学校にはパブリックスクールとローマンカトリック系のセパレートスクールの2種類がある。どちらの学校も朝9時頃から始まるが、小・中学校は9時にならないと校舎内に入ることができない。休み時間は、悪天候以外は外で過ごすことが奨励されている。昼食時には給食はないので、一旦帰宅して食べるか、サンドイッチと飲み物などの軽食を持参してランチルームで食べることになる。

例外もあるが、一般的には一つの授業は100分となっており、1時間目は9時10分から10時50分、2時間目は11時30分から1時10分、3時間目は1時50分から3時30分というように、我が国と比べるとゆったりとした時間割になっている。授業と授業の間の休み時間も十分にある¹³。

トロント市では2年保育が一般的で、その年の12月31日までに4歳になる子どもはジュニア、5歳になる子どもはシニアのクラスに入ることができる。学校に幼稚園が併設されている場合もある。

小学校は1年生から8年生までの8年間で、一般的に「英語」「フランス語」「算数」「理科とテクノロジー」「社会と歴史・地理」「保健体育」「芸術」「母語」といった教科目から構成されているが、低学年（1年生から6年生で、「ジュニア・パブリック」と呼ばれる）においては総合的な学習アプローチが用いられ、細かく教科目に分かれていないことが多い。なお7年生と8年生の2年間は「シニア・パブリック」と呼ばれ、我が国の中学校に相当する。ただし「ジュニア・ハイスクール」（9年生まで）という呼称を使っている地域もある。8年生になると進学するか、就職するかを選択することになる。

9年生から12年生の4年間は「ハイスクール」と呼ばれ、我が国の高等学校に相当する。高等学校卒業資格（OSSD）を得るためには30単位（必須科目16単位、選択科目14単位）を履修する必要がある。高等学校では通常、「基礎コース（就職希望者用）」「一般コース（就職・コミュニティーカレッジ・専門学校進学者用）」「アドバンスコース（特殊技術習得のための専門学校。大学進学者用）」の三つのレベルに分かれている。

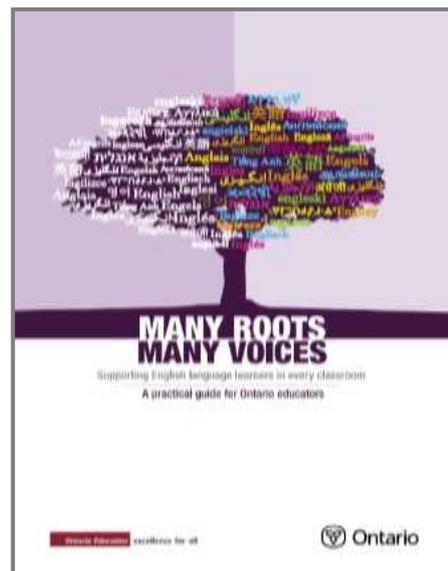
(2) 学校の環境・雰囲気作り

オンタリオ州教育省では学校現場の教員を対象にした『Many Roots Many Voices』という小冊子が2005年に発行され、カナダ移民の子弟を学校が受け入れる場合の心構えや具体的な学級作りの方法が丁寧に紹介されている。新しい移民の子弟を学校が受け入れる際の手続きとして以下のような助言が掲載されている。

- 新しい移民の子弟を受け入れるための特別なプロセスを確立し、校長から支援員まですべての職員がそのプロセスを理解した上で、受け入れ担当チームを編成する。
- 多言語の「歓迎」サインボードを学校に掲げる。
- 親子の最初の学校訪問時には出来る限り通訳を雇用

出典：オンタリオ教育省のホームページ。

『Many Roots Many Voices』



¹³ 時間割は学校によって異なっており、本調査で訪問したトロント市内のマクマリック小学校（McMurrich Junior Public School）では、1コマ30～40分の授業が午前中に4コマ、午後に4コマ、合計8コマがあった。ただし、多くの授業実践は2コマ連続で行われることが多く、実質一授業は80分であった。

し、学校用語（教室、修学旅行、授業登録などに関すること）には時間をかけて説明し、英語能力に関わらず親と子どもの双方が気持ちよく過ごしてもらえる工夫をする。

- 緊急連絡時のために、彼らと同じ言語を使い、かつ英語が話せる友人などを教えてもらう。
- 保護者には校長名や学校電話番号、学校行事や一日の学校生活の流れなどの基礎情報を伝え、親が必要とすると思われる地域の支援情報、例えば、ボランティア支援団体などの情報を伝える。
- 親とよい関係を確立し、今後も学校に関心に向け続けてもらう。



出典：オンタリオ州教育省のホームページ。

エスニックグループの祝祭日を紹介したパネル（左）と多言語で書かれた「歓迎」サインボード（右）

(3) 「アイデンティティ・テキスト」の活用

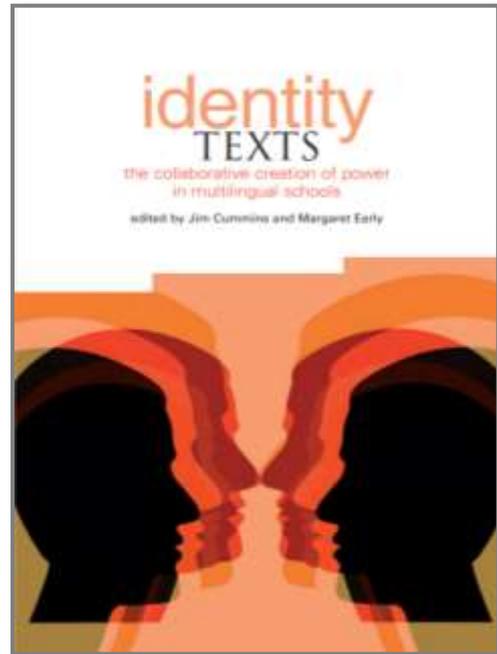
これはトロント大学のカミンズ（Jim Cummins）教授のグループによって提唱されたもので、カナダ移民の子弟が家庭で使う母語と英語の2言語で自らを表現することを通して学習するという、一つのバイリンガル学習実践法を紹介したものである。

この手法の理念的背景としては、一つに移民の子弟が英語や学習についての不安な気持ちで教室の隅に追いやられることなく、安心して学べるような学校環境や、カナダの多文化社会におけるグローバル市民の育成のために、各自の文化が尊重されてはじめて可能になる括弧としたアイデンティティの形成が重要であることが学校や社会で徐々に真摯記されるようになってきたことがある。第二に、移民の子弟の学習効果を発揮させる鍵として、カミンズ教授らは「自身、自尊心、自分の能力についての信念」が重要であるという知見を提示している。つまり、多くの場合、これらが欠落しがちであることが、彼らの学習の障害になっていると考えられるのである。第三に、社会の中の力関係が、教室の中での力関係として表出し、移民の子弟らの学習の達成を妨げていると考えられることである。教室での力関係を対等にし、教員も含め、すべての子ども達がともに学び合い、社会と繋がりながら学んでいくために方策の一つとして、この手法が有効であると考えられるのである。

では、具体的にはどのようなことを行っていくのであろうか。例えば、同じ言語を共有する仲間や、先生や家族やコミュニティの人々の協力を得て、各自が得意とする言語でまず表現し、それを仲間達と2言語の物語や作品として作り上げていくということが挙げられる。ここで、表現する作品のテーマは自由に決められるものがあるが、「祖国の思い出」

「祖国訪問の記録」「祖国の宗教儀礼の紹介」「カナダへ移民してきた日の思い出」など、祖国に関わるテーマが取り上げられることが多い。表現には、言葉だけでなく、絵や写真、ビデオなども活用される。そして、出来上がった作品は教員が見るだけでなく、クラスメイトや家族、さらに場合によってはインターネットのサイトに掲載することで、祖国の祖父母やコミュニティの人々にも見てもらうことを前提とするものである。

このことは、言語を学ぶということが知識を得るための学習であるだけでなく、他者と相互理解しながら、自分の表現したいことを表出する力を得る営みであることを示している。その学習過程で、母語の能力のある家族やコミュニティのメンバーの協力を得ることで、家族やコミュニティとの絆も強化される。さらに、それを発表することで、本人が自信をもつようになるだけでなく、周囲の人々にも参画する契機を与え、相互作用として国際理解教育、すなわち地理的知識の獲得や異文化への理解、自分自身の相対化に機会を提供することにもなる。



出典 : Research Gate

www.researchgate.net/publication/234672199_Identity_Texts_The_Collaborative_Creation_of_Power_in_Multilingual_Schools

「アイデンティティ・テキスト」解説書

3-4 学校現場での国際教育の実施体制・指導方法

本調査では、オンタリオ州トロント市内の二つの学校（マクマリック小学校及びトロント大学附属中等学校）を訪問し、国際教育の実施状況を視察した。

■マクマリック小学校 (McMurrich Junior Public School) (児童数 515 名、教員 32 名)

同校はトロント市の中心部(第 8 地区)に位置する中規模の公立小学校である。幼稚園 (Junior Kindergarten) から 6 年生 (Grade 6) までの児童が在籍し、全 24 クラスで構成される。同校では 4 年生から才能のある子ども (Gifted Children) を集めたクラスがあり、4 年生、5 年生、6 年生のそれぞれ 1 クラスずつある。この周辺の小学校にはこうした英才児クラス (Gifted Class) を設置している学校は同校だけであるため、多くの才能のある子どもは周辺地区から同校にやってくる。1 クラスの児童数は平均 10 名程度であるが、英才児クラスだけは上記のような事情もあり 20~24 名となっている。

同校では、毎年、学校のテーマを決定し、そのテーマについて児童が自身の学習や日々の行動において、そのことを考えながら学びに取り組んでいる。昨年 2022 年のテーマは「VIOCES(声)」であり、そのテーマのもと、「自分たちの所属(Belonging)」について学習を行い、その学習の一環として、校舎内に様々なところに関連する絵を描いた。今年 2023 年のテーマは「優しさ (Kindness)」で、市民性(地域市民、グローバル市民、デジタル市民)について理解を深めていく予定である。



出典：調査団撮影。

マクマリック小学校の正面



出典：調査団撮影。

2022 年「VOICES」のテーマのもとで廊下の壁に描かれた絵

■トロント大学附属中等学校 (University Toronto Schools) (6 学年 675 人、教職員 120 名うち教員 65 名)

同校は 1910 年にトロント大学の敷地内に創設された中等学校で、7 年生から 12 年生の生徒が通っている。公立学校であるが、学費は年間 3 万カナダドル (約 330 万円) 以上であり、トロント市内でトップレベルの成績を誇る名門校である。生徒の民族的出自は、黒人 2%、中華系 46%、韓国系 1%、ラテン系 1%、南アジア系 1%、東南アジア系 1%、白人 16%、民族混成 10%、不明 8% となっている。同校の戦略計画 (Strategic Plan) は反人種主義、公正、多様性の尊重、社会的包摂を掲げ、次世代のリーダー及びグローバル市民を育成するためのカリキュラムが組まれている。



出典：調査団撮影。

トロント大学附属中等学校の正面

3-4-1 学校現場のカリキュラム・マネジメント状況

(1) マクマリック小学校のカリキュラム・マネジメント

同校の1日の時間割は午前8時50分から1時間目が始まり、1コマ40分の授業が8コマ(3コマ目、4コマ目、8コマ目は30分)続く。授業の終了は午後3時15分である。

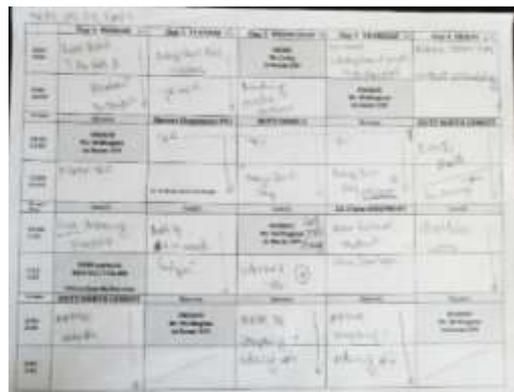
	時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	08:50-09:30			音楽		
2	09:30-10:10				フランス語	
	休憩 (15分)					
3	10:25-11:05	フランス語				
4	11:05-11:35					
	昼食 (30分)					
5	12:35-01:15	体育		フランス語		
6	01:15-01:55					
	休憩 (10分)					
7	02:05-02:45		フランス語			フランス語
8	02:45-03:15					

同校では、各教員が年度初めに大まかな授業計画を作成し、それを週毎の計画に落とし込む。この授業計画は最終的に校長・副校長の承認を得ることになっている。

この週毎の授業計画表に各教員が自身の考えで授業計画を書き込んでいく。ただし、「音楽」「体育」「フランス語」といった専科の教員が指導するコマは予め決定されているので、各教員はそれ以外のコマに自身の授業計画を書き込むことになる。

多くの教員は1コマ目と2コマ目、3コマ目と4コマ目、5コマ目と6コマ目、7コマ目と8コマ目といった2コマを一つの授業として計画・実施する 경우가ほとんどである。

同校では、小学校の前半段階(1年生から6年生)までは教科別の学習よりも教科横断的・教科統合的な学習の方が児童にとって良いという考えから、ほとんどの授業が教科横断的・教科統合的な学習が行われている。教科横断的・教科統合的な学習とは、例えば、訪問時に見学した授業実践がまさにそうであったが、あるテーマと目標を設定して、児童はそのテーマ・目標のもとにプロジェクト型の学習を進めていくというものである。観察した授業では「算数(図形)」と「芸術」と「言語(作文・発表)」といった教科を組み合わせたものであるということであった。



出典：調査団撮影。

同校のあるクラスの週時間割

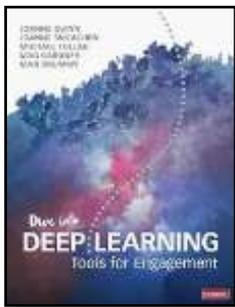
(2) トロント大学附属中等学校のカリキュラム・マネジメント

同校は公立学校であるため、オンタリオ州が掲げるコンピテンシーを参考にしながら、独自の6コンピテンシーに則ったカリキュラムを計画している。なお、同校のコンピテンシーは、オンタリオ州教育省アドバイザーが監修・執筆したカリキュラム・ガイドブック『Dive into Deep Learning』が掲げる6コンピテンシーと同じであった。副校長によれば、同校の各教科教員は、このガイドブックを参照しながらカリキュラムを開発しており、「言語」「美術」などの文系科目だけでなく、理系科目においても、教員はコンピテンシーの育成をめざして柔軟に授業を計画しているということであった。

表 3-15 オンタリオ州、トロント地区教育委員会、トロント大学附属中等学校のグローバル・コンピテンシー

オンタリオ州	トロント地区教育委員会 (TDSB)	トロント大学附属中等学校 『Dive into Deep Learning』に則る
批判的思考と問題解決 イノベーション、創造性、起業家精神 学ぶことを学ぶ/自己認識と自律的学習 コラボレーション コミュニケーション グローバル・シティズンシップ	批判的思考と問題解決 グローバル・シティズンシップとキャラクター コミュニケーション コラボレーションとリーダーシップ 創造性、探求性、起業家精神	キャラクター 批判的思考 創造性 シティズンシップ コラボレーション コミュニケーション

コラム：カリキュラム・ガイドブック 『Dive into Deep Learning』



この本は、オンタリオ教育省のアドバイザーを勤める教育コンサルタント Joanne Quinn らが執筆したカリキュラム・ガイドブックである。Sage 社の子会社の Corwin から 2020 年に出版された。同校のコンピテンシーは本書のコンピテンシーに則っている。理論と実践の指南だけでなく、下表のような項目を作成できる具体的なツールを含む。また学校と教育委員会の活動も具体的に解説している。同校副校長はしばしば Deep Learning に言及しており、このガイドの日常的な参照が伺えた。『Dive into Deep Learning』が提供するカリキュラム開発ツールの一覧（同書 1 章より）

Global Competencies	Designing Deep Learning	Building Capacity for Deep Learning
Deep learning progressions: Character Citizenship Collaboration Communication Creativity Critical Thinking Student-Friendly Deep Learning Progressions Student Assessment Tool	Learning Design: Rubric Planning template Coaching Tool	Teacher Self-assessment Tool Simple Conversation Guide Rubrics: School conditions District conditions

■グローバル・シティズンシップ教育に関するカリキュラム・マネジメント

面談からわかったことは、同校の国際教育（同校では「グローバル・シティズンシップ教育」と呼ばれていた）が、教科内よりも、連携カリキュラム (Co-Curricular) と呼ばれる、教科外での教育活動で実施されていることであった。連携カリキュラムとは、これまで特別カリキュラム (Extra Curricular) と呼ばれていたものに近く、教科教育外活動を指す。特別カリキュラムがダンスやスポーツなど正規の教育活動と直接関係しないものであるのに対し、連携カリキュラムは、教科教育の内容を促進するカリキュラムである。例えば、連携カリキュラムとしてのスピーチクラブでは、ディベート活動において、「カナダと地理」の教科知識と関連した内容を行うなどである。

表 3-16 は同校の連携カリキュラムの一部である。主に三つの種類に分かれているようである。第一に、カナダ国内で校外の同世代の生徒とともに行う活動、第二に地域社会との連携活動、第三に国際交流である。国内生徒交流では、グローバル・シティズンに関するセミナーやコンテストに参加する。地域連携では、「若者とフィランソロピー活動」において、地域社会の調査や地域の人々との交流を通じて市民性教育を行う。国際交流では、同校の生徒がパートナー校の国・地域を訪問し、生徒や地

域組織と協働する中で、グローバル・シティズンシップ能力を身に付けることが目指される。面談では、教員たちの関心が三つ目の国際交流に最も高いように感じられた。同校はドイツ、デンマーク、イタリア、中国、アメリカに提携校があり、この協定校間で活発な生徒交流が行われている。

表 3-16 トロント大学附属中等学校における連携カリキュラムの種類と内容

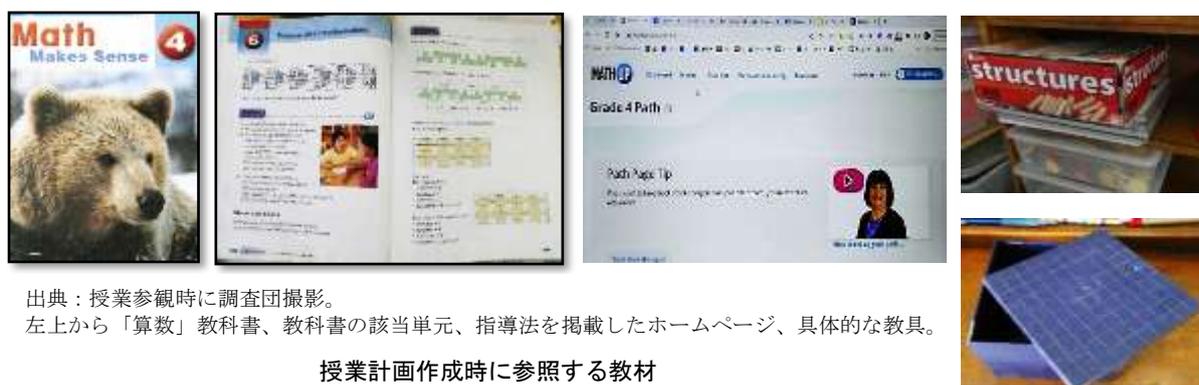
連携カリキュラムのプログラム		ねらいと内容
国内 生徒 交流	国連シミュレーション	高校生が主催する国連の会議のシミュレーション活動に参加。3日間にわたり国際関係を模擬演習する。世界で最も古い会議と言われている。
	スピーチ・ディベート	地域や海外での討論会へ参加する。夏休みにはキャンプを行う。現代の社会的課題について学び、討論する。
	グローバルアイデア院	トロント大学ムンク・グローバル問題研究所の専門家が開催する高校生向けセミナーへ参加。
地域	若者とフィランソロピー活動	YPI (Youth and Philanthropy Initiative) が運営する高校生向けプログラムで、政府や民間財団から寄付金を募り、高校生が寄付金の使い道を地域組織（フードバンクや中毒患者支援組織など）とともに調査・開発するプログラム。参加する高校生は自らの調査結果と助成プログラムをプレゼンし、優勝者の計画には実際に助成金が支払われる。この活動に参加する高校は、参加する生徒に対し正規の教科書として成績をつけることが義務付けられる。
国際 生徒 交流	パートナー校との国際交流 (デンマークでの演劇)	同校の演劇クラブの生徒と協定校の生徒が同じ演劇を行うワークショップ。事前に台本を共有した上で、訪問後に対面で台本をともに議論しながら演じる。台本はグローバル・シティズンシップに関連するものを採用している。
	パートナー校との国際交流 (ドイツでの民主主義の学び)	同校の希望者がドイツの協定校を訪れ、市内の社会科見学をともに行う。「公共的空間は民主主義においてどのような役割を果たすか」という問いをもとにワークショップを行う。

出典：聞き取り及びホームページより調査団作成。

3-4-2 教員の授業計画（準備方法、学習指導案）

(1) マクマリック小学校の授業計画

各教員はそれぞれ週毎の授業計画を作成し、校長・副校長から承認を得た上で、その計画を各教室において実践している。1テーマの学習には2週間程度をかけて行っており、そのための教材準備などを様々な資料を使って準備している。例えば、訪問時に視察した授業実践は、このテーマ全体の学習の4コマ目に相当し、「算数」「芸術」「言語」などの教科内容を統合したものであるため、算数の教科書、算数指導の情報が掲載されたホームページ、具体的な教具を参照しながら、詳細な授業案を検討したということであった。



出典：授業参観時に調査団撮影。

左上から「算数」教科書、教科書の該当単元、指導法を掲載したホームページ、具体的な教具。

授業計画作成時に参照する教材

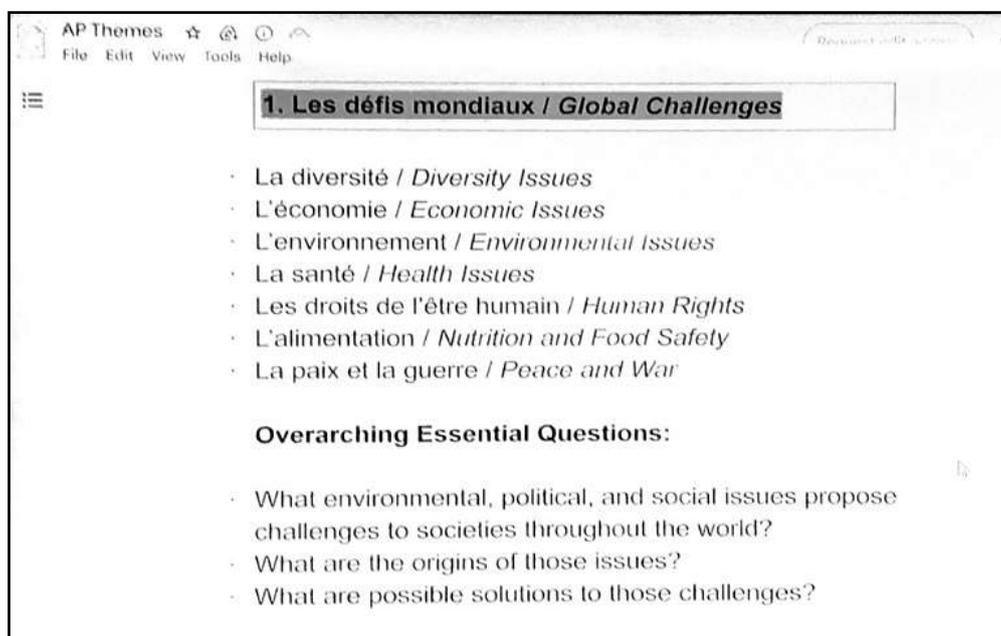
同校では、各教員が自身の授業内容をオンラインで毎日発信しており、保護者が閲覧可能となっている。調査団の同校に訪問前日に、児童は近くの Cedavale Park に校外学習に出かけており、その校外学習の内容や児童の行動がホームページに詳細に記載されていた。こうした学校での児童の学びの状況をホームページ上で閲覧できることから、保護者も安心して子どもを学校に任せられるということであった。

(2) トロント大学附属中等学校の授業計画

具体的な授業計画については、フランス語教員の Kelly 氏から授業準備について話を聞くことができた。同校では、高校ではなく大学レベルのフランス語能力を生徒に学ばせるための独自カリキュラムを作っている。この能力レベルとは、Scholastic Assessment Test (SAT)などを運営する NPO「College Board」の試験の一つ、Advanced Placement プログラム（通称 AP テスト）が定めるものである。AP テストは、多様性、環境問題、保健、人権、平和などのテーマに沿って、受験者がグローバルな問題を問い、答えるような問題を出題している。AP テストの内容に沿って授業計画を立てることで、グローバル・シティズンシップ教育を実現しているという。

扱う教材は主にフランス語で書かれたニュース記事である。あるトピックについてフランス語文化圏の各国の対応を、フランス語ニュースから読み解き、文化比較を行う。この授業において、普段から本物の資料にあたる癖をつけさせ、また文化比較においてステレオタイプに陥らないように指導している。

カリキュラム作りにおいては、Kelly 氏は同校のもう一人のフランス語教員と協力しているとのこと、主に教科の中で教員が協働しているようである。指導案を作る際には、まずオンタリオのカリキュラムを参照し、例えば、読解や作文の領域の内容を自分たちで解釈し、開発するという。授業では資料共有・宿題提出などが Google のプラットフォームで行われていた。



出典：授業参観時に調査団撮影。

図 3-7 参観授業で使用された AP テストの一例

3-4-3 授業実践の様子と学習者に対する評価

(1) マクマリック小学校の授業実践

調査団は4年生の英才児クラスを担当する Zelia Capitaio-Tavares 先生の授業実践を観察した。この教員は40代女性で、これまでに24年の指導歴をもっている。2022年にはSTEM賞を獲得した同校でも優秀な教員の一人であるということだった。調査団が観察した学級の構成は次のようであった。

- 学年：4年生
- 英才児クラス
- 児童数：20人（男子5人、女子15人）
- 学習内容：教科横断・統合的な学習（「算数」<図形・計測>、「芸術」「言語」<作文・発表>を統合）

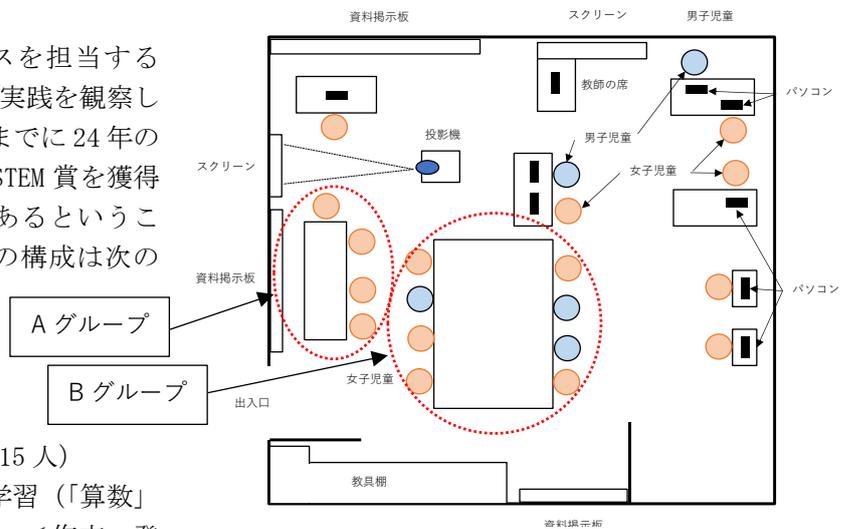


図3-8 教室の状況

授業テーマは、トロント地区教育委員会（TDSB）が小学校の児童に依頼し、公共スペースにトロント市のランドマークとなり得るような建築デザインを作成したという設定で、各児童が個人個人でこの建築デザインを考え、絵を描き、最終的立体モデルを作成するというものであった。教室には、常時この授業の内容と活動がスクリーンに投影されていた。この投影された授業内容と活動の次のようなものであった。

ビッグアイデア：

- パブリック・アートは公共スペースに展示され一般市民の注目をひく。
- 様々な地域にある主要なパブリック・アートの概念を理解し、自分自身でその例を考えデザインする。

学習活動（ミッション）：

- <前提>トロント地区教育委員会は小学校の児童を対象に屋外に展示する建築デザインを募集しました。
1. 屋外に展示するパブリック・アートについて、どのような役割をもっているか、あなたの考えを文章で表現しましょう。
 2. その考えに基づいて、あなた自身が考えるパブリック・アートをデザインしてみましょう（ラフな絵を描いてみる）。
 3. その絵を友達や先生に見せて、コメントをもらいましょう。（コメントは紙に書いてもらう）。
 4. そのコメントに基づいて、ラフな絵をもっと精緻に描いていきましょう。
 5. 精緻な絵をもとにして、3Dのモデルを作りましょう。
 6. 3Dモデルの説明文を考え、口頭で発表を行いましょう。

発展学習：

1. あなたのデザインは誰を主対象としていますか？（家族？子ども？大人？年配者？）
2. あなたのデザイン作品の特徴や魅力的な点を発表しましょう。

教室の壁に常に投影されていた本時の「ビッグアイデア」と「学習活動（ミッション）」

本時の授業は、基本的には各児童一人ひとりがパブリック・アートの作成に取り組むというものであったが、その作成過程ではグループによる協働が奨励されていたようで、このクラスでは「A グループ」(4人の女子児童)と「B グループ」(3名の男子児童と5名の女子児童)が構成されており、「A グループ」は「アイデア(ここではパブリック・アート)をどう創造していくか?」という思考過程を検討することを4名でお互いに意見を出し合いながら行っていた。もちろん、そのヒントは彼らが向かっている壁にコンセプトマップのような説明がきっちりと整理されて書かれていた。

他方「B グループ」はパブリック・アートについての具体的な絵を描いており、その作業の中で8名はお互いに意見を出し合ったり、絵(素案)を見せ合ったりしていた。「A グループ」でもなく、「B グループ」でもない児童は、個々人でパブリック・アートについての情報や例をパソコンで収集したり、もしくは「Scratch」(プログラミングのソフトウェア)を使用して、それぞれゲームを作成したりしていた。

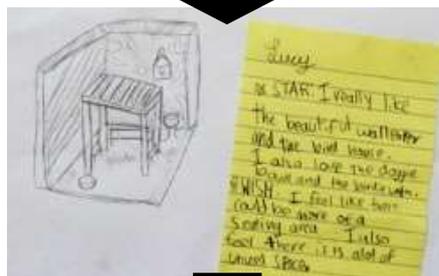
「A グループ」が取り組んでいた思考過程を詳細に説明すると、「問題の定義(Define the problem)」「理想(Ideals)」「試行(Test)」という四つの項目が循環的に円で示されており、その中央に「共感(Empathy)、ユーザー、ニーズ」という用語が配置された図で表示されていた。それぞれの項目の下には、各項目が意味する内容について説明文が加えられていた。各グループにはリーダーが決められており、B グループは基本的にペアでお互いの作品の進捗状況について説明し合い、コメントをし合う活動であった。また各児童は、机に並んで座ったり、教室内にあるクッションを敷いて床に座ってローテーブルで活動をするなど、それぞれが学びたい姿勢で学習に取り組んでいた。

本時までのある児童の学習進捗を時系列に見てみると、次のようにアイデアが発展していることがわかり、この児童が確実にこの授業実践を通して目的の達成に近付いていることが理解できる。



① 第1段階

児童自身がイメージするパブリック・アートの案の概要をいくつか描く。



② 第2段階

上記の第1段階で描いたラフな絵について、クラスメイトからもらったコメントを受けて、精緻なデザインを描く。

黄色の紙にはクラスメイトのコメントが書かれている。なお、このコメントの書き方は掲示板に示されており、「STAR(良いところ)」と「WISH(こうするともっと良くなると考えるところ)」の二つの視点からコメントすることが推奨され、単に「よい」や「わるい」といった単語による表現にならないように工夫されている。



③ 第3段階

精緻な絵を、立体モデル作成を踏まえて、さらに具体的なデザインにしていく。

この児童のデザインは第1段階から比べると、かなり具体的になり、イメージがしやすいものとなっていることがわかる。

出典：調査団撮影及び作成。

ある児童の学びの進捗状況(時系列での作品の質の比較)

(2) トロント大学附属中等学校の授業実践

調査団は二つの授業実践を観察した。教員のプロフィールと教科は以下の通りである。

■教員のプロフィール

地理：Richard Cook 教諭（保有資格は、社会科及び教育学専攻の教員資格（二つの学士資格）、環境と資源学の修士）、UTS のグローバル・シティズンシップ教育担当

フランス語：Jennifer Kelly 教諭（保有資格は、フランス語教員資格（学士）、言語とリテラシー研究の修士）

■地理の授業：

(ア) 学年：9年生

(イ) 生徒数：24人（3人白人、3人アジア系、18人中華系）

(ウ) 机の配置：二重のコの字型

(エ) 学習内容：天気と気象：

ある地域の気候の要因を探究的に学習。7年生で学習した内容を、ジグソー法を用いて復習した。教員の意図としては科学とも関連させたい（授業後のコメントより）。本授業では、気候の要因を六つ提示し、各要因について4人のグループで情報収集し、後に自身のグループで説明（コミュニケーション）を行うもの。本授業は情報収集段階で終了時間となった。

14:40 授業開始、調査団についての説明

14:41 宿題の確認と振り返り

14:47 本日の活動の説明

57 T: “どの Learning Skills を学習しているかわかる？”

S あまり聞いていない

59 課題の提示 天気と気象

Learning Goals: to understand difference of weather and climate の提示

活動の Outline の提示

T: “気候に影響を与えるのは何か？ (Factor that affects climate?)”

T: “これについて調査や探究をしましょう。(our exploration or inquiry)”

15:01 T: “何人がジグソーをしたことがある？”

Ss: 大きな声で統制なく発言、または、ワーワー言っている（調査団）

T “ジグソーパズルの意味は何でしょうか？”

05 T: 活動の仕方の説明、ジグソーの説明を行う。生徒はわかったのか（調査団）

07 T: Jigsaw の説明。スライドで示す。

08 T: 各 factor の提示（図のみ）Latitude, Ocean currents, wind, elevation, relief(フェーン現象のような図), water

09 T: スライドで活動の仕方の説明・・・活動場所の説明、図だけでは足りないので説明を箇条書きで加える。自分の担当する要因を説明するのに役立つ三つの便利な図、イメージ、画像、地図を準備 (To locate 3 useful graphics, images, maps, to help explain your assigned factor.)

13 活動開始

4人グループ、PCで情報収集。

生徒はグループ作成に慣れており、ノイズは多いがおおむね課題に取り組む（調査団）

38 T: “どれぐらいの人が終わった？” ← 半分以上が手を挙げる（調査団）。

T: “次の活動は何か？”

S: “コミュニケーション”

T: “どのようなグループがよいか？”

S: “6人グループ”

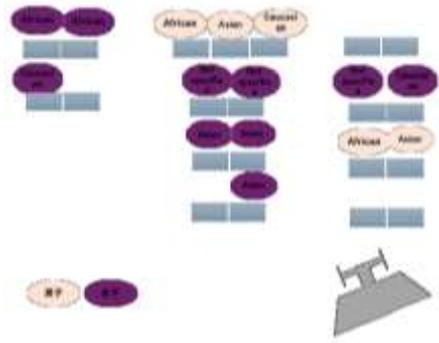
T: “そうそう。”

41: (コミュニケーションの) 練習をしている？ 次のクラスはコミュニケーションです。

45: 解散

■フランス語の授業：

- (ア) 学年：12年生
- (イ) 生徒数：15人（4人黒人、5人中国系、3人白人、3人ラテン系）男子5名、女子10名
- (ウ) 机の配置：図3-9参照
- (エ) 学習内容：フランス語の口頭発表、読解、作文力量を高める授業。内容は、最新の時事トピック、例えばChatGPTなどのテクノロジーやカナダの男女賃金などの人権問題を扱う。12年生の一年間をかけて大学1年生レベルのフランス語能力検定（APテスト）の合格を目指す。



- 14:40 第1パート。各グループで自分たちが調べたことのプレゼンの練習 出典：調査団作成。
- 14:47 第2パート。あるグループがChatGPTについて、その概要、問題点等を調べたことをプレゼン。4人はラテン系の1人がリーダーで大部分を発表、それをサポートするやはりラテン系の女子がサポート。残りの2人のうち、白人の女子は最も簡単なパートを少し話し、あとは黙っていた（プレゼン後も終始一人きりで黙っていた）。
- 14:55 質疑。グループで寡黙だった黒人男子2名が積極的に質問。
- 15:00 Kellyが次のニュース番組映像の説明をし、クラス全員で3回視聴。聞き取った内容を下に、プリントの質問に各自が答えを記入。作業後、全員で確認。

図3-9 教室の生徒の配置状況

第3パートが授業の主活動であり、賃金の男女差に関するテレビインタビューを視聴し（図3-10：ニュース番組司会者が、女性の活動家にインタビューする動画）、個人作業として、その内容をプリントを使って確認、クラス全体で答えを共有していた。グローバル・シティズンシップ教育としては、ニュース番組のテーマを「賃金の男女差」としている（図3-10は授業で用いたフランス語ワークシート）、とのことであった。教員の話す時間はほとんどなく、活動中心で授業は進んだ。また生徒の質問に対しても、教員が答える場合と生徒が答える場合の両方があった。



これは聴き取り
練習・レベル01

1. これは聴き取り練習をテーマとしたインタビューです。どのように解釈しましたか？動画を1分35秒まで見て正確に二つつけてください。

このビデオ
セシムは、
露/Aジェム
差点を討

**インタビューの主旨説明
(フランス語の読解)**

レベッカ・アム
露
露決して、自分の

2. 女性と男
が使用し
アージュを一緒に使ってください。

ふは聴き取り
アージュを一緒に使ってください。

<p>パーセンテージの選択</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>	<p>これは、所定の割合と、 露の割合に対する（露 て露の）露の割合で</p>
-----------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------

フランス語の聞き取り課題
画面のレベッカの主張を聞き取り、発言内容（右側）と、そこで提示された数値（左側）をマッチングさせる

これは無題に決める必要
ありません。

3. この学習活動を終わらせるために生徒は時間を1分35秒から聴き取りビデオを見て、同じ意味の動画を一つつけてください。

出典：調査団撮影。

図3-10 AP試験の出題トピックに対応し、本授業では男女賃金格差が取り上げられた

(3) マクマリック小学校の学習評価

児童の学習の評価は、オンタリオ教育省が定めている正式なものとして1年間に3回実施する必要がある。1回目は、11月のプログレス・レポートであり、ここでは評定A~Dは付けず、チェックリストによる評価となる。例えば「Very Well」「Well」「Problem」といった項目がある。2回目は、2月に出される1学期成績レポート隣、A, B, C, Dといった4段階の評定がつけられる。3回目は5月に行われ、学期末成績レポートとして評定が付けられる。

上記の評価には、『Growing Success: Assessment, Evaluation, and Reporting In Ontario Schools』(オンタリオ教育省、2010年)に示されたフォーマットが使われ、生徒・保護者に提示される。図3-11で示されるフォーマットに右側には、以前のカリキュラムで用いられていた「学習スキルと労働習慣」のコンピテンシーに沿った評価項目が並んでいる。今後はオンタリオ州の新しい「21世紀コンピテンシー」あるいは「転移可能なスキル」に置き換わる可能性がある。



出典：オンタリオ州教育省のホームページ。

オンタリオ教育省
『Growing Success』

Ontario Ministry of Education **Elementary Progress Report Card** (Board copy)

Date: _____

Student: _____ DEN: _____ Days Absent: _____ Total Days Absent: _____
 Grade: _____ Teacher: _____ Times Late: _____ Total Times Late: _____

School: _____
 Address: _____
 Principal: _____ Telephone: _____

Religious and Family Life Education

Learning Skills and Work Habits

Responsibility

- Fully responsible and committed within the learning environment
- Completes and submits tasks with interest and responsibility according to agreed upon track
- Takes responsibility for and manages own behaviour

Organization

- Develops and follows a plan and process for completing work and tasks
- Establishes priorities and manages time to complete tasks and achieve goals
- Seeks, gathers, analyzes, and uses information, technology, and resources to complete tasks

Independent Work

- Independently monitors, assesses, and revises plans to complete tasks and meet goals
- Uses tools and strategies to complete tasks
- Follows requirements with minimal supervision

Collaboration

- Accepts various roles and an equitable share of work in a group
- Responds positively to the ideas, opinions, values, and actions of others
- Builds healthy peer-to-peer relationships in person and through personal and media-assisted interactions
- Works with others to resolve conflicts and build consensus to achieve group goals
- Gathers information, resources, and expertise and promotes critical thinking to solve problems and make decisions

Initiative

- Looks for and acts on new ideas and opportunities for learning
- Demonstrates the ability for innovation and a willingness to take risks
- Demonstrates curiosity and interest in learning
- Approaches new tasks with a positive attitude
- Recognizes and celebrates appropriately for the rights of self and others

Self-Regulation

- Sets own individual goals and monitors progress towards achieving them
- Seeks clarification or assistance when needed
- Assesses and reflects critically on own strengths, needs, and interests
- Identifies learning opportunities, obstacles, and strategies to meet personal needs and achieve goals
- Persistence and makes an effort when responding to challenges

Strengths/Next Steps for Improvement

05-GAR02 (2010/02) © Queen's Printer for Ontario, 2010 Grades 1-6 Page 1 of 2

Student: _____ DEN: _____ Grade: _____

ESL/EFL - Achievement is based on expectations modified from the curriculum expectations for the grade to support English language-learning needs. IEP - Individual Education Plan. NA - No instruction for subject/strand

Subjects	Progress and Next Steps	Progress		Next Steps
		Very Well	Well	
Reading/Writing, Oral Communication, Media Literacy	<input type="checkbox"/> ESL/EFL <input type="checkbox"/> IEP <input type="checkbox"/> NA			
French	<input type="checkbox"/> ESL/EFL <input type="checkbox"/> IEP <input type="checkbox"/> NA			
Native Language	<input type="checkbox"/> Core <input type="checkbox"/> Immersion <input type="checkbox"/> Extended			
Mathematics	<input type="checkbox"/> ESL/EFL <input type="checkbox"/> IEP <input type="checkbox"/> NA			
Science and Technology	<input type="checkbox"/> ESL/EFL <input type="checkbox"/> IEP <input type="checkbox"/> French			
Visual Arts	<input type="checkbox"/> ESL/EFL <input type="checkbox"/> IEP <input type="checkbox"/> French			
Music Education	<input type="checkbox"/> ESL/EFL <input type="checkbox"/> IEP <input type="checkbox"/> French			
Physical Education	<input type="checkbox"/> ESL/EFL <input type="checkbox"/> IEP <input type="checkbox"/> French			
Dance	<input type="checkbox"/> ESL/EFL <input type="checkbox"/> IEP <input type="checkbox"/> French <input type="checkbox"/> NA			
Draws	<input type="checkbox"/> ESL/EFL <input type="checkbox"/> IEP <input type="checkbox"/> French <input type="checkbox"/> NA			
Visual Arts	<input type="checkbox"/> ESL/EFL <input type="checkbox"/> IEP <input type="checkbox"/> French <input type="checkbox"/> NA			
Visual Arts	<input type="checkbox"/> ESL/EFL <input type="checkbox"/> IEP <input type="checkbox"/> French <input type="checkbox"/> NA			

To Parents/Guardians and Students: This copy of the progress report card should be retained for reference. The original or an exact copy has been placed in the student's Ontario Student Record (OSR) folder and will be retained for five years after the student leaves school.

Teacher's Signature: _____ Principal's Signature: _____

(Space Designated for Board)

05-GAR02 (2010/02) © Queen's Printer for Ontario, 2010 Grades 1-6 Page 2 of 2

出典：Ontario, “Growing Success” 2010.

図3-11 オンタリオ教育省『Growing Success』の巻末に示されたプログレス・レポートのフォーマット

(4) トロント大学附属中等学校の学習評価

公立学校である同校の評価システムは、マクマリック小学校と同様、オンタリオ州の『Growing Success』に則っていた。

上記のフランス語の授業について評価方法を尋ねたところ、以下のような評価を行うとのことである。

- フランス語の授業では、フランス語の使用能力を、筆記と口頭プレゼンテーションによって質的に評価する。
- 筆記においては、課題への回答、実際の人物への手紙などを評価ツールとしている。
- プレゼンテーションでは、10分間の準備とそれに続く2分の口頭発表で評価する。
- グローバル・シティズンシップ教育は、言語活動の内容として提供される。筆記課題や口頭発表の題材にグローバル問題を扱っており、これらの情報をまとめるときに、グローバル市民の感性が問われる。

連携カリキュラムにおける評価手法も、教員による質的評価で行われる。まず連携カリキュラムは、希望者に対して行うことから、参加者選考があり、それが評価となる。主にはチェックリストを満たした生徒が参加を許可される。連携カリキュラムはリーダーシップ教育の一環で行われることもあり、生徒の参加の動機や学びたいことを教員が面談で聞き取る。これも評価である。プログラムによっては活動後に評定が行われる。

3-5 教員の能力強化

3-5-1 研修プログラムとその内容

(1) グローバル・シティズンシップ教育に関する教員養成・現職教員研修（オンタリオ州）

■教員養成課程

オンタリオ州では移民の増加や先端技術に対応する教師教育改革が主張され、2015年には半世紀ぶりに教員養成プログラムの改革が行われた。教員養成課程が1年から2年に延長され、教育実習も40日から80日に倍増した。そして、従来以上に重視して扱わなければならない科目として、「子どものメンタルヘルス」「特別な支援が必要な子どもへの教育」「学習指導時のICT活用」「公正と多様性」などの中核内容が定められた（児玉、2022）。グローバル・シティズンシップ教育は主として「公正と多様性」に相当するものと思われる。調査団が訪れたトロント大学では、この「公正と多様性」を扱うコースとして「グローバル教育」と「公正とインクルージョン」が必修となっていた。

注目すべきことは、オンタリオ州ではグローバル・シティズンシップのコンピテンシーを子どもに育むために、教員にも同様のコンピテンシーを求めている点である。つまり、国際教育（現地では「グローバル・シティズンシップ教育」という呼称が使われた）といった内容を子どもに単に伝達するだけではなく、教員がその市民性能力を身に付けることを求めている。

オンタリオ州の教員養成課程と資格認定はオンタリオ州教員協会によって規定されており、オンタリオ州内の16大学（18機関）がこれら規定に沿って教員養成課程を開発・実施している（児玉、2022）。2015年の改革以降、教員養成課程が開発すべき項目（科目）は次の21項目にわたっている。

1. オンタリオのカリキュラム	8. 子どもの観察と評価	15. 同僚教員との関係構築
2. 教育研究とデータ分析の方法	9. 英語学習者の支援	16. オンタリオ社会についての理解
3. 子どもの学習を進める探究型の研究・データ・評価	10. フランス語学習者の支援	17. 先住民の物の見方・文化・歴史・考え方
4. 教授・学習ツールとしてのテクノロジー利用	11. 特定のカリキュラム領域の教授方法と評価	18. オンタリオの言語環境に関する政策（フランス語）
5. 学習・教授・子どもの多様性に応じた指導の理論	12. 特別な教育支援が必要な子ども	19. 安全で安心できる学校及び肯定的な学校環境の創出
6. 学級経営と組織運営	13. メンタルヘルス・薬物依存・福祉	20. 保護者の関与と保護者とのコミュニケーション
7. 子ども・青年の発達と変遷	14. 教育法と実践基準	21. 教育実習

児玉(2022)は、2015年から新たに導入された「公正と多様性」の指針が、この21の科目を横断的に貫いている点を指摘している。下表は児玉(2022)が例示する一部をまとめたものである。教員コンピテンシーが生徒コンピテンシーを育成するとの教員教育方針が現れていると言えよう。

教員養成課程の中核内容 *一部	教員の「公正と多様性」に関するコンピテンシー
2. 子どもの学習に配慮する探究型の研究・データ・評価	児童の民族性、性別、性自認、地域の社会経済的状況を考慮して学力向上策を計画する
16. オンタリオ社会についての理解	公正、多様性、インクルージョン、社会正義について、および障壁の存在を見分けて取り除き、社会を変革するという教員の重要な役割をもつ
19. 安全で安心できる学校及び肯定的な学校環境の創出	異文化コミュニケーション、文化的知識の拡充、社会正義の問題及びすべての子どもに高い期待を寄せる公正と卓越性との強い関連性を理解する

出典：児玉(2022)を参考に調査団作成。

■現職教員教育

現職教員教育においても、オンタリオ教員協会が有料の教員研修を管理している。オンタリオ州では現職教員向けの「追加資格」のコースを提供する機関は 37 にも上る（平田，2020）。現地調査では、追加資格コース提供機関の一つであるトロント大学オンタリオ教育研究所（OISE: Ontario Institute for Studies in Education）で聞き取りを行った。オンタリオ教育研究所では、表 3-17 のように教員養成及び現職研修のほぼすべてのコースを提供している。これらのコースは、オンタリオ教員協会の指導の下に 5 年毎に改訂が行われる。

表 3-17 オンタリオ教育研究所が開設する教員養成・現職教員研修コース

幼稚園から中等教育教員資格	国際的教育実習/ファーストネーション地域の学校長コース/オンタリオ教育研究所による国際バカロレア認定/環境教育の計画/若年者向け教育計画/オンタリオ教育研究所による TEFL 認定/オンタリオ州カトリック学校での教育
追加資格(現職研修)	基礎追加資格 (1~6 年生教員、7~10 年生教員、11~12 年生教員) /追加資格 (1 セッション) /追加資格 (3 セッション) /名誉専門員/校長資格プログラム/技術教育/習熟度テスト
中等教育後の教育	継続教育(生涯学習)/高等教育での学生支援
職場学習・職能開発	成人の学び・開発/コーチングの基礎/学習経験のデザイン
福祉サービス	福祉サービスのオリエンテーション/悲しみの(Grief)教育/認知行動療法/解決志向のカウンセリング・セラピーの基礎
専門学習特別研究員	高等教育における SDGs の促進/起業家精神の育成/教育リーダー/インクルーシブ教育の環境整備/職場学習とパフォーマンス開発の促進

出典：オンタリオ教育研究所のホームページを参照に調査団作成。

1 コースは、通常 7~10 週または 125 時間の履修時間を要し、修了者にはオンタリオ教員協会による資格が付与される。オンタリオ州の全教員はインターネット上で氏名と保有資格が公開されており、保有資格は異動・給与水準を決める大きな要素となる。コースの履修は対面、オンラインの両方を含み、主に夏休みに多くの教員が履修している。コース参加は有料で、基本的に参加者（現職教員）の自費にて賄われるという。1 コース 749 カナダ・ドル（約 8 万円）となっていた。

表 3-17 で示されるコースの中で国際教育（グローバル・シティズンシップ教育）に関わるものは、「環境教育の計画」「高等教育における SDGs の促進」と、追加資格の中に設置されている「司書教員資格コース」がある（「コラム：司書教員資格と国際教育<グローバル・シティズンシップ教育>」参照）。

(2) 学校現場での教員の能力強化

現地調査では、教育委員会による教員研修、校内研修の実施状況を確認した。全体的には教員個人レベルの努力による能力強化の状況が認められた。

まず、行政による教員研修として、オンタリオ州教育省は、教育委員会が最低年間 3 日間の「専門活動日 (Professional Activity Day)」を開催することを義務付けており、教員の自主的な学びを促進していた。この日は児童生徒の登校はなく、教員は研修に集中できる。次に、教育委員会は、「グローバル・コンピテンス」や「デジタル教育」などの新しく重要な取り組みが始まる際に、学校から教員代表を招いて研修を行っている。

学校が行う校内研修は、制度的な形態として専門家共同体 (Professional Learning Community) による教員間の学び合いが確保されていた。マクマリック小学校では、毎月 70 分間が、このような学び合いに割かれることになっていた。また、聞き取りでは、学び合いの狙いが教員のリーダー (Leader Teachers) 育成にあると強調されていたことが特徴的であった。一方、トロント大学附属中等学校では、教員間の学び合いは、全校で行われるというよりも同じ教科の同僚との連携・協力による「授業作り」として説明されていた。

教員による自主的研修としては、上述したオンタリオ政府の教員の「追加資格」制度が挙げられる。教員は自費によって資格を取得し、自己の教員としての能力を向上させるとともに、自らの異動・昇進に向けて有利な条件を形成していくのである。

(3) 国際教育（グローバル・シティズンシップ教育）に関する教員の能力強化

教員養成課程では、各大学が2015年以降の新規科目「公正と多様性」について独自のカリキュラムを将来の教員に提供している。ただし、この課程はコンピテンスベースであり、コースが提供する知識内容に公正性やグローバル・シティズンシップが含まれるというよりも、将来教員となる学生の市民性を涵養するようにデザインされている。

学校現場視察でわかったことは、教員たちはグローバル・シティズンシップについての特別の研修を受けたり、授業デザイン力量を意図的に強化するというよりも、これまでのカリキュラムの延長線上で行っている様子であった。教員たちは、政府認定の追加資格コースや、同僚との日常的なやり取りを通じて、グローバル・シティズンシップに関わる知識や授業方法を個人的に学ぶが、その授業での実現については個人の責任において行っているようであった。

コラム：司書教員資格と国際教育（グローバル・シティズンシップ教育）

21世紀の情報通信技術の発展に伴い、学びの場を教室に限らずオンライン、図書室、その他の場所に拡張する考えが生まれている。この学びの場は情報コモンズまたはラーニングコモンズと呼ばれている。オンタリオ州では、この学びの場をうまく運営する役割を司書教員に託している。

オンタリオ教員協会では、司書教員資格を3段階で規定している。第一段階では「学校授業計画」を、第二段階は「協働的授業及びアセスメント」を、第三段階では「授業リーダーシップ」の専門性を身に付けることとされている。各段階の資格を取得するには、それぞれ125時間の履修時間を要する。第三段階の資格保有者は「専門家」と呼ばれ、第三段階コースの履修には第一・第二段階の修了を必要とする。オンタリオ教員協会が定める司書専門家となるには、費用として2,250カナダドル（約25万円）が必要である（本文に述べたように、この費用は基本的に自費負担である）。

司書資格コースの内容は、ラーニングコモンズ概念とその学校での運用についての知識を得ることである。司書教員コースの紹介動画によれば、インターネットでの単純な検索を越えて、私たちは確度の高い情報にどのようにアクセスできるか、入手した情報をどのように生徒・教員が扱うか、デジタル時代の情報倫理とは何か、などを教員が図書室・教室で生徒と考えることが目指されている。

現地調査で訪問したオンタリオ大学教育研究所の継続職能開発によれば、図書司書と教員が協働して教科横断的な学びをデザインし、それによって国際教育（グローバル・シティズンシップ教育）の効果的な学びを実施しているとのことであった。



出典：デュルハム教育委員会のホームページより引用。

ラーニングコモンズとデータベース研究の様子

3-6 国際教育にかかる教育政策から学校現場の実践までの過程の考察

本節では、ナショナルレベルのカリキュラムにおいて意図された目標や内容が、どのような取り組みや工夫によって各学校の実践に繋げようとしているかを、カナダの事例をもとに考察する。カナダではカリキュラムやその他の教育政策に責任を持つのは州の教育省であり、本節ではオンタリオ州の事例を中心に扱う。ここで意図されたカリキュラムとはオンタリオ州教育省のカリキュラムを意味する。

(1) 教員研修

カリキュラム関連の情報が学校現場に伝達される経路の一つは教員研修である。カナダにおける教員研修は制度化され、ある程度の柔軟さをもつ点に特徴がある。「2-1 カナダの教育概要」の節で述べたように、カナダではPAデーと呼ばれる研修日が教育法で規定されており、全ての教員は年に3回の受講が義務付けられている。教育省はこの研修内容を指定することで、カリキュラム関連の情報を伝達する場を確保していると言える。各教育委員会ではPAデーを学校年度内に最大4日間追加して設定できる。これにより、研修の内容量の点において、教育委員会がその地域の教員のニーズに沿った研究計画を策定する余地が残されている。

PAデーでは複数の教員が同一テーマの研修を受講するが、オンタリオ州教育省は個々の教員のニーズに即した研修の場も提供する。教育省によるウェビナーはカリキュラム関連の情報を直接的に各教員へ伝える機能をもつ。ウェビナーではカリキュラムの改訂内容が扱われるが、そこでは各教科における評価など、教科や対象別の内容が用意されている。この工夫により、教員一人ひとりの興味関心などに対応することができる。ウェビナーの申し込みは教員自身が行うため、参加者数を増やすうえでも、個々のニーズに対応した研修内容は重要であろう。

今回の現地調査の対象であったオンタリオ州トロント市のマクマリック小学校では、校内研修として専門家共同体による学び合いの機会が確保されていた。ここでの学び合いの焦点はカリキュラムの開発や評価に関するものではなく、教員のリーダーシップであった。校内研修の取り組み方やその内容の把握には、今後、幅広い調査が必要になるだろう。

(2) 教育委員会におけるカリキュラム開発

メゾレベルの教育委員会が、意図されたカリキュラムの目標や内容を深く理解することは重要である。その際のプロセスについては、中央からの講義的な研修によって固定化された内容が伝達される形式もあれば、教育委員会がナショナル（または州）レベルのカリキュラムを参考にしつつ、ある程度主体的に目標や内容を設定する形式があるだろう。オンタリオ州は後者の形式であり、メゾレベルの各地区の教育委員会がカリキュラム目標を設定する。トロント地区教育委員会（TDSB）では、2016年に示されたオンタリオ州教育省の21世紀型コンピテンシーをもとに、独自の解釈によって「グローバル・コンピテンシー」を開発・使用している。トロント地区教育委員会（TDSB）による2019年版のグローバル・コンピテンシーでは、州による21世紀型コンピテンシーの一つである「学ぶことを学ぶ/自己認識と自律的学習」が含まれない一方、独自の解釈として、例えば「グローバル・シティズンシップ」に「キャラクター」が追加されている。このような独自の解釈を行う過程を通して、各教育委員会はカリキュラムの理解を深めていると考えられる。なお、この形式が有効に機能するためには、教育委員会にカリキュラム開発の十分な裁量と力量があり、また、教育委員会が裁量をもつことに関して教育関係者の理解があることが前提となる。

(3) アカウンタビリティと関係者の参画

カナダでは、カリキュラムの改訂内容などのカリキュラム情報の公開と、教育関係者からフィードバックについて複数のチャンネルがある。これらは、関係者がカリキュラムに対する理解を深め、カ

リキュラムの実施に部分的にかかわり、また、カリキュラム改訂の議論に参加することでカリキュラムの実装化を高める機能をもつと考えられる。

オンタリオ州教育省では、最新のカリキュラムと関連資料を教育省のサイトで一般公開している。本サイトでは比較表などで前カリキュラムとの変更点が整理されており、これまでの目標や内容との違いを教育関係者にわかりやすく示している。州レベルのカリキュラム文書であっても、カリキュラムの専門家ではない一般の教育関係者に対して身近で親しみやすい形で情報提供される。

教員に対するカリキュラム情報の提供については、前述のようにオンタリオ州教育省が提供するウェビナーがその役割をもつ。一方、ウェビナーは教員からのフィードバックを得る働きも有する。授業計画や実践事例などの教員からのフィードバックは資料として掲載される場合もある。このような取り組みは、現場からのカリキュラムの実装化を高める機能として有効であろう。

また、オンタリオ州では保護者に向けたカリキュラム関連の情報発信が多層的に展開されている点も注目に値する。教育省のサイトでは保護者に向けたカリキュラムガイドが掲載されており、これは、カリキュラムで期待する学習効果に関する情報を含む。このカリキュラムガイドによって、州レベルのカリキュラム情報が保護者に積極的に公開されていると言える。メゾレベルについては、教育委員会によって、PAデーで教員研修が実施される際、カリキュラム改訂に関してどのような教員研修が現在実施されているかの情報が保護者に公開されている。最も身近な授業レベルや学習レベルについては、上述のカリキュラムガイドによって、カリキュラムの内容に関連させ、どのように子どもの学習を支援するかについての情報が保護者に共有されている。このように、オンタリオ州では、州レベル、教育委員会レベル、個々の学習レベルにおいて、保護者に向けたカリキュラム関連の情報発信が多層的に展開されている。これは保護者のカリキュラム改訂に対する不安感を減らすだけでなく、子どもの学習支援に関する情報を含めることで、保護者がカリキュラムに実施に部分的に関わる機会を提供しつつ、学校での授業実践への関心を高めることに繋がる可能性をもつ。

カナダではカリキュラムの改訂などの情報を一般市民、教員、保護者に公開または提供することで、透明性を確保するとともに、カリキュラムの実装を進める戦略を採っていると言える。

(4) 各学校でのカリキュラム開発への支援

現代的な諸課題を扱う学習や教科など横断的な学習、さらに探究的な学習では、育成を目指す資質・能力、扱うテーマや働かせる各教科の見方・考え方を検討するなど、各学校においてカリキュラム開発が求められる。このような創造的な活動は教職の魅力の一つと言えるが、多忙な教育現場でこれを実装するには改革や工夫が必要となる。各教員が自主性や創造性を発揮できる場を確保するため、総合的な働き方改革が必要であることは言うまでもないが、加えて、カリキュラム開発に関する直接的な支援も重要である。オンタリオ州における司書教員 (Teachers' Librarian) 制度は、各学校でのカリキュラム開発の支援を行う取り組みとして参考になるだろう。

3-7 フェーズ I 時点からの変容

これまで見てきたカナダ（特にオンタリオ州）の教育制度・教育課程、国際教育に関する基本政策・方針、国際教育に関する学習内容、学校現場での実施体制・指導方法について、フェーズ I 時点（調査期間：2011 年 12 月～2014 年 3 月）から変化した点を以下に示す。なお、以下の表には第二分冊で述べる開発援助機関等の国際教育関与についてのフェーズ I 時点からの変化も含まれている。

項目	フェーズ I 時点の状況	今回の調査時の状況
教育制度 教育課程	<p>【オンタリオ州】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育段階・教科目によって異なるが、主として 2011 年以前に策定された教育課程を使用 「学習スキルと学習習慣 (Learning Skills and Work Habits)」で定められた 6 スキルが重視 (①責任感、②自己管理能力、③課題解決能力、④コラボレーション、⑤学習への積極性、⑥自律性) 	<p>【オンタリオ州】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育段階・教科目によって異なるが、多くの教科目が 2013 年以降に改訂された。近年改訂されたものとしては 2022 年改訂の「科学とテクノロジー」(1～8 年生)、「科学」(9 年生)、「カナダと世界学」(10 年生)、2023 年改訂の「社会と地理・歴史」(1～8 年生)、「英語」(1～8 年生)、「英語」(9～12 年生)、「コンピュータ学」(9～12 年生)である。 2010 年にカリキュラムに含まれるようになった「学習スキルと学習習慣」(6 スキル)も依然として有効ではあるが、2019 年には「社会・情動的学習スキル (Social-Emotional Learning Skills)」(6 スキル、①感情の管理、②ストレスの対処、③前向きな動機、④関係構築、⑤自己意識の深化、⑥批判的、創造的思考)、2020 年には「転移可能なスキル (Transferable Skills)」(7 スキル、①批判的思考と問題解決、②イノベーション、創造性、起業家精神、③自律的学習、④コラボレーション、⑤コミュニケーション、⑥グローバル・シティズンシップと持続可能性、⑦デジタル・リテラシー)が開発され、現行のカリキュラムに含まれている。 上記の「転移可能なスキル」は 2016 年に開発された「21 世紀型コンピテンシー (21st Century Competencies)」(6 スキル、①批判的思考と問題解決、②イノベーション、創造性、起業家精神、③学ぶことを学ぶ/自己認識と自律的学習、④コラボレーション、⑤コミュニケーション、⑥グローバル・シティズンシップ)が基本になっている。 教育課程において「ビッグアイデア (Big Ideas)」と「枠組みをもった問い (Framing Questions)」という新概念が導入された。
国際教育に関する基本政策・方針	<p>【連邦政府】</p> <ul style="list-style-type: none"> シティズンシップ・移民省 (Department of Citizenship and Immigration Canada: CIC) が推進するシティズンシップ教育 (シティズンシップ週間、ガスタディガイド『Discover Canada』、あなたはどれだけカナダ人か?) と多文化主義教育 (毎年 2 月「Black History Month」、5 月の Asian Heritage Month)。 	<p>【連邦政府】</p> <ul style="list-style-type: none"> CIC が 2015 年にカナダ移民局 (Immigration, Refugees and Citizenship Canada: IRCC) に改組されたが、シティズンシップ教育は依然として推進 (スタディガイド『Discover Canada』の内容更新はされず)。

	<ul style="list-style-type: none"> 民族遺産省 (Department of Canadian Heritage) が推進するシティズンシップ教育 (Exchange Canada、Canadian Studies Program: CSP)。 <p>【オンタリオ州】</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバル社会においてよりよく生きていくために広い視野をもち、積極的に世界に目を向け、自分とは異なった文化や環境についても理解でき、協調できる態度を養いことが重要であるとの基本的な考え方から、「社会科」(1~6年生)、「カナダの歴史と地理」(7~8年生)、「カナダと世界学」(9~12年生)の教科目を中心に国際教育が実践。 	<ul style="list-style-type: none"> 民族遺産省は多文化主義教育の一環として、「カナダを祝う (Celebrate Canada)」というプログラムを開始し、6月21日を「先住民の日 (National Indigenous Peoples Day)」、6月27日を「多文化主義の日 (Canadian Multiculturalism Day)」、7月1日を「カナダの日 (Canada Day)」における催しに資金提供を行っている。 <p>【オンタリオ州】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「社会と地理・歴史」(1~8年生)、「社会科学と人文」「カナダと世界学」「ファーストネーション・メイティ・イヌイット学」(ともに9~12年生)などの教科目を中心に国際教育が推進されている。特に、最新の教育課程では「グローバル」や「シティズンシップ」ということが以前よりも強調されている。
国際教育に関する学習内容	<ul style="list-style-type: none"> N/A 	<ul style="list-style-type: none"> カナダでは21世紀の複雑な社会を生き抜く上で必要な能力として「グローバル・コンピテンシー」の習得が重要という共通認識がなされており、教育行政の各層において「グローバル・コンピテンシー」を定義し、モデルを開発している。 <ul style="list-style-type: none"> ▶CMEC：汎カナダ・グローバル・コンピテンシー ▶オンタリオ州教育省：21世紀型コンピテンシー ▶トロント地区教育委員会 (TDSB)：グローバル・コンピテンシー 初等教育の「社会と地理・歴史」の教育課程及び教科書には以前よりも国際教育、現代的諸課題に関連した内容が多数掲載されるようになった。ただし、そのことがそのまま学校現場での授業実践に反映されているかとは地域差が大きい。
学校現場での実施体制・指導方法	<p>【トロント大学オンタリオ教育研究所付属校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境教育の先進的な学校で、優秀な教員の環境教育実践をまとめた冊子『Natural Curiosity: A Resource for Teachers』を作成し、教員間で共有している。 図書室の司書と協力し、新刊書や新しく購入した図書についての教員への通知、教員から必要な図書のリクエストなど教職員との密な情報交換をしている。 <p>【ブルーヴェイル中等学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> オンタリオ州が促進するエコ・スクール認定校で環境教育の先進校である。 地元の企業 (IT 企業が多い) が求める 21 世紀の人材を育てる Future Forum Project (FFP) が実践されており、「生徒自らが主体的に学習に関わる」ことを目指して、「英語」「職業教育」「シティズンシップ」といった教科目を統合して、新たに「Book Club」や「Civic Mirror」といった授業を創造して画期的な授業実践を行っていた。 	<p>【トロント大学附属中等学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 9年生の地理の授業では、ある地域の気候の要因を探究的に学習する授業実践が行われた。気候の要因を六つ提示し、各要因について4人のグループで情報収集し、後で自身のグループで説明し合うというものであった。 ジグソー法を用い、かつ学習内容を「科学」とも関連させた実践であった。 <p>【マクマリック小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校低学年 (1~8年生) では各教科別の授業ではなく、教科統合的な授業実践が中心となっている。 4年生の「芸術」「算数」「言語」を統合した授業実践で、公共空間に飾るランドマーク的な価値のある芸術作品をデザインするという授業実践であった。

<p>開発援助機関などの国際教育への関与</p>	<p>【独立した開発援助機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> • カナダ国際開発庁（Canadian International Development Agency: CIDA）はグローバル教育を積極的に推進。 • Public Participation Program (PPP) (1971～95年) : CIDA が国際教育を実施する NGO に資金供与をして間接的な関与を行うというスキーム。ただし資金許与の規準が不明確という指摘もあった。 • Global Classroom Initiatives (GCI) (2002～2010) : 若者がグローバルな視点をもって思考することが重要であるという考えに基づいて、グローバル教育の教材開発や教育活動を資金提供によって支援していくスキーム。これまで85のプロジェクトが実施され、調査時点ではそのうち14プロジェクトが実施中であった。 • Global Citizens Program (GCP) (2010～) : グローバル市民として積極的に国際開発・国際協力に参加していくことを目指して、①啓蒙、②教育と知識、③若者の参加、の三つを柱とした活動である。特に「若者の参加」には International School Twining Initiatives (ISTI、カナダ国内の中学校と開発途上国の学校をインターネットで繋いで生徒が討論)、International Youth Internship Program (IYIP、カナダの19歳から30歳までの若者を対象に、国際的な経験と技術、知識を習得してもらおうと同時に、国際開発に対する深い理解を目的とした活動)、International Aboriginal Youth Internships Initiatives (IAYI、カナダ先住民を対象とした上記 IYIP と同内容の活動) 	<p>【開発援助機関の統合】</p> <ul style="list-style-type: none"> • CIDA は2013年に外務国際貿易省 (Department of Foreign Affairs and International Trade: DFAIT) に統合され外務貿易開発省 (Department of Foreign Affairs, Trade and Development: DFATD) となった。その後、再び改組され、現在のグローバル連携省 (Global Affairs Canada: GAC) となった。 • 現在 GAC では国際教育に関する活動は直接的には行っていない。「Global Issues & Development Branch」及び「Partnership Department」において、①国際教育を行っている外部組織への資金提供、②国際的なグローバル教育会議への人材派遣、③カナダ人ボランティア派遣などが中心的な業務である。 • 以前、市民参加とグローバル・シティズンシップに対する理解を促進する目的で「Virtual Engagement Resource Centre for All」というホームページを立ち上げたが、現在はほとんど使われていない。 • 実は、このホームページは、①意識啓発、②理解、③行動、といった一連の活動を通じて国際教育をカナダ市民に浸透させていく狙いがあり、CIDA の下で行われていた GCP と名称は異なるものの、その目的は一貫したものがあったと言える。
--------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

付属資料1：教科「社会と地理・歴史」（1～8年生）の学習内容

目標				
<ul style="list-style-type: none"> 責任感をもち、居住する多様な地域社会において積極的な市民となる。 批判的に思考し、包含的な社会に価値を見い出す知的な市民となる。 重要な開発事項や出来事などについて、そこに内在する問題を解決し、アイデアや意見を出して話し合うことができる。 				
成果				
<ul style="list-style-type: none"> 開発事項や出来事を探索するために、学際的思考の概念を活用する能力を発展させる。 情報や証拠を評価したり、判断を行ったりするために適切な基準を設定して、活用する能力を発展させる。 分野別の課題解決や他の分野への移転が可能なスキルや個人的な属性を発展させる。 協調的で協働的な関係を構築する。 情報を収集・分析したり、問題を解決したり、コミュニケーションをとったりするために適切な技術を使う。 				
学習内容				
学年/領域	社会分野 (遺産とアイデンティティ)	社会分野 (人々と環境)	地理分野	歴史分野
1年生	私たちの役割と責任の変化	地域社会	なし	なし
2年生	家族と地域社会の伝統の変化	グローバル・コミュニティ	なし	なし
3年生	1780年から1850年の間のカナダの地域社会	オンタリオでの生活と労働	なし	なし
4年生	1500年頃の初期社会	カナダの政治的・物理的な地域	なし	なし
5年生	1713年以前の先住民とヨーロッパ人の交流、何がカナダに起こったのか？	政府の役割と責任ある市民	なし	なし
6年生	カナダの地域社会、過去と現在	カナダのグローバル・コミュニティとの交流	なし	なし
7年生	なし	なし	変化する世界の物理的パターン、世界の天然資源：その使用と持続可能性	新しいフランスとイギリスによる北アメリカ：1713-1800年
8年生	なし	なし	カナダの創造：1850年から1890年：変化する社会	カナダの創造：1850-1890年

注：網掛け箇所は国際教育に関係する内容。

付属資料2：教科「科学とテクノロジー」（1～8年生）の学習内容

目標				
<ul style="list-style-type: none"> 研究、実験、工学設計のスキルを応用して、自分自身の生活や地域社会の人々の生活における複雑な問題の解決策を見つけることができるようになる。 STEM分野における問題解決のカリキュラム横断的かつ専門分野横断的な性質を理解することができる。 世界の脅威と畏怖を認識し、環境問題や社会問題を解決する科学技術の力と限界について楽観的かつ現実的になれる。 科学技術の進歩が意図した結果と意図しない結果を注意深く考慮することができる。 科学的リテラシーと技術的スキルを開発することで、洞察力のある国民となり、科学技術の疑問に対する答えを見つけることができるようになる。 自分達と将来、STEM分野または技能産業分野に貢献するメンバーとあると考えられるようになる。 自分自身を科学的発見と技術革新に貢献できる豊かな社会的及び文化的背景を備えた、自信に満ちた効果的な科学技術者であると考えられるようになる。 自分達の生活や地域社会の人々の生活に影響を与える科学技術上の問題にお対する、効果的、公平、包括的、持続可能な解決策を発見する。 先住民の知識とそれを獲得する方法の重要性、そして多様な視点がSTEM分野における現在の課題にどのように役立つかを認識できるようになる。 				
成果				
<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の研究に必要なスキルを開発し、人脈を築く。 科学技術を社会、経済、環境などの変化する世界に結び付ける。 科学技術の概念を探求し、理解する。 				
学習内容				
学年/領域	ライフ・システム	物質とエネルギー	構造と機能	地球と宇宙システム
1年生	生物の必要性和特徴	私たちの生活におけるエネルギー	日常の素材、物体、構造物	毎日の天気の変化と季節の変化
2年生	動物の成長と変化	液体と固体の性質	簡単な機会とその動き	環境における空気と水
3年生	植物の成長と変化	力と動き	強く安定した構造	環境における土壌
4年生	住処とコミュニティ	光と音	機械とその構造	岩と鉱物と地質的プロセス
5年生	人間の健康と身体の仕組み	物質の性質と変化	構造に作用する力	エネルギーと資源の保存、気候変動
6年生	生物多様性	電氣的現象、エネルギーと装置	飛行	宇宙、気候変動
7年生	環境との相互関係	純物質と混合物	形、機能、デザイン	環境における熱、気候変動
8年生	細胞	体液	動きの構造	水循環

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料3：教科「社会科学と人文」（9～12年生）の学習内容

目標					
（「社会と地理・歴史」に同じ）					
<ul style="list-style-type: none"> 責任感をもち、居住する多様な地域社会において積極的な市民となる。 批判的に思考し、包含的な社会に価値を見出す知的な市民となる。 重要な開発事項や出来事などについて、そこに内在する問題を解決し、アイデアや意見を出して話し合うことができる。 					
成果					
（「社会と地理・歴史」に同じ）					
<ul style="list-style-type: none"> 知識を獲得し、その理解を十分なものにする。 計画力、情報処理能力、批判的・創造的思考力が活用できる。 各種情報やアイデアをまとめ、口頭や文書など様々な方法で正確に表現することができる。また多様な人々と円滑にコミュニケーションが取れる。加えて慣習的な語彙の使用及び口頭、視覚的あるいは書面による専門用語を理解できる。 獲得した知識やスキルを日常の文脈に応用できると同時に、新しい文脈にも移転できる。また多様な種類の内容を共通点をもとに一つにまとめることができる。 					
学習内容					
学年/ 領域	家族研究	社会科学の概要 （人類学、心理学、社会学など）	公平性の研究	哲学	世界の宗教
9年生	家族について考える	なし	なし	なし	なし
10年生		なし	なし	なし	なし
11年生	ファッションと家屋、食料と栄養、一般的な家族研究、子育て	人類学、心理学、社会学の導入	ジェンダー研究、公平性・多様性・社会的正義	哲学（大きな問い〈The big questions〉）	世界の宗教と信仰（視点・問題・課題）日常における宗教と信仰
12年生		社会における挑戦と変化	公平性・多様性・社会的正義における理論から実践、世界の文化	哲学（問いと理論）	なし

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料4：教科「カナダと世界学」（9～12年生）の学習内容

目標						
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の知識を身に付け、理解を広げる。 批判的思考力及び創造的思考を働かせる。 多様な方法を通して、自分自身の考えを表現できる。 多様な内容を結び付けるために知識やスキルを有効に用いる。 						
成果						
<ul style="list-style-type: none"> 開発事項や出来事を探索するために、学際的思考の概念を活用する能力を発展させる。 情報や証拠を評価したり、判断を行ったりするために適切な基準を設定して、活用する能力を発展させる。 分野別の課題解決や他の分野への移転が可能なスキルや個人的な属性を発展させる。 協調的で協働的な関係を構築する。 情報を収集・分析したり、問題を解決したり、コミュニケーションをとったりするために適切な技術を使う。 						
学習内容						
学年/ 領域	一般	経済	地理	歴史	法	政治
9年生	カナダの地理	なし	なし	なし	なし	なし
10年生	第一次世界大戦後のカナダの歴史、公民性と市民性 (Civics and Citizenship)	なし	なし	なし	なし	なし
11年生	なし	個人と経済	地域の地理、自然の力（物理的過程と災害）、旅行学（地理的視点）、空間技術	アメリカ史、15世紀末までの世界史、出身地と市民権（カナダの民族史）、1900年以降の世界史（グローバル及び地域的な相互関係）	カナダ法の理解、日常におけるカナダ法の理解	政治活動（変化をつくる）
12年生	なし	現在の経済課題の分析、個人の経済的選択	世界課題A（地理的分析）、世界地理（都市傾向と人口問題）、環境資源管理、空間技術の活用、世界課題B（地理的分析）、持続可能な世界	カナダ（歴史、アイデンティティ、文化）、15世紀以降の世界史、世界史の冒険	カナダ法と国際法、法学	カナダ人と国際政治

注：網掛け箇所は国際教育に関係する内容。

付属資料5：教科「ファーストネーション・メイティ・イヌイト学」（9～12年生）の学習内容

目標	
<ul style="list-style-type: none"> • 現代のかつ伝統的なファーストネーション、メイティ、イヌイトについての歴史、文化、視点、貢献についての知識を獲得し、それらに対する感謝の意識をもつ。 • 私たちが居住する国家や州についての知識を習得する。こうすることで誤った知識や社会文化的な考え方に對して自信をもって立ち向かい、修正することができる。 • 学習のための道具や方法、知識を獲得し、公平性、包含性、効果ある変化、急速にグローバル化する社会の中で健全で繁栄した地域社会の建設に一役担えるようになるとともに、カナダの先住民、移民、そして政府との間に強い協力関係を構築することができるようになる。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> • 地球上のあらゆる地域に居住する先住民の文化、言語、歴史、権利、視点をよりよく理解するとともに、カナダの発展に関わるファーストネーション、メイティ、イヌイト個人や地域社会の役割を尊重することができるようになる。 • 多様性、国家間の関係構築、環境、社会的公平性、文化的アイデンティティについての現実世界の問いに関して、先住民に関する課題について批判的かつ創造的に思考し、ファーストネーション、メイティ、イヌイト学の本質的理解と鍵概念を活用することができるようになる。 • 先住民とカナダ政府との間の和解を促進するための敬意をもった相互関係を構築することができる。 • 研究を基本とした文化的に優れ、学際的な学習を促進する本質的なスキル、方法、習慣を発達させる。 • 情報の収集、分析、問題解決、コミュニケーションにおいて適切な技術を道具として使うことができる。 	
学習内容	
9年生	<p>ファーストネーション、メイティ、イヌイト文化の表現</p> <ul style="list-style-type: none"> • 様々な芸術分野（舞踊、演劇、インスタレーション、パフォーマンス） • 先住民文化、メイティ、イヌイトの視点や文化を芸術作品を通して探求 • 文化的アイデンティ、歴史、価値観、プロトコル、そして認識と存在の方法についての理解
10年生	<p>カナダのファーストネーション、メイティ、イヌイト</p> <ul style="list-style-type: none"> • ヨーロッパ人との接触前の段階の先住民文化、イヌイトの歴史の理解 • メイティの誕生から現在に至る歴史の理解 • 過去の社会的、文化的、経済的、政治的、法的傾向の継続的な影響 • 先住民文化、メイティ、イヌイトの個人とそのコミュニティの発展 • 先住民文化に影響を与えた様々な問題や出来事の調査 • カナダの先住民と非先住民との関係
11年生	<p>現代のファーストネーション、メイティ、イヌイトの声、視点についての理解、カナダにおけるファーストネーション、メイティ、イヌイト社会の世界観と願望</p> <ul style="list-style-type: none"> • 先住民文化、メイティ、イヌイトから出現した情報、グラフィック、口頭文化、さらに文学作品から彼らの文化について理解 • 先住民文化、メイティ、イヌイトのアイデンティ、関係性、自己決定、主権、自治などを検討
12年生	<p>世界的文脈における現代の先住民課題とその視点、カナダのファーストネーション、メイティ、イヌイトのガバナンス</p> <ul style="list-style-type: none"> • 先住民文化の視点から地球規模の問題について検討 • 先住民文化、メイティ、イヌイトの文化、伝統、知識の不可さと多様性の探索 • 現在において多様な先住民コミュニティがどのように存続しているかを調査 • 地球環境や経済の動向、アイデンティ、社会正義、人権、精神性、回復力などをテーマに調査

注：網掛け箇所は国際教育に関係する内容。

付属資料6：教科「科学」（9～12年生）の学習内容

目標				
<ul style="list-style-type: none"> 物質、エネルギー、システムと相互関係、構造と機能、持続的な開発の可能性、変化と継続といったそれぞれの領域における個別の事実やスキルを超えて、より大きな概念、原則、プロセスを理解できるようになる。 科学とテクノロジー、社会、環境を結び付けて考えることができる。 科学的な調査やコミュニケーションのスキルを向上させる。 基本的な概念を理解する。 				
成果				
<ul style="list-style-type: none"> 科学を技術、社会、環境と結び付けることができる。 科学的探究に必要なスキル、戦略、心の習慣を開発する。 科学の基本概念を理解する。 				
学習内容				
学年/領域	生物学	化学	地球と宇宙科学	物理学
9年生	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能なエコシステム 持続可能なエコシステムと人間活動 動物：構想と機能 哺乳類の解剖学 	<ul style="list-style-type: none"> 原子、元素、化合物 物質の探索 	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙の探索 宇宙探査 気候変動、自然災害 	<ul style="list-style-type: none"> 電気の性質 電器の応用
10年生	<ul style="list-style-type: none"> 生物の細胞、内臓、機能 細胞、内臓、システム 	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応 化学反応とその実践的応用 	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動 地球のダイナミックな気候 	<ul style="list-style-type: none"> 光と幾何光学 光と光学の応用
11年生	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性 細胞生物学 遺伝とそのプロセス 遺伝学 植物：解剖学、成長と機能 自然界の植物 	<ul style="list-style-type: none"> 物質、科学傾向、化学結合 化学反応の質 溶液と溶解度 ガスと大気化学 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の環境変化への科学的解決策 環境における人間への影響 人間の健康と環境 持続可能な農業と林業 エネルギー保存 廃棄物の削減と管理 天然資源科学と管理 地球の誕生プロセス 安全で環境に優しい職場 	<ul style="list-style-type: none"> 運動学 力 エネルギーと社会 波と音 電気と磁界
12年生	<ul style="list-style-type: none"> 生物化学 分子遺伝学 ホメオスタシス 人口ダイナミクス 	<ul style="list-style-type: none"> 有機化学 物質と質的分析 エネルギー変化と反応割合 電気化学 化学系と平衡 化学計算 電気化学 環境の化学 	<ul style="list-style-type: none"> 天文学 惑星科学 地球の地質学的歴史 地球の物質 地球の変化が地球上の生物へ与える影響 	<ul style="list-style-type: none"> ダイナミクス 運動とその応用 医療技術 エネルギーと勢い 機会システム 重力、電気、磁力 電器と磁界 光の波 エネルギーの変換 現代物理学改革：量子力学と特殊相対性理論 油圧及び空気圧システム

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 7：教科「学際的研究」（11～12 年生）の学習内容

目標		
<ul style="list-style-type: none"> 現在の生徒は、前例のない社会、科学、経済、文化、環境、政治、技術の問題に直面している。これらの問題に対処するためには、問題自体に焦点をあてた学際的なスキル、特に研究プロセス、情報管理、協働、補完的かつ創造的な思考、技術的応用に関連するスキルが必要であり、こうした能力を養う。 コアカリキュラムを通じて習得したスキルをさらに強化できる、分析、解釈、総合、評価の新しい方法と形式を身に付ける。 十分に発達した情報学のスキルと知識をもつ生徒は様々なキャリアでの市場性が高まる。例えば、科学研究のグローバルネットワークを使用して情報を取得し、データを管理する方法を知っている生徒は大学などの研究室で働く機会を得る可能性が高い。こうした高度な研究方法を習得することを目的としている。 		
成果		
<ul style="list-style-type: none"> 革新的な方法で、多様な分野の概念とスキルを硬直し、相互接続できるようになる。 幅広い印刷物、メディア、電子及び人的リソースから複雑な情報を分析及び評価する能力を開発する。 独立して協力して計画を立てて作業することを学ぶ。 確立された技術と新しい技術を適切かつ効果的に適用できるようになる。 様々な分野の調査及び研究方法を使用して問題を特定し、単一分野の範囲を超えた解決策を検討することができるようになる。 問題を複数の視点から見て、自分の思い込みに疑問を投げかける能力を養うとともに、その理解をより深める。 より高いレベルの批判的及び創造的思考スキルを活用して、様々な分野からの方法論と洞察を統合し、革新的な解決策を見つけることができるようになる。 学際的なスキルと知識を新しい状況、現実世界のタスク、職場の状況に適用し、既存及び潜在的な個人的及びキャリアの機会について豊かな理解を深めることができる。 学際的な活動を利用して、思考のプロセス思考を刺激、調整、評価し、学習方法を学ぶ。 		
学習内容		
モジュール A	11 年生	<ul style="list-style-type: none"> 応用ジャーナリズム：メディア・アート、起業家、メディア学、コミュニケーション技術、職場での準備 信仰・信念・イメージ：美術、世界宗教・信念・日常生活、哲学・大きな問い 情報管理：公民、職場での準備・キャリア学、日常生活での数学 情報学入門：メディア学、16 世紀までの世界史、20 世紀に世界史・グローバルな視点・地域の視点、哲学・大きな問い、コンピュータ・情報科学 スポーツと社会：舞踊、ビジネス入門、職場での準備、健康で快活な生きた教育
	12 年生	<ul style="list-style-type: none"> 考古学研究：カナダ史・アイデンティティ・文化、古代文明、地球と宇宙科学、考古学・心理学・社会学入門、データ管理の数学 経済的安全性の構築：会計の原理、データ管理の数学、社会の挑戦と変化 人権：カナダと世界の政治、カナダ法と国際法、文学研究、メディア学 音楽と社会：音楽、世界史・西側と世界、文学研究、人類学・心理学・社会学入門、技術的デザイン 教育学：先進的な学習戦略・中等教育以降の成功を勝ち取るためのスキル、現代社会における先住民の信念・価値・願望、古代文明、人間の成長と発展 ユートピア社会：美術、世界史・西側と世界、古代文明、文学研究、社会の挑戦と変化、哲学・大きな問い、世界宗教・信仰・宗教的伝統 高齢化と社会：社会の挑戦と変化、子どもの発達と老齡学、健康で快活で生きた教育、文学研究 建築学：美術、世界地理・都市形態と相互関係、古代文明、日常生活での数学、職場での準備 情報とシティズンシップ：グローバルな文脈での先住民問題、カナダ法と国際法、コミュニケーション技術

		<ul style="list-style-type: none"> 情報管理とコミュニティ・リーダーシップ：起業学・ベンチャー計画、レクリエーションと運動のリーダーシップ、社会の挑戦と変化 学習と数学：先進的な学習戦略・中等教育以降の成功を勝ち取るためのスキル、人弦の成長と発展、大学数学と実習の数学
モジュール B	11 年生	<ul style="list-style-type: none"> 応用デザイン：コミュニケーション技術、メディア・アート コミュニティの環境のリーダーシップ：職番での準備・キャリア学、公民、健康で快活で生きた教育、子どもと生活し、活動する 信仰と文化：職番での準備、世界宗教・信仰と日常生活 接客マネジメント：マーケティング入門、接客 地元のフィールド研究とコミュニティとの繋がり：健康で快活で生きた教育、環境・資源管理、フィールド生態学 小規模ビジネス運営：技術的デザイン、職場での準備、起業家 生物学と人間成長：生物学、社会の挑戦と変化
	12 年生	<ul style="list-style-type: none"> バイオ科学：生物学、化学 児童文学：文学研究、美術 文明の情報：古代文明、世界宗教・信念・宗教的伝統 知識管理と学習組織：組織学・組織行動と人材、社会の調整と変化 数学的モデリングと応用プログラミング：データ管理の数学、コンピュータと情報科学 芸術行政：芸術、組織学・小規模美辞寝る管理、職場での準備 情報化時代の先住民族：グローバルな文脈での先住民族、メディア学 科学とコミュニティ：職場での準備

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。